* [[81](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C81)]
* **SOFTLY、レココレのXTC、宝塚記念、映画あれこれ**
* 投稿者：w
* 投稿日：2022年 6月23日(木)04時28分12秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C88%5C)

本日発売の山下達郎11年ぶりのニューアルバムをタワレコからのフライング配達で昨日CD入手したCD聞きながら書き込んでます。全曲サンデーソングブックの放送で聴取済みですが、前作より音の隙間が多くてライトな第一印象があったものの、CDで聞くと強靭さと生々しさが増してます。自動と人力のバランスも良い。特に映画挿入曲4曲はどれも映画初見時より好感触。やっぱりフィジカルで聞くのは嬉しい。3年ぶりの7月大阪フェスティバルホールが楽しみです。

雑誌レコードコレクターズは年代別ロックアルバムベスト200企画をやっていて、先々月号は60年代(ペットサウンズを抑えてヴェルヴェッツ1stが1位)、先月号は70年代(狂気&ゼップIVを抑えてエイジャが1位)で、今月号は80年代(予想通りリメインインライトとヨシュアトゥリーのワンツー)。70年代編では完全に黙殺されたXTC、選者では赤岩和美氏ただ一人が『Go2』を選んだのみ(VdGGを選んだのも赤岩氏だけ)。それが80年代編では一変し、なんと5位に『Skylarking』、32位『English Settlement』、57位『Black Sea』、76位『Oranges & Lemons』、92位にこれまたなんと『Psonic Psunspot』と100位内に5作もエントリー。200位に広げても5作だけなので、この5作だけに集中している感。他も傑作だと思うけど。。。。それにしても日本での『Skylarking』の別格的な評価の高さ！またPrefab Sprout『Steve McQueen』が10位、Scritti Politti『Cupid & Psyche 85』が14位で、これら3作は日本で突出して(というかレココレ周辺で?)評価が高い感じ。何しろThe Smiths, Joy Division, R.E.M.のどのアルバムよりもランク上ですからね。次号は90年代編ですが、XTC派としては果たして200位内に入るかな、という杞憂も多少。

今週末のG1は毎年恒例の楽しみの宝塚記念。阪神競馬場の当日指定席は去年に続いて抽選外れでしたが、その後に追加応募した一般席入場券の抽選はどうにか取れました。こちらも3年ぶりの宝塚記念現地観戦が叶います。大阪杯に続いてエフフォーリアを生で見られます。エフフォーリアとしては大惨敗した大阪杯のリベンジの場ですが、同じ阪神芝だし同じことを繰り返さないかという心配も。

今回の出走馬は、そのエフフォーリアに、天皇賞(春)の1，2着のタイトルホルダーとディープボンドが加わるという、ここ数年で最も高レベルなメンバー。エフフォーリアとディープポンドは去年の有馬記念の1，2着だし、タイトルホルダーは菊花賞と天皇賞(春)と阪神芝で立て続けで圧勝している馬。何も考えなければこの3頭で決まりそうですが。他にも2年前に無敗牝馬三冠達成のデアリングタクト、大阪杯勝ちのポタジェ、海外で実績を積んだパンサラッサ、オーソリティ、ステイフーリッシュとかなり豪華。宝塚記念としては滅多にない18頭フルゲートになりそうですし、大いに楽しみです。

[>>79](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C79)
> 映画は
> 詳しくはまた別途。
[>>80](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C80)
> 映画は話題作は一応拾っていますが追いつかなくなりつつあります。
> 詳しくはまた別途。

4月以降に見た映画について詳しくは書けていないので個別に。ネタバレあるかもですが、どうか一つ鷹揚に。

「チタン」クローネンバーグのクローンかなという先入観を一掃する怪作。逃亡劇からゾンビーズを経て共依存ドラマへ急旋回した辺りが肝。ヴァンサン・ランドンがスティーヴン・ラングみたいな筋骨隆々親父に変貌しているのにはびっくり。人命救助シーンでの「マカレナ」には「水を抱く女」における「ステイン・アライブ」の衝撃が甦りました。

「アネット」スパークスの楽曲が主役かというミュージカル。サントラ愛聴してます。マリオン・コティヤールはもちろん、アダム・ドライバーも歌うまい。それにしてもアダム・ドライバーはこういう自滅男の役が多すぎ。

「英雄の証明」ファルハディ監督ならではの、過去の遺恨と各登場人物の思惑のズレが主人公達を取り返しのつかないところまで追いつめる様を描く悲劇。イランの司法のバグや、善行がそれを行った人を破滅させる点で「白い牛のバラード」も思い出したり。監督が原案を盗作したと告訴された件(しかも女性から)まで含めて、どこにも救いは無さそう。

「スパークス・ブラザーズ」素晴らしすぎるドキュメンタリー。幼少時代から現在までの貴重なフッテージ、現在の本人と往年の関係者と熱烈なフォロワーのインタビュー、アニメなど追加映像から構成。リアルタイムでは見たことのなかったTV出演シーンやビデオクリップ、最近のライブ映像はどれも貴重。Todd Rundgren, Muff Winwood, Giorgio Moroderが特に恩人だったことも痛感。フォロワーもBeckからDuran Duranまで多種多様。最後に「Annette」に言及し、兄弟念願の映画実現だったことも分かったので、本作を先に見た方が期待が上ったかも。

「モービウス」おそらくスパイダーマンNWHと同時期に(別バースで)起きた話と考えるとレベルとして雲泥の差。マット・スミスが虚弱な親友役で収まるのかと思ったけど、やっぱり。しかし「ヴェノム」といい、ソニー製MARVELはまともなユニバース化への目算があるのかよくわからないです。

「潜水艦クルスクの生存者たち」皆が結末を知っている悲劇の顛末。冒頭がまるで「ディア・ハンター」みたいで、その時点で嫌な予感しか無い。英国ら他国が懸命に手を差し伸ばしても、ロシアは機密と人命を天秤に懸けたという描写がこのタイミングで見るとなんとも。マックス・フォン・シドーの遺作だそうですが、観衆からの怒りを最も買うであろう役で涙。

「親愛なる同志たちへ」(今なぜか流行りの)モノクロ映画。まるでコスタ・ガブラス「ミッシング」の如く、保守派の親が、我が子が巻き込まれて初めて自分が信じてたシステムは民を簡単に蔑ろにするのだと思い知る話。デモ隊への無慈悲な銃撃や偽装された墓場のシーンはソ連時代の昔話ということを飛び越す力を持つタイムリーさ。

「ふたつの部屋 ふたりの暮らし」ある意味「ナチュラルウーマン」と同じく、子供の介入によって親のパートナーを孤立無援にする話。そのパートナーも移民の介護士の職業機会を奪ったため、その報復を受ける展開を挟むことで、単純に解決しない後味が残ります。理想は「人生はビギナーズ」みたいなのでしょうけど。

「パリ13区」(今なぜか流行りの)モノクロ映画。性愛に翻弄される人物を巡る群像劇というところですが、SNS被害で「アンラッキー・セックス」や「英雄の証明」、スタンダップコメディで「アネット」とシンクロ。セリーヌ・シアマと組んだことで、オディアール作品としては穏やかで美しい着地を見せてもらえた印象。

「ZAPPA」素晴らしすぎるドキュメンタリー。幼少時代から晩年までの貴重なフッテージ、生前の本人と往年の関係者と熱烈なフォロワーのインタビュー、特撮？など追加映像からなる。ライブ映像もすごいけど、家族写真とか、リアルタイムで見たこと無かった「Valley Girl」のビデオクリップとかも嬉しい。一貫して「Abusolutely Free」であることこそがZappaの行動原理と実感。Ruth Underwoodのインタビューは感動的。Steve VaiとMark Keneallyの証言もとても面白く。この影響でZappa後継者という観点で彼らの作品を聞き直し中。またラストに流れる「イースターのスイカ」ギターソロがまた素晴らしくて、Zappaのギターソロ作品も重点的に再訪中。

「アンラッキー・セックスまたはイカれたポルノ 監督<自己検閲>版」いかにもベルリン映画祭が好みそうな実験作。自己検閲版ということで、ポルノシーンを隠すマスクを露悪的で挑発的な文言で埋め尽くすことで一層面白い仕上がりに。3部構成の内、改めて見直したいのは荒廃して殺伐としたブカレストの風景をただひたすらに垂れ流していた第一部です。

「カモン カモン」(今なぜか流行りの)モノクロ映画。「人生はビギナーズ」「20センチュリー・ウーマン」同様にマイク・ミルズ監督の自伝的な内容かなと想像。叔父と甥の距離を詰める"録音"行為について「平凡なものを不滅にするのはすごくクール」と評したのはすごく痺れる名台詞。しかし自分の幼い子供よりも夫の面倒を優先せざるを得ない姉の姿は見ていていたたまれませんでした。

「ツユクサ」トラウマを抱える人が秘密を抱える人と出会う話。西伊豆に行ったばかりなのでロケ地に見覚えあり。しかし"踏切のない場所"というのが西伊豆をドラマの舞台を選んだ理由かと納得。航平くんが松重豊とルートビアを飲むシーンと、ベンガルがラジオ体操中に太極拳ポーズを決めるシーンはやたら思い出します。

「ドクター・ストレンジ/マルチバース・オブ・マッドネス」」トビー・マグワイア期スパイダーマンよりも断然サム・ライミ味全開なので、うちの奥さんはたまげてました。ただメインプロットは「スパイダーマン２」に似てるかな。ワンダがX-Menのジーンみたいに闇落ちするのは、「ワンダ・ヴィジョン」見てない私はびっくりしたけど、見た人も混乱する展開だったみたい。しかしどこに向かうのかMCUフェーズ4。次の「ソー」もマルチバースに向かうのかな？

「インフル病みのペドロフ家」ソ連時代のロック映画「LETO」の監督作ですが、大幅にスケールアップ。長回し多用ながら主体も場所も時代も自由に飛びまくり、70年代と90年代と現代がシームレスに隣り合い、「最後の決闘裁判」のような羅生門ドラマの要素もありつつ、インフル病みの幻惑のせいか、どこまで真実か虚構かはわからない作りに。主人公はそもそも漫画家なので、ソ連自体の雪むすめの思い出以外は虚構なのかも。

「死刑にいたる病」トラウマを抱える人が秘密を抱える人と再会する話。同じ白石監督の「凶悪」の変奏かと思いや、もっと残虐で悪魔的な怪物映画でした。「孤狼の血LEVLE2」に続いての残虐狂人シリーズと言えそう。でもラストが一番いやかな。

「シン・ウルトラマン」見終わった瞬間は、これで相対的に「シン・ゴジラ」の株が爆上がることを確信。終盤の地球の最期になるかもしれない日常の描写は傑作「ドント・ルック・アップ」の後では見劣るので、"これで最期だ"とは誰も覚悟してなかったように思えました。今回のリブートで勝ったのはメフィラス山本耕史だけかという感じもあるけど、あの莫大ゼットンに「ゼッットンッッッッ」言わせた時にはすべて許しました。米津「Ｍ八七」愛聴しています。

「流浪の月」トラウマを抱える人が秘密を抱える人と再会する話。松坂桃李演じる文の動機がミステリでしたが、言葉でなく画でしっかりと見せました。しかし「凪のお暇」のうららちゃんこと白鳥玉季がこんな難役をこなす様になるとは。将来は杉咲花や蒔田彩珠みたいな有望株になりそう。

「呪術廻戦0」TVアニメ版(というか原作本編)の前日譚ということで、百鬼夜行とは虎杖の知らない別バースの出来事？と勘違いしながら見てました。ゲゲゲの鬼太郎や孔雀王や幽遊白書の系譜の作品として文句無しだと思いますが、原作も現時点で相当風呂敷が広がっているので次はどうなりますか。

「トップガン マーヴェリック」故トニー・スコットの出世作というべき前作のみならず、「ライトスタッフ」や「スターウォーズEP4」へのオマージュも強めで、おまけに「クリード」の如く死んだ盟友の息子とのドラマまで貪欲に包含。前作から唯一連投してきたアイスマンのシーンには私もつい感動。ただF-14を無理矢理に引っ張り出すための展開はハチャメチャで、ここは素直にワイスピ級だと思いました。そして来年はイーサン・ハント再び、となるし、パラマウントはマジでトムにおんぶにだっこ状態。

「帰らない日曜日」単なる悲恋物などではなく、とある名作家が生まれるトリガーとなった決定的な1日を回想し、想像力で補完して作り上げた話と理解。「(孤児として生まれた)あなたは何も失うものがない。それがあなたの強みだ。」は失ったばかりの人には苛烈すぎる台詞ですけど、主人公はその後の何十年もこの言葉に支えられたのでしょうねと(想像)。冒頭で疾走する馬の４本目の脚の持ち主をラストで回収する美しさも。

「オフィサー・アンド・スパイ」3年前のヴェネチア映画祭審査員特別賞。冤罪事件の当事者でも告発者でもなく、冤罪の証拠を押さえた陸軍の諜報局長が主役。19世紀の話なのに忖度/隠蔽/妨害/左遷/醜聞と昨今聞き慣れた展開のオンパレード。こういう人類の進化しない部分を伺い知るために温故知新という言葉があるのかなとも。

「ニューオーダー」2年前のヴェネチア映画祭審査員特別賞。メキシコの富裕層の結婚式からデモ隊の暴動/略奪/殺戮を経て戒厳令が敷かれる最悪への事態へと突き進む苦々しいディストピアムービー。恐ろしいのは勝者は富裕層と貧困層のどちらでも無かったという結末。まさしく漁夫の利。

「冬薔薇」トラウマを抱える人は主人公よりもその両親。一見「祭りの準備」のような故郷との決別ドラマに見えたものの、徹頭徹尾覚悟の無い主人公にそんな輝ける未来が待っているのか、という話か。TVドラマの出演が増えてきた毎熊克哉も映画では下っ端チンピラ役が多く、今回は最も悲哀を感じる役に。「エール」の浩二こと佐久本宝も重要な役。

「FLEE フリー」難民かつゲイという素性は二重に祖国に知られてはならないためにアニメにしたという労作。10年以上前の「君のためなら千回でも」とは対照的な側面が描かれ、ソ連侵攻後は父親が逮捕されたことを除けば自由で幸せだった、ソ連撤退後からが地獄、ソ連に避難後はソ連崩壊後からが地獄、北欧への脱出もあまりに過酷、と想像を越える証言に打ちのめされます。UNHCR主催の難民映画祭を何度か見に行ったことを思い出しました。こういう世界/現実/人生に、誰かが陥るかも知れないのだと。なお、当時の音楽としてa~haとロクセットが使われてて「アフガニスタンで聞かれていたとは意外」と思ったけど、どちらも非英米の欧州発のグループというのはポイントかも。

「はい、泳げません」トラウマを抱える人が秘密を抱えつつ克服した人と出会う話。「Shall we ダンス?」みたいなの？と思ってたら「ドライブ・マイ・カー」に近い再生ドラマの趣。冒頭の納豆と中盤の2分割にはびっくり。しかし「竜とそばかすの姫」といい「鎌倉殿の13人」といい、川遊びはマジ危険。

最後にTVドラマ、春クールの総評には尚早なので大河と朝ドラだけ。「鎌倉殿の13人」は、後白河法皇、工藤祐経と曽我兄弟、大姫と蒲殿、という調子で毎週続々退場。さあいよいよ大泉洋の退場も超近い。本当の地獄はそこから先(ああ嫌だ)。「ちむどんどん」はアッラ・フォンテーヌでの花登筺スタイルの立身出世物語となぜか新聞社のドラマを無理矢理並行継続中。歌子の将来やニーニーの覚醒への道も五里霧中。でもまだドラマの半分も進んでいない状態なので、7月以降にまた大きな転機がありそう。独立かやんばる帰還かオーナー交代か。

* [[80](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C80)]
* **GW、春G1、XTC、スパークス、ザッパ、ちむどん、そして鎌倉殿**
* 投稿者：w
* 投稿日：2022年 5月31日(火)23時58分58秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C87%5C)

GWを挟んでいろいろなことがありました。知床観光船沈没事故、上島竜兵急逝、道志村人骨発見、阿武町誤給付事件、マリウポリ陥落、etc。佐々木朗希完全試合など大昔のことのよう。藤子不二雄A、柳生博、小坂忠、イビチャ・オシム、渡辺裕之、松永怜一、おおつぼマキ、ヴァンゲリス、レイ・リオッタ、レスター・ピゴット、などなど思い出の多い方々の旅立ちも。

今年のGWは10連休ということもあり、前半は下田まで足を伸ばし、伊豆半島を一周しました。目当てはやはり温泉巡りで、海沿いの二大有名である露天風呂東海岸の黒岩根風呂と西海岸の沢田公園露天風呂、強アルカリ泉の観音プリンシプル、千人風呂で知られる金谷旅館などを満喫しました。いずれも前から行ってみたかったので感激。他には下田の海中水族館やペリーロード、西海岸の恋人岬などもそこそこ賑わっていました。観光地としては一安心でしょう。後半は奈良のお寺で滝行してきましたが、さすがに5月は肌寒い。

競馬は桜花賞も皐月賞も外れて4月までG1全敗でしたが、5月の天皇賞(春)以降は先週の日本ダービーまで連勝で一転絶好調。特に天皇賞とダービーは人気サイドでしたが面白いレースでした。勝ったタイトルホルダーとドウデュースは海外でも通用するかも。敗れたディープボンドとイクイノックスにも栄冠が輝く日が来てほしいものです。

Burning Shedからの品が続々届き、Andyのボツ曲セルフカバー第二集は今回もCD+アナログで購入。今回も多種多様な意匠で楽しいです。が、あっという間に聞き終わるのがやっぱり物足りなくも。『Mummer』アナログは、中身は当然文句なし。一番好きなのは「Ladybird」ですが、Colinの曲もまたいいのです。今思えばDukesの前哨戦のようなサイケな趣も。新ジャケットは最初からのこのデザインがよかったかと思いつつも、モノクロなんでより渋味が更に増しました。あと先月見たドキュメンタリー映画の影響で、SparksとFrank Zappaはついつい棚から手に取ってしまいます。どちらも米国カリフォルニアが生んだ異端の音楽家同士。一番よく聞くのは『弱い者いじめ』と『ジョーのガレージ』、その次は『恋の自己顕示』と『ザ・ギタリスト・パ』、その次が『No.1 in Heaven(※)』と『万物同サイズの法則』辺りです。

※この作品って1979年でVirginなのに、なぜか当時日本盤が出なかったのか今でも不思議。Human LeagueやOMDやJohn Foxxなどテクノ物やCaptain BeefheartやCANなどのカルト系？もビクターからちゃんと日本盤が出てましたからね。

さて朝ドラと大河がリードする昨今のTVドラマシーン、「ちむどんどん」は暢子が先週レストランでやっと賄いを任せられたのに本田博太郎(笹川刑事部長と演じ分け無し!)のせいで新聞社に派遣されて和彦と再会するという展開に目まいが。前3作の朝ドラより大分クオリティを下回っていると思うけど、借金もニーニーの悪行もどうでもよくなっている比嘉家の面々に、なんかこっちも楽しくなってきています。ただゴールはどの辺を目指すのかよくわからず、「てっぱん」なのか「まれ」なのか、はたまた「ごちそうさん」なのか、という感じです。
そして血生臭さが止まらなくって来た「鎌倉殿の13人」。4月の第15回で上総介、5月の1週目(17回)で義仲と冠者殿、2週目(18回)で平家、4週目(20回)で九郎、そして5週目(21回)で藤原氏と八重が退場。しかしこのハイペースだといずれ頼朝が消えるのも近く、13人も初夏には早々に揃いそう。そしてとにかく小四郎の変節というか、闇落ちの予感が怖いです。

NHKは「正直不動産」「17才の帝国」に夜ドラと「義経のスマホ」(狙いすましたこのタイミング！)といずれも目覚ましい内容ですが、相対的に民放ドラマが目立ちません。やたらサスペンスが多いですが、「パンドラの果実」「マイ・ファミリー」「インビジブル」が面白いかなというところ。後は「悪女」「持続可能な恋ですか？」「メンタル強め美女白川さん」に見どころありかなという感じ。そして続編が多いなあ。ちょいとネタ切れタイミングでしょうか。

映画は話題作は一応拾っていますが追いつかなくなりつつあります。「ドクターストレンジMOM」と「シン・ウルトラマン」は初日に見に行きました。ドクターストレンジはとうとうにDisney+シリーズまでフォローしないとフォローできないという、ハリウッドも日本のTVドラマの劇場版と同じになったんだという感慨があります。シン・ウルトラマンはここまで中高年男性が見に集まった映画も珍しいなという印象。そして奥さんがTV版を見終わったというタイミングで「呪術廻戦0」をやっと鑑賞。今月で終了だからぎりぎりでした。最近は邦画の話題作が多くて「ツユクサ」「死刑にいたる病」「流浪の月」など。洋画は「潜水艦クルスクの生存者たち」と「親愛なる同志たちへ」とロシア/ソ連への視線が一層冷たくなる映画に、「モービウス」「ふたつの部屋 ふたりの暮らし」「カモン カモン」「アンラッキー・セックス」、「インフル病みのペドロフ家」そして前述の「ZAPPA」も。詳しくはまた別途。

* [[79](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C79)]
* **鎌倉殿、春G1大波乱、カムカム大団円、2022年1月～3月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2022年 4月10日(日)04時41分23秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C86%5C)

[>>78](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C78)
ぱとさん、こんばんは。

> 日曜朝に再放送されていた「黄金の日々」と現行大河「鎌倉殿」を交互に見て
> 一週間分まとめて再放送「カーネーション」と現行朝ドラ「カムカム」を見て
> 菅田将暉の九郎義経と久能整が脳内で交錯し、わが家のレコーダーがいつ故障するか気が気ではありません。

日曜早朝のBS大河は私も「太平記」「黄金の日日」と連続で完走しました。終盤の五右衛門と桔梗のそれぞれの最期は、昔リアルタイムで見た時同様に泣きそうになりました。この次は「草燃える」か「平清盛」辺りが見たかったのですが、橋田壽賀子「おんな太閤記」は夏目雅子のお市と藤岡弘の信長に後ろ髪ひかれつつ今回はパス。BSは「ウルトラセブン」も終わったので日曜朝の楽しみは当分はニチアサがメインに。

「鎌倉殿」は頼朝や政子もですが、特に今回の義経の造形には感心するばかり。独善的で自滅傾向の強い義経像は今まで見たことが無かった気がします。源平合戦については、「真田丸」での関ケ原のようにさらっと通り過ぎる予感も少々。

> 江口のりこの亀が意外や文筆をたしなむ才女で政子をたじたじとさせる場面には
> 心の中で喝采してしまいました（弁の立つ天然パーマの才女といえば、連想するのは清少納言）

先週分の見せ場の一つでしたね。側妻の座に就くにも陰ながら弛まぬ鍛錬や努力があったという描写。江口のり子をここに起用した意味がわかりました。女性陣に無駄なキャラがほぼ無いのも素晴らしい。他では、八重が北条泰時の母になる？(「草燃える」の茜(松坂慶子)のポジション？)という流れにびっくりしたり、源義高(呂宋助左衛門から2代後の染五郎)の登場に早くも心がざわついたり、穏やかな回の様でいて盛りだくさん。

> そして善児。オープニングに彼の名前が出てくると「今夜は誰が」とざわざわしますね。

「草燃える」の伊東祐之(滝田栄)みたいな架空キャラポジションかな？ぐらいの見立てでしたが、想像以上の怪物キャラでした。もしや今後の全鎌倉殿の最期に関わってきたりして。

> 『My Failed Songwriting Career Volume 2』いつもならBurning Shedに注文するのですが、ちょうどウクライナへロシアが激しい攻撃を始めたころでしたのでディスクユニオンに予約しました。

うちにも発送連絡来ました。でも確かに無事に届くかどうか心配ですね。

> そういえばVdGGのUKツアー最終日のバース公演でカメラ8台がまわっていたそうで、もしかしたら映像リリースでは？と現地で観た人たちが呟いています。Every Bloody EmperorにRefugeesを演奏したのはバンドの姿勢の反映でしょうか。

それは朗報ですね。楽しみです。先日Pink FloydがウクライナのバンドBoomboxのAndriy Khlyvnyukとコラボした新曲を発表したり、プロテストの動きが活発になっている感があります。

[>>77](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C77)
> 今週末のG1大阪杯は去年に続いて抽選外れ。阪神開催のG1当日は去年からずっと現地観戦できずです。この様子ではコントレイルやデアリングタクトと同じくエフフォーリアもその雄姿を目の前で見ることが出来なさそう。

と書きましたが、キャンセル待ちを狙って何度もサイトアクセスしたところ、どうにか当日のスマートシートを確保。晴れてG1大阪杯を現地観戦し、去年の年度代表馬を遂に生で見てきました。嗚呼それなのに、エフフォーリアは馬群に沈み、初の大敗で場内騒然の大波乱。無理して私が見に行ったのが悪かったのか？そして本日はG2阪神牝馬Ｓを見に来たら、今度は大本命アカイトリノムスメが発走直前にケガで競走除外してしまい、レース自体今週も大波乱。2週連続で現地観戦してからの疫病神状態。明日の桜花賞も思いやられます。

> ここまで来ると大風呂敷を綺麗に畳み込むのを見守るだけかと思うのですが。あとは何か残っているかな。城田優は結局誰？きぬちゃんとその子孫はどう絡む？竹村クリーニング店とナイト&デイのその後は？片桐さんはあれっ切り？ビリーはまた出てくる？まぁ掘り返せばきりがないですね。

カムカム最終週は怒涛の伏線回収劇でした。片桐さん(風間俊介)がほったらかされたことを除けば、すべて回収されました。それにしても最終回になって明らかにされた、ビリー(城田優)による全112回のラジオ英語講座内のひなたファミリーヒストリーのナレーション(叙述)だったという物語構造にはただただ驚き。寓話的だったり御都合主義すぎたりした展開も最初から織り込み済みだったことに。ただ藤本有紀は常に落とし前を付けに行く人だとわかっていたから納得するものの、あれほどの大量の遺恨や心残りを後回しにしてきた作劇も前例なかったような気も。最後はすっきりしたものの、道中は過去の悔恨がずっと心にひっかかり、終盤になるほどしんどかった感じは否めません。あとは何で映画村だったんだろう、というのが気になっていましたが、これは単にBK視点として、「わろてんか」で吉本、「おちょやん」で松竹を取り上げたのだから、今回は東映で行きまひょ、ということでしょうか。なお最終回で一番アガったのは、"夫の田中"よりも、マーシャ・クラッカワーさんの名を聞いたことでした。自分も小中とNHK第二の「基礎英語」「続基礎英語」を聞いていましたので、懐かしー。

映画は「チタン」「アネット」「英雄の証明」という去年のカンヌを席巻した作品と、「アネット」とタイミングを合わせての公開？の「スパークス・ブラザーズ」を見ました。詳しくはまた別途。なおSparksはかつては『恋の自己顕示』『スパーク・ショー』『No.1 in Heaven』『弱い者いじめ』『官能の饗宴』などいろいろ愛聴してたのに、ここ20年ぐらいはアルバム2枚ぐらいしか追えてなかったことに今頃気付きました。他の音楽家にもこういうことがありそう。Bill Nelsonとか、Phil Manzaneraとか、Squeezeとか。

では、最後の1月～3月に劇場で見た映画の星取り表を。

◎１月
マトリックス レザレクションズ ★★★★
キングスマン：ファースト・エージェント ★★★☆
ダーク・ウォーターズ 巨大企業が恐れた男 ★★★★☆
マクベス ★★★★
スパイダーマン：ノー・ウェイ・ホーム ★★★★★
クライ・マッチョ ★★★☆
ハウス・オブ・グッチ ★★★★
Coda コーダ あいのうた ★★★★☆
フレンチ・ディスパッチ ザ・リバティ、カンザス・イヴニング・サン別冊 ★★★★☆
声もなく ★★★★

◎２月
水俣曼陀羅 ★★★★★
さがす ★★★★★
スティルウォーター ★★★★☆
ウエスト・サイド・ストーリー(IMAX) ★★★★☆
ちょっと思い出しただけ ★★★★
白い牛のバラッド ★★★★☆
ドリームプラン ★★★★

◎３月
GAGARINE／ガガーリン ★★★★
MEMORIA メモリア ★★★☆
THE BATMAN -ザ・バットマン- ★★★★☆
茜色に焼かれる ★★★★
春江水暖～しゅんこうすいだん ★★★★☆
ナイトメア・アリー ★★★★★
ベルファスト ★★★★★
ニトラム/NITRAM ★★★★☆

* [[78](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C78)]
* **大河と朝ドラ、ミステリと云う勿れ**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2022年 4月 5日(火)09時57分32秒
* FL1-119-238-120-32.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C85%5C)

ｗさん、こんにちは。
番組欄より予約した録画一覧からピックアップすることが多くなってきました。
日曜朝に再放送されていた「黄金の日々」と現行大河「鎌倉殿」を交互に見て
一週間分まとめて再放送「カーネーション」と現行朝ドラ「カムカム」を見て
菅田将暉の九郎義経と久能整が脳内で交錯し、わが家のレコーダーがいつ故障するか気が気ではありません。

江口のりこの亀が意外や文筆をたしなむ才女で政子をたじたじとさせる場面には
心の中で喝采してしまいました（弁の立つ天然パーマの才女といえば、連想するのは清少納言）
そして善児。オープニングに彼の名前が出てくると「今夜は誰が」とざわざわしますね。

『My Failed Songwriting Career Volume 2』いつもならBurning Shedに注文するのですが、ちょうどウクライナへロシアが激しい攻撃を始めたころでしたのでディスクユニオンに予約しました。Burning Shed予約組には発送通知が来たそうで、私の手元に届くのはまだ先になりそうです。
『Mummer』アンディも気に入っていたデザインなのでギリギリになったら買ってしまうかもしれません。

そういえばVdGGのUKツアー最終日のバース公演でカメラ8台がまわっていたそうで、もしかしたら映像リリースでは？と現地で観た人たちが呟いています。Every Bloody EmperorにRefugeesを演奏したのはバンドの姿勢の反映でしょうか。

ワクチンはファイザー3回接種して、3度目の副反応が（38℃までは上がりませんでしたが）いちばんきつかったですー。でも感染・発症した時の後遺症について深刻な記事を読みましたので打たないという選択はなかった。

* [[77](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C77)]
* **センバツ、春G1到来、アカデミー賞、そしてカムカムはフィナーレへ**
* 投稿者：w
* 投稿日：2022年 3月30日(水)01時51分52秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C84%5C)

ウクライナ侵攻は停戦の見通し立たぬまま、ひと月を経過。意外なことにウクライナ関係の業務は停滞しつつも進んでいます。第6波はよくわからないまま収束に至り、第7波の兆しも少しありますが、なぜか日常は前2年よりは平穏な気がしています。正常性バイアスなのかも知れないのですが。

いつの間にか冬季パラリンピックは終わり、7大会連続でサッカーW杯出場が決まり、センバツも始まりました。今年こそは甲子園に見に行くつもりでしたが、外野席前売券を買った日に在宅勤務指示が急に来たり雨天中止になったりで、とうとう今年もダメでした。。。有力校の多くは早めに消えてしまい、こうなると不戦勝の運が転がり込んできた大阪桐蔭で仕方ないかという感じでしょうか。大会中に力を付けてきている近江も気になるところですが。

春競馬はG1シーズン到来。蔓防解除で競馬場内での飲酒もできるようになりましたが、入場制限は依然継続。阪神競馬はG2阪神大賞典とG3毎日杯は見に行けたのですが、今週末のG1大阪杯は去年に続いて抽選外れ。阪神開催のG1当日は去年からずっと現地観戦できずです。この様子ではコントレイルやデアリングタクトと同じくエフフォーリアもその雄姿を目の前で見ることが出来なさそう。それにしても今年の競馬は去年よりも更に難しく、毎週のように人気薄の馬が爆走。先週の高松宮記念も複穴のワンツーで難しかったです。できれば一回でも高配当を射止めたいところですが。

今年も3月21日(ナイアガラ記念日)恒例のナイアガラお布施。今年は『Niagara Triangle Vol.2 (40th Anniversary Edition)』。去年のロンバケ40thに迫る勢いで、40周年記念VOXはアナログ7インチx3に、CDx3と、Blu-Ray-Audiox1という圧倒的ボリュームのコレクターズアイテム。このところこればっかり聞いています。40年前だから『English Settlement』『Avalon』『For You』『Peter Gabriel IV』『Nightfly』『Night And Day』らと並ぶ高2の思い出の音です。そして通常版はCDx2なのですが、これがなんとVOXと被らない内容なのでこちらも買うことに。今年のお布施も厳しいぜ。さすがにアナログ2枚組までは手が出ないですが。

そうそう、4月の『My Failed Songwriting Career Volume 2』は注文済ですが、5月の『Mummer』も予約してしまいました。Vinylオンリーと聞いたときは見送りつもりでしたが、あの新ジャケットを是非手にしたくて。そして最近の新譜で愛聴しているのは、なんとTears For Fearsの新作『The Tipping Point』。これがかなりいい。去年のKorgisと匹敵する英国ポップバンドの底力を感じます。現世界が「ルール・ザ・ワールド」の時代に逆戻りするとは夢にも思わなかったですが。

そろそろ昨日のアカデミー賞の話題を。先週末に「ナイトメア・アリー」と「ベルファスト」を見ることができ、「リコリス・ピザ」を除く作品賞候補をすべて鑑賞済の状態での結果待ちでした。本選前にこんなに多くを鑑賞済みでいられた年は異例ですね。作品賞は本命「パワー・オブ・ザ・ドッグ」,対抗「ベルファスト」,大穴「コーダ あいのうた」と予想。脚色賞を「ドライブ・マイ・カー」ではなく「コーダ」が取った時点で作品賞も持っていかれるかと予感しましたけど。しかし配信会社配給作品(Apple TV+)がとうとう作品賞を取ったと言われつつ、NETFLIXの「パワー・オブ・ザ・ドッグ」が監督賞一冠止まりで、NETFLIX全体でもその一冠だけ受賞ということは何を意味するのか。NETFLIXだけが極端に会員に嫌われている状態なのか。そして「コーダ」は監督賞のノミネートすら無かったのに、ノミネートされた3賞をすべて受賞という明暗。わからないものです。まあ毎度アカデミー賞は面白いです、単に予想する側としては。

「ナイトメア・アリー」と「ベルファスト」はどっちも面白かったです。「ナイトメア・アリー」はギレルモ・デル・トロながらギリアムっぽい話だなと思っていたらピカレスク・ロマンに急旋回する異色作。ギレルモ印のファンタジー要素やホラー要素が前景化しなかった点も異色。末路と言うべき結末には結構痺れました。キャストもこれまでになく豪華だし、もはや巨匠の域ですね。地元シネコンのレイトショーで見たけど超ガラガラだったのは悔しい。「ベルファスト」は北アイルランド紛争期の少年ドラマ。何の前触れもなくコミュニティに分断が生じる哀しみに胸を打たれます。今では困った人扱いのヴァン・モリソンの曲が満載で、どれも映画世界より後の70年代以降の曲ばかりでしたが、改めて名曲ばかり。『Into The Music』辺りを聞き直したくなりました。

あとは何度目のリブート？の「ザ・バットマン」も良かった。まだ「ヒーロー」としての自我を確立する前のブルース・ウェイン/バットマンを描くという趣で、「ゾディアック」みたいに敵が正体不明のサスペンスや「L.A.コンフィデンシャル」を彷彿させるノワール物みたいな趣向も面白い。今回のリドラーが正体を明かすまでが長かったけど、そこからが特に面白かったです。他にはミニシアター系では、ちょっとセンチメンタルな立ち退き団地ファンタジー?の「ガガーリン」、アビチャッポンの世界がコロンビアの辺境に溶け込む「メモリア」、無差別銃乱射犯を生んだ家族の答えのないドラマ「ニトラム」など。

あとは「茜色に焼かれる」と「春江水暖」の再上演を落穂拾いで。キネ旬邦画2位「茜色」は池袋暴走事故を下敷きにしながらも全く異なる地平に連れて行かれる映画。尾野真千子の真意の意外性に感じ入ったり、永瀬正敏の天使ぶりに驚いたり。面白かったけど「すばらしき世界」や「空白」より上ってことはないかな。キネ旬洋画7位「春江水暖」は4人兄弟の子供世代がすべて一人っ子という、かの中国政策前後の三世代の大家族ドラマ。立ち退き/取り壊し/廃墟など良き思い出が壊されて行く風景が心に残ります。遠泳の長回しもすごい。「長江哀歌」や「長江 愛の詩」と並ぶ"大河"の映画でもあり、富春江といえば80年代に出た『春江花月夜/中国中央民族楽団』を高校時代に愛聴してたことを思い出しました。中村とうよう氏の10点献上作品でもありました。

[>>76](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C76)
> この次は算太の過去の負債への落とし前を付けることになるのか。
> まずジョーと音楽との縁を再び結び付け、そしてるいと安子の間の遺恨を取り除き、最終的には日本とアメリカとの絆を繋ぐのではないかと夢想します。
> その最初のトリガーが「東京生まれ」で「実家」を飛び出してきた五十嵐とのロマンスかなと想像するのですが。
> 後は、恋→障害→破局→第3者の後押し→ゴールイン、まで行くのかどうか。

いよいよ残り8話となった「カムカムエブリバディ」、そうですね、やっぱりと思う所と、まさかという所もそれぞれ。想定通りだったのは、算太との再会がるいが過去を見つめ直すトリガーとなること、ジョーがトランペットを諦めることで音楽の再スタートを切ること、ひなたが英語に改めて向き合うことがハリウッド版時代劇への手助けとなること。想定外だったのは、ひなたと五十嵐との再会に10年も要したことと、アニー平川=安子(ですよね)が自らの意思で日米の懸け橋になろうとしたこと。まさか「ラストサムライ」に福本清三をキャスティングした奈良橋陽子に相当する人を充てるとは思いませんでした。ここまで来ると大風呂敷を綺麗に畳み込むのを見守るだけかと思うのですが。あとは何か残っているかな。城田優は結局誰？きぬちゃんとその子孫はどう絡む？竹村クリーニング店とナイト&デイのその後は？片桐さんはあれっ切り？ビリーはまた出てくる？まぁ掘り返せばきりがないですね。

冬クールドラマも続々終了。残すところは「となりのチカラ」と「科捜研の女」ぐらいか。「カムカム」「鎌倉殿」「恋せぬふたり」「しもべえ」らを揃えたNHK勢が最強なのはいつものこと。民放では「ミステリと言う勿れ」と「妻、小学生になる。」が抜きんでいた観がありますが、どちらも原作未読なのも加味しているかも。「ファイトソング」「となりのチカラ」「ゴシップ」「おいハンサム!」もクセ強ですけど楽しく見ました。意外と「ドクターホワイト」「逃亡医F」「ユーチューバーに嫁はやらん!」もだんだん面白くなってきたかな。深夜ドラマでは「封刃師」がかなりの快作でした。他は「シジュウカラ」「部長と社畜の恋はもどかしい」「ケイxヤク」「愛しい嘘」「鉄オタ道子、2万キロ」「まったり!赤胴鈴之助」も楽しみました。そうそう「相棒20」の冠城亘の卒業も後味悪くなくてよかった。こうしてみると、当初は不作クールだと思ったけど、意外と楽しいクールでした。

最後にここ最近の訃報。一言では言えない、聞けば動揺する名前が続々。西村賢太、シル・ジョンソン、イアン・マクドナルド、アイヴァン・ライトマン、松鶴家千とせ、ゲイリー・ブルッカー、川津祐介、西村京太郎、三沢淳、松村雄策、ウィリアム・ハート、宝田明、佐藤忠男、青山真治、大伴良則。合掌。

* [[76](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C76)]
* **ウクライナ、カムカム、キネ旬、アカデミー賞**
* 投稿者：w
* 投稿日：2022年 2月28日(月)23時47分27秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C83%5C)

あっという間に悲喜こもごもの冬季五輪終了。コロナ禍もピークアウトしたとされてもなかなか収束しませんが、自分の周囲は今のところ無事であります。それよりもとうとうウクライナへのロシア軍の侵攻が始まりました。キエフには海外の協力会社の拠点が在るため、全く対岸の火事などではなく、ダイレクトに今の業務に直撃します。それはともかく現地の人の無事を祈るしかありません。しかしひでえな露。

遂に第３章ひなた編が始まりました「カムカムエヴリバディ」。自立心に満ち溢れてしっかりしてた上の世代と対比的に、３ヒロインの中で最もボンクラに描かれているのは、ひなたと同じ年生まれとしてはしっくり来ます。今日の第83話の白熱オーディションは神回というか、二代目モモケンと虚無蔵の確執だけでなく、モモケン二代間のわだかまりの氷解にまで至るかなりの重要回だった模様。この次は算太の過去の負債への落とし前を付けることになるのか。この第３章は、前２章で残された二つの大きな心残りを回収する章であることは間違いなく、まずジョーと音楽との縁を再び結び付け、そしてるいと安子の間の遺恨を取り除き、最終的には日本とアメリカとの絆を繋ぐのではないかと夢想します。その最初のトリガーが「東京生まれ」で「実家」を飛び出してきた五十嵐とのロマンスかなと想像するのですが。まず、一人で店番する娘→やって来た若い男の客→別の場所で偶然再会、までを実にこれまで3回繰り返しているので、後は、恋→障害→破局→第3者の後押し→ゴールイン、まで行くのかどうか。

約1月前にキネ旬ベストテン発表。邦画と洋画の1位が「ドライブ・マイ・カー」と「ノマドランド」で全くの予想通りでしたが、２位は「茜色に焼かれる」(未見)と「ボストン市庁舎」(272分上映!)とは結構意外でした。邦画は濱口竜介ワンツーかと予想したけれど。なぜだか長時間映画やドキュメンタリーが近年は上位に来ますね。上位予想とその結果は以下の通り。

邦画
１位予想 ドライブ・マイ・カー→１位
２位予想 偶然と想像→３位
３位予想 すばらしき世界→４位
４位予想 空白→7位
５位予想 由宇子の天秤→８位

洋画
１位予想 ノマドランド→１位
２位予想 プロミシング・ヤング・ウーマン→３位
３位予想 ファーザー→５位
４位予想 パワー・オブ・ザ・ドッグ→８位
５位予想 アメリカン・ユートピア→４位

アカデミー賞ノミネートが発表され、それに乗った「ウエスト・サイド・ストーリー」と「ドリームプラン」を今月見ました。授賞式前に見られるのはここまでか。スピルバーグ版リメイクはシャーク団にちゃんとプエルトリコ系を起用したり、人種やジェンダーの分断描写など現在視点でのバージョンアップを端々に感じさせ、特にドクの店の店主にリタ・モレノを起用したのは最新基軸でしょう。今も有効な分断への怒りに涙するか、「America」「Cool」「Something's Coming」など登場場面を変えつつも半世紀を経ていまだ色褪せぬバーンスタインの調べの煌めきに感激するか。ロバート・ワイズ版との比較は好みの話でしょうが、でもまあオープニングの鮮烈さとラストの絶望感はワイズ版に軍配か。「ドリームプラン」は、星一徹というより亀田史郎を思い出せるような、数奇な家族のドラマで、スポーツのサクセスストーリーの歓喜よりも、ジュニアスポーツ界の光と影を炙り出す「結果論的美談」の赴き。原題からはシェークスピア悲劇も仄めかされてんだと後から気付いたりも。

アカデミー賞作品賞候補１０作品中でこれまで見た７作品では、「ドント・ルック・アップ」が一番面白く考えさせられて好きですが、その次が「ドライブ・マイ・カー」、本命視される「パワー・オブ・ザ・ドッグ」は３番目。でも「ドライブ～」以外はネトフリ映画なんですよね。アカデミー会員はネトフリを認めるのかどうか。ちなみにわたしはまだ劇場以外では見てません、ネトフリ。

今月は他には洋画では「スティルウォーター」「白い牛のバラッド」、邦画では「水俣曼荼羅」「さがす」「ちょっと思い出しただけ」と見逃しそうだった良作をなんとかキャッチアップ。どれもすごかったのですがまた今度。TVドラマも「鎌倉殿」が面白くて大変なのですがまた今度。

* [[75](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C75)]
* **水島新司さん...**
* 投稿者：w
* 投稿日：2022年 1月31日(月)05時53分6秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C82%5C)

[>>74](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C74)
> 明けましてだいぶたちましたが元気にしております。
> 本年もよろしくお願い申し上げます。

もう2月ですが、今年もよろしくお願いいたします。

> 新規感染者数が比較的下火になった12月のあいだに通院を終えたので結果オーライでした。

それは良かったです。私は今回の年始の帰省はどうしようかと思いましたが、その後の猛烈なぶり返しぶりに、今回もパスして正解だったかなとも。

> それにしても「A LONG VACATION VOX」「原子心母 箱根アフロディーテ50周年記念盤」
> なんと聴きごたえのありそうなセット。

とにかくボリュームに圧倒されます。気軽におすすめはできないですが。でも「箱根アフロディーテ」はもの凄い鮮明な映像に度肝を抜かれました。パンフやチケットやポスターの復刻やフォトブックなどのおまけがついて税抜き6千円は、これはお得なのは確かです。

しかし嬉しい悲鳴というかご無体な荒稼ぎというか、CDなどパッケージメディアが売れなくなりつつある昨今、全世界のレコード会社はこうしたサービス過剰な記念盤やボックスに活路を見出しているのでしょうか。。。。まだ新譜に聞きたいものもあるので、さすがに年に数点を買ったらいっぱいいっぱいです。

さて、今年に入ってからはシドニー・ポワチエ、ピーター・ボグダノビッチ、小嶺忠敏(国見の元監督)、井上昭(一昨日に最新作「殺すな」が上映されたばかり)、ジェームス・エムトゥーメ、ロニー・スペクター、ジャン・ジャック・ベネックス、ジョン・リンド、そしてミートローフと年明け早々、あまりに沢山の人が亡くなってしまいましたが、つい数年前まで「ドカベン ドリームトーナメント編」を描いていた水島新司も遂に。世代的に「男どアホウ」「ドカベン」「野球狂の詩」「一球さん」「あぶさん」「球道くん」など直撃なので、少年時代の記憶が蘇ります。特に「ドカベン」はみんなと一緒に読んでいました。多数の実在野球選手を実名で出したり(江川卓なんて作新学院時代からその名が登場)、不知火と雲竜(←土俵入り)、小次郎と武蔵(←巌流島)、賀間・影丸・わびすけの元柔道組、フォアマン、江川学院、犬神、BT学園、弁慶高校と遊び心満載の多くのライバルを登場させたり、「大甲子園」などアベンジャーズの先駆者的なマルチバース統合企画をやったり、中でも土門率いる横浜学院と最初の対決は最高潮で、たった数球でキャッチャーを破壊する土門、その誘いを蹴って明訓に入った微笑三太郎が自ら土門にサヨナラ本塁打を浴びせるという、その皮肉な結末に痺れました。他にもいろいろ思い出がありすぎて書ききれません。ご冥福をお祈りいたします。

1月期ドラマが出そろいました。今年は年明けから始まった「鎌倉殿の13人」は期待通りの三谷調大河で、従来の平安～鎌倉大河より喜劇寄りながらも隙あらば笑顔を引きつらせる展開に唸ります。いつもながら大泉洋の使い方が旨いなあ。山本耕史と愛之助が出てくると堺雅人も出てきてくれないかと思ったりも。民放ドラマはまだ決定打は見つかっていないですが「ミステリと言う勿れ」は原作未読ですが、劇伴が過剰なことを除けばかなり好印象です。想像よりもシリアスだった「ファイトガール」「妻、小学生になる。」「となりのチカラ」「恋せぬふたり」もまずまず。「DCU」「ゴシップ」「ムチャブリ」「愛しい嘘」「おいハンサム!」は多少疑問を覚えつつも様子見。でも「ドクターホワイト」「逃亡医F」「ユーチューバーに嫁はやらん!」「もしも、イケメンだけの高校があったら」はツッコミどころだらけでどうしましょう。でも「しもべえ」「封刃師」「まったり!赤胴鈴之助」は楽しんでいるので、その差はなんなんでしょう。

るい編でも激しい波瀾万丈が収まらない「カムカムエブリバディ」はいよいよ第3ヒロイン誕生まで到達。岡山東商が優勝したセンバツ(平松政次!)の年生まれということは私と同じ歳だわ。たった2話で話がガラッと変わるスピードも物凄い上に(月火だけですべてが急転回)、たったひと月で「善女のパン」「竹取物語」「ハイジ」の要素を取り込んだり、安子や稔や勇の焼き直しをしたり変えてきたり、モモケンとあかにしのそれぞれ2世が親と同じ顔になったり、複線的な盛り込みがすごい。それにしても故郷→道頓堀→京都と「おちょやん」と同じルートをこれまで辿ってきているのは偶然なのかどうか。

映画は去年積み残した「マトリックス レザレクションズ」「キングスマン：ファースト・エージェント」「ダーク・ウォーターズ」「マクベス」に続けて「スパイダーマン ノーウェイホーム」までを一気に見ましたが、ちょっとスパイダーマンにすべてを持っていかれた観。いやーびっくりです。「007 ノータイムトゥダイ」級にネタバレ厳禁案件だと踏まえて書けるのは、「X-MEN フューチャー&パスト」や「アベンジャーズ エンドゲーム」と匹敵する救済がある、ということか。とにかくこの落とし前の付け方には感動しました。次の「ドクター・ストレンジ」はまたエライことになりそうですけど。

あとはアカデミー賞に乗りそうな「ハウス・オブ・グッチ」と「コーダ あいのうた」。なんちゃってゴッドファーザーを明らかに目指していた前者は、それでも「ゲティ家の身代金」同様に面白かったです。後者は思いのほか感動しましたが、これはオリジナル未見だったことも加味されるかも。あのマーリー・マトリンと再会できたのも嬉しかったです。他はイーストウッドの「クライ・マッチョ」、ウェス・アンダーソンの「フレンチ・ディスパッチ」、新たな韓国映画「声もなく」など。中でも「フレンチ～」は短編集みたいな内容ながら「ドント・ルック・アップ」や「グッチ」に負けないほどの超豪華キャスティングに圧倒。この映画もサービス過剰(^^)。こうしてみると昨今の映画は、聾唖者(または声を出せない人物)、誘拐、悪妻がやたら目立ちます。

* [[74](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C74)]
* **まさかの年末帰省**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2022年 1月24日(月)15時39分47秒
* FL1-119-238-120-32.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C81%5C)

明けましてだいぶたちましたが元気にしております。
本年もよろしくお願い申し上げます。

共働きの弟夫婦と孫3人と同居している実家の母が耳下腺の腫れを訴え、
10年前同じ症状での精密検査のカルテが残っている総合病院を受診したいというので
2年半ぶりの帰省＝隔週で母の通院付き添いという顛末になっておりました。
（顔面の動きをつかさどる神経を巻き込んでおり大きくなると顔面麻痺など支障をきたしかねないというので
心配しておりましたが、内容物を穿刺吸引したらコブ状の塊もたいらになり生検の結果もシロでひと安心。）

新規感染者数が比較的下火になった12月のあいだに通院を終えたので結果オーライでした。
年明けの新規感染者数の激増でまたしばらくは長距離移動も控えなくてはなりませんが
積読の本とボックスセットでお籠りの用意は万全です。
それにしても「A LONG VACATION VOX」「原子心母 箱根アフロディーテ50周年記念盤」
なんと聴きごたえのありそうなセット。ネット上でアフロディーテの映像（リマスター前の画質はよくないもの）は
視聴可能ですが、Echoesなど圧巻ですね。

* [[73](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C73)]
* **2021年ベスト**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年12月31日(金)23時28分41秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C80%5C)

今年もあと0.5時間、紅白を見ながら年間振り返りです。今年もコント成分少な目で見やすいけど、シン・エヴァ コラボはやっぱり厳しいねえ。5年前のシン・ゴジラ コラボの大すべり再びですね。

・CD
The Korgis/Kartoon World
Caravan/It's None Of Your Business
Silk Sonic/An Evening With Silk Sonic
Esperanza Spalding/Songwrights Apothecary Lab
Crazy Ken Band/好きなんだよ
Carnation/Turntable Overture
KIRINJI/crepuscular
Paul McCartney/McCartney III
Peter Hammill/In Translation
Andy Partridge/My Failed Songwriting Career - Volume 1

毎年なにがしかのベテラン勢の復帰作を聞くことができますが、今年は29年ぶりとなるKorgisがとにかく良かった。70歳になってもJames Warrenの美メロ健在に感動しました。Caravanも久しぶり。PaulやAndyのEPともどもこうした英国産Popをいつまでも聞いていたいですね。流行り物ではやっぱりSilk Sonicにやられました。どんどんジャズから離れて先鋭化していくEsperanzaも良いです。邦楽ではいつものCKBとCarnationとKIRINJIですがどれもそれぞれ転機の作品になるか。リイシューものは今年もいろいろあったけれど、「A LONG VACATION VOX」と「原子心母 箱根アフロディーテ50周年記念盤」だけで限界を迎えました。他ではプログレ関係がやっぱり多くて、PHはカバー集はもちろん、Isildurs BaneやAmorphous Androgynousとのコラボ作も愛聴しましたし、Steve Hackettの「Under A Mediterranean Sky」「Surrender Of Silence」やTai Phongとかも良かったです。YesやPFMもありました。

・映画
プロミシング・ヤング・ウーマン
空白
パーム・スプリングス
ドント・ルック・アップ
フリー・ガイ
水を抱く女
皮膚を売った男
ノマドランド
すばらしき世界
ドライブ・マイ・カー

最近は興行成績や賞レースを見ても何がトレンドで最先端か掴みづらくなっていますが、その中でも「プロミシング～」と「空白」は一つ突き抜けたというか、作り手の情け容赦の無さが圧倒的で、これからもリファレンスや目標や比較対象として語り続けられるのではないかと思います。「パーム～」「ドント～」「フリー・ガイ」はコメディの範疇に在りながら今を撃つ射程の確かさで強い印象を受けました。「水を抱く女」「皮膚を売った男」「ノマドランド」は冷ややか手触りでも希望や理想をつかもうと藻掻く物語といえるでしょうか。「空白」に加えて「すばらしき世界」「ドライブ・マイ・カー」と今年は邦画は大収穫イヤーで、「花束みたいな恋をした」「あのこは貴族」「街の上で」「いとみち」「子供はわかってあげない」「由宇子の天秤」「偶然と想像」と忘れがたい作品が多かったです。あとは「アイダよ、何処へ？」「聖なる犯罪者」「最後の決闘裁判」「アメリカン・ユートピア」「サマー・オブ・ソウル」「1秒先の彼女」「パワー・オブ・ザ・ドッグ」など。

・連続TVドラマ
俺の家の話
おかえりモネ
大豆田とわ子と三人の元夫
青天を衝け
今ここにある危機とぼくの好感度について
最愛
コントが始まる
天国と地獄
おちょやん
ハコヅメ

今年は気合の入った作品が多くて10作に収めるが難しかったです。宮藤官九郎、安達奈緒子、坂元裕二、大森美香、渡辺あや、奥寺佐渡子、金子茂樹、森下佳子ら超一流脚本家たちが期待通りの作品を作り上げってくれたので文句なしですが、中でも「俺の家の話」は長瀬智也へのはなむけドラマとしても忘れられません。一方で「おちょやん」「ハコヅメ」は期待を大きく上回りました。八津弘幸と根本ノンジはマークしておきます。なお「カムカムエブリバディ」は第一部だけでも上位級でしたが、総合評価は来年を待ちたいです。総じて今年もNHKが最強で、TBS,フジ,日テレが後に続く。テレ朝,テレ東は粗製乱造が目につき始めてきた感じも。次点は「きれいのくに」「麒麟がくる」「ここから今は倫理です。」「半径5メートル」「古見さんは、コミ症です。」「着飾る恋には理由があって」「アバランチ」「SUPER RICH」「お耳に合いましたら。」「ウチの娘は、彼氏が出来ない!!」など。

さて、マツケンサンバは笑ったし、ミレニアム・パレードや藤井風など今どきの人たちも見どころありましたが、バンプの合間に流れた「吹奏楽部リユニオン」は嬉しかった。おかえりモネの素晴らしいエピローグになったのでは。しかし宮本浩次と東京事変はすっかり常連ですね。そしてケツメイシや布袋はなぜ今年初登場だったのか。。。

ではまた、良いお年を。

* [[72](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C72)]
* **有馬記念も終わり、2021年10月～12月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年12月30日(木)07時55分55秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C79%5C)

オミクロン株は結局危ないのかどうなのかはっきりしないまま暮れ行く2021年です。〇〇宣言の発令は無いけれど、往来でマスクをしない人は皆無で、入口には消毒液と体温センサー、テーブルにはパーティション、座席は基本一つ置き空け、等がデフォルトとして完全に定着した感。なんだか永久にこういう日々が続くのではという思いも少々。ドラマや映画にそうしたご時世を反映したものが皆無なのもどうしたことかと思いつつ、私も危機感半分楽観視半分のまま日々をやり過ごしています。

第66回有馬記念は先日の日曜に終了。中山でこそ更に強いと見たエフフォーリアの完勝。ディープボンド&クロノジェネシスの凱旋門賞組をしっかり押さえて的中です。ゾロ目開催時の有馬は歴史的名勝負や競馬の節目に当たるようで、1977年の22回は所謂TTG(テンポイント、トウショウボーイ、グリーングラス)の伝説的な最後の決戦、1988年の33回もオグリキャップVSタマモクロスの「昭和最後の名勝負」、1999年の44回はグラスワンダーとスペシャルウィークのハナ差4cmの大接戦、2010年の55回はヴィクトワールピサとブエナビスタの今度はハナ差2cmのデッドヒート。そして今回の66回も3歳エフフォーリアが古馬の頂点クロノジェネシスを破るという世代交代劇。秋天に続いての古馬撃破で名実ともに競馬界の覇権を握った形で、これならコントレイルが敵わなかったのも納得。それにしてもダービーのハナ差負けが無ければ「無敗の有馬記念制覇」という前人未到と大記録の達成もできたわけで、コントレイルみたいな従来の三冠馬タイプを過去のものにする新しいスタイルの名馬の誕生と言えるのかも。来年も無事に突き進んでほしいものです。

ドラマの秋クールも終了で、渋沢栄一の「No War!」の演説の記憶も新しいまま、老けメイクだけでは漲る若々しさを隠せないまま駆け抜けた「青天を衝け」、たった41回で終了とは勿体無さすぎでまだまだ見たかった。相対的に幕末期が明治よりも長かったけど、今までになく肯定的に描かれた徳川慶喜との関係を主軸にすることが狙いだったと思えば理解できます。MC家康には最後まで苦笑しましたが。ディーン五代も顔見せ以上の出番でよかった。さて来年の「鎌倉殿の13人」には期待オンリーですが、思い起こせば岩下志麻政子とマツケン義時の「草燃える」は源平合戦以降はつらくてしっかり見られなかったなあ。今度はどうでしょう。他では、考え得る限り最も切ない真相に結構満足してしまった「最愛」や政治やメディアや大衆への理想と信頼をしっかり語った「アバランチ」、浮わついているかに見せて地に足のついた視点でひきつけた「スーパーリッチ」「二月の勝者」「顔だけ先生」などなかなか充実クールでしたが、深夜ドラマに収穫が少なかった印象も。「阿佐ヶ谷姉妹ののほほんふたり暮らし」と「＃居酒屋新幹線」はどうかしている企画でしたが。

そして衝撃的な幕切れで第一部を終えた「カムカムエブリバディ」。安子役に上白石萌音を配したことで、若い時点での交代/退場は当初から予感されていたのだけど、その答えが母娘の決別だったとは想像を超えました。これは最終的に国境を跨いだ家族の再会ドラマになるのですね。どれほどのスケールになるかという思うと、うーむ凄い。そして近作に負けじと今作もまた挑戦的朝ドラで、安子もるいもヒロインとしては明らかな欠落があるキャラクターなのが面白く、かつて「ちりとてちん」で朝ドラヒロイン史上最もネガティブなＢ子を主役に据えた藤本有紀の面目躍如といったところでしょうか。そして気になる宇宙人(オダギリジョー)、トランぺッターであることが今年最後に明らかになりましたが、予告から岡山の言葉がわかることから、彼も朝丘町の出？ならば進駐軍のパーティにも紛れ込んでいた浮浪児の少年でしょうか。

映画は、今月はいろいろ大作の公開が続いていますが、ミニシアター系やNETFLIXの劇場公開を優先したりして手が回りません。シネコン系では、Giftedでない者に手を差し伸べる「ミラベル」と、社会的弱者同士で狩り合う(も報いを受ける)「パーフェクト・ケア」、時空を超えたシスターフッドもの(になりそびれた風に見えるのが残念な)「ラストナイト・イン・ソーホー」。「ヴェノム」続編はスパイダーマン本編に色目を見せ始めたところが面白かったかな。ミニシアター系では、no BGM, no human appearanceの驚異的な家畜の記録映像「グンダ」、ジョン・ウィック+アジョシかという血みどろ韓国ノワール「ただ悪より救いたまえ」、短編集ながらますます磨きがかかる濱口流会話劇「偶然と想像」とどれも良かった。そしてNetflixものも侮れず、先月のジェーン・カンピオンの異色すぎる西部劇「パワー・オブ・ザ・ドック」もすごかったけど、今月もすごくて、フェリーニとマラドーナが英雄だったソレンティーノ監督の「アマルコルド」型自叙伝という風の「The Hand of God」と、アカデミー賞俳優5人を擁した彗星衝突ブラックコメディ「ドント・ルック・アップ」は本当に映画館で見られて良かった。特に「ドント・ルック・アップ」は見ていて誰もが「小栗旬版「日本沈没」はこう描けば良かったのに」と実感したハズ。けど全然宣伝してしないせいか劇場ガラガラなの勿体無さすぎ。それにしてもエドガー・ライトとアダム・マッケイというDVDスルー監督がこんな大作を手掛ける日が来るとは。今や超一流監督となったデル・トロに同じぐらい落ち着かない。。

では、最後の10月～12月に劇場で見た映画の星取り表を。

◎10月
MINAMATA -ミナマタ- ★★★★
007ノー・タイム・トゥ・ダイ ★★★☆
由宇子の天秤 ★★★★☆
護られなかった者たちへ ★★★★
サウンド・オブ・メタル 聞こえるということ ★★★★☆
最後の決闘裁判 ★★★★☆
DUNE/デューン 砂の惑星 ★★★★

◎11月
劇場版 きのう何食べた？ ★★★
エターナルズ ★★★★
モノス 猿と呼ばれし者たち ★★★★
アンテベラム ★★★☆
コレクティブ 国家の嘘 ★★★★☆
皮膚を売った男 ★★★★★
tick,tick...BOOM!:チック,チック･･･ブーン! ★★★★
ボストン市庁舎 ★★★★☆
パワー・オブ・ザ・ドッグ ★★★★☆

◎12月
ミラベルと魔法だらけの家(吹替) ★★★★
ヴェノム:レット･ゼア･ビー･カーネイジ ★★★☆
パーフェクト・ケア ★★★★☆
The Hand of God －神の手が触れた日－ ★★★★
ラストナイト・イン・ソーホー ★★★★☆
GUNDA/グンダ ★★★★
ドント・ルック・アップ ★★★★★
偶然と想像 ★★★★☆
ただ悪より救いたまえ ★★★★

* [[71](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C71)]
* **日本シリーズもジャパンCも終わりもうすぐ師走**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年11月30日(火)19時59分21秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C78%5C)

急に寒くなってきました。そして感染者の急減に伴い、街に人通りが戻ってくるようになってきました。1年前もこんな感じだった気がしますが。それでも夜8時以降になると、営業店があるにもかかわらず人込みが一気に減少。来月の神戸ルミナリエと新梅田ドイツクリスマスマーケットは今年も中止。まだまだ警戒感は強いです。最強変異株も登場したみたいで、どうなりますかというところ。

[>>70](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C70)
> 今週末の天皇賞(秋)は、共倒れした大阪杯に続いてコントレイルとグランアレグリアが再戦も、エフフォーリアが割って入る三つ巴状態。有力馬3頭とも休み明けともなると、第4の馬が現れるかどうか。

秋天はこの3頭で決まりましたが、コントレイルが年下のエフフォーリアに負けてしまったことに残念な思いも。2日前のジャパンCは快勝し、見事ラストランを飾りましたが。過去の三冠馬(牡馬のみ)との比較では、G1(級)レースの勝ち鞍数ではシンザンが6勝、ミスターシービーが4勝、シンボリルドルフ7勝、ナリタブライアン5勝、ディープインパクト7勝、オルフェーヴル6勝、コントレイル5勝なので下の方の順位に。ちょっと少ない&有馬記念に出てくれても良かったと思いますが、ひとまずご苦労様でした。

今年の日本シリーズは面白かったですが、バッファローズとしては惜しかった試合が多く、これは「どうにも日本シリーズになるとあと一歩、日本一に届かない」と近鉄の遺伝子を受け継いでいるかもという懸念が当たってしまいました。関西視点からはタイガースがセリーグ優勝を5厘差で逃してしまったので(ほんまにガッカリ)、その鬱憤を晴らして欲しかった。どうもスワローズ相手だとこうなりがち。来年こそは関西対決になるでしょうか。

> あと2話で終わる「おかえりモネ」ですが、
> このタイミングでヘビーすぎるやろ、土曜日まで延長した方が良いのでは、安達奈緒子は本当に一切手を緩めないなー、と感心しきり。どういう閉じ方になりますかしら。

もう一月も経ちましたが、すべてを回収して&コロナ禍後の未来に希望を託して閉じられました。見事だったと思います。この朝ドラはいろいろ異色で、悪人(悪意を持つ人物)のみならず(方便を含めて)嘘をつく人を出さないという極めて潔癖で真面目な作りで、それよりも秘密や心の傷や秘めたる思いを抱える人を多く配し、そういう対象に対する受け止め方や思いやり、未知なことへの謙虚さや想像力、そして言葉で思いを伝えることの大切さということに心を配ってきたドラマだと思いました。新次が海に戻らない(が亮に法被=バトンを託す)のも、宇田川さんの姿を最後まで見せない(が未知と亮へお祝いの書を贈る)のも、ドラマの中では説得力を持って描けたのはないでしょうか。個人的に一番気にしていた音楽の封印を、遂に最終回(=震災から10年後のタイミング)で解いたのにも感じ入ります。そして最も痺れたのは、菅波と2年半ぶりに再会したときに出たモネの言葉「雨が降ります」(全てが整った)。サメ鍵キャッチとか、「19対5か」とか、菅モネ関連は後からじわじわと来るシーンばかりで、どれも良かったです。あと、先月時点では敢えて書けませんでしたが、おかモネファンには「護れなかった者たちへ」とても悲しい気持ちになりますが、おススメです。

で、朝ドラ版「いだてん」かなという見立てでぼんやり構えていたら、わずか四週間で朝ドラ１クール分ぐらいの波瀾万丈が押し寄せてきた「カムカムエブリバデイ」。「ちりとてちん」の藤本有紀だから一筋縄ではいくはず無いと思っていましたが、これほどとは。「こころ」とか、開始ふた月で子供を残して夫が死ぬ朝ドラというのか過去にもありましたが。「カーネーション」は三か月だったか。ここから話が本格化するにしても、安子の話もあっという間に終わるのでしょうし。見通しとしては安子編は年内で、年明けから深津絵里のるい編に入るのかな。この2か月ぐらいでどこまで連れていかれるのか、「サニー・サイド」の象徴である英会話がどこで浮かび上がってくるのか、心して待ちたいと思います。

他のドラマも終盤戦ですけど、結構充実しているかも。予想通り「日本沈没」は日曜劇場らしく夾雑物が満載でイライラしてきます。沈没する国民同士で足を引っ張ってんじゃえよ、と。TBS系なら「最愛」の圧勝ですけど、アルト社長じゃなくて優が真犯人じゃないなら誰なんですかね。二時間サスペンス脳としてはキャスティングの格上の方かなと思ってしまいますが。「アバランチ」も5話までの順風満帆が6話で反転というわかりやすい展開。利重剛演じる総理が予想通りすんごい。「二月の勝者」は日テレ得意のヒール先生路線にマッチしましたが、割と地に足のついた話が多めか。「スーパーリッチ」は面白いですが急展開続きすぎ。「アンラッキーガール」はアホみたいな話なのに憎めなくてついつい見てしまいます。「顔だけ先生」はコメディかと思ってたら意外と深い。あとは深夜の「お茶にごす。」「おしゃ家ソムリエおしゃ子!2」「JKからやり直すシルバープラン」「和田家の男たち」「ムショぼけ」「課長バカ一代」などを楽しく拝聴中。

最近の映画は(時間が)大作が多くてやりくり大変です。先月見た「007ノータイムトゥダイ」(←何度も009と書いてしまい失礼いたしました)は2時間43分、「最後の決闘裁判」2時間33分、「デューン最後の惑星」2時間35分、「エターナルズ」2時間37分、そしてワイズマンの「ボストン市庁舎」4時間32分。ほんとへとへとになります。さらに秋恒例のNetflix映画の限定劇場公開があって、この内「チック、チック…ブーン!」と「パワー・オブ・ザ・ドッグ」だけはどうにか鑑賞。あとはアカデミー賞の国際部門に乗った「コレクティブ 国家の嘘」と「皮膚を売った男」と「モノス 猿と呼ばれし者たち」、ジョーダン・ピールと同系の「アンテベラム」など。邦画では「劇場版 きのう何食べた？」はどうにか。ま、テレビで見たかったとは思いましたが満足。京都蹴上の名店八千代が出てきたシーンには心躍りました。

音楽は年末が近付くと新作リリースが活発。今月はCarnationと無果汁団の新作を楽しみました。来月はソロになったKIRINJIと、Caetano Veloso辺りが楽しみです。

* [[70](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C70)]
* **秋を通り越して冬が来た？**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年10月28日(木)01時36分56秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C77%5C)

感染者数激減ですが、この2週で急激に寒くなってきました。先々週まで半袖でしたのに。今年も夏から秋を通り越して冬に移行した観。去年は冬と共に第3波到来となりましたけど、ワクチンがある程度行き渡った今年は違うのか、それともブースター接種がないとまずいのか、しばらくはまだ警戒感を要しますか。

宣言解除明けの今月、ようやく阪神競馬場で現地観戦が叶いました。待ちましたー。でも相変わらず入場は予約抽選制のため、秋華賞や菊花賞といったG1当日は落選。またまたソダシを生で見ることできませんでした。グランアレグリアやデアリングタクトやコントレイルが暴れまくった一年前と大違いで、この秋のG1戦線は一番人気が大惨敗ばかり。G2やG3もマカヒキが5年ぶりVなどなかなかの波乱傾向。難しいけど面白いです。今週末の天皇賞(秋)は、共倒れした大阪杯に続いてコントレイルとグランアレグリアが再戦も、エフフォーリアが割って入る三つ巴状態。有力馬3頭とも休み明けともなると、第4の馬が現れるかどうか。

あと2話で終わる「おかえりモネ」ですが、新次と亮、亮と未知、耕治と龍己、と終盤になって心残りやわだかまりを一つ一つ丁寧回収してきて、あとの心配はコロナ禍に向かう菅波先生ぐらい(スローモーション立ち去りは止めてー)、と思ったところに最大のミステリーだった震災当日の雅代ばあちゃんと未知の件が明らかに。このタイミングでヘビーすぎるやろ、土曜日まで延長した方が良いのでは、安達奈緒子は本当に一切手を緩めないなー、と感心しきり。どういう閉じ方になりますかしら。

[>>69](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C69)
> ドラマは「ふたりっ子」再放送、「おかえりモネ」、先週まとめて「きのう何食べた？」録画しておいたぶんを鑑賞いたしました。西島秀俊は何を演っても西島秀俊ですが内野聖陽は見事ですね（前にも同じ感想をもらしたかもしれません）。

そういや来週には「きのう何食べた？」の劇場版も公開ですね。映画はどうしようかと思いつつ、同じスタッフ(特に安達奈緒子)ならばやっぱ見ましょうか。朝岡&耕治からシロ&ケンジへの移行は割とすんなり受け入れられますが、坂口健太郎の方は菅波先生完了までは「婚姻届に判を捺しただけですが」の視聴保留しています。菅波じゃない菅波にはまだ会いたくないというか。。。あ、「真犯人フラグ」も視聴保留中です。

Season19のラストから続けてSeason20の3週目まで連続した鶴田官房長官との対決にケリを付けた「相棒」、かつて手に汗握った70年代のTBS連ドラ版よりも「シン・ゴジラ」方面への目配せばかりが気になる「日本沈没 -希望のひと-」、何組目の警察非公認ウラ組織登場なのかという「アバランチ」などなど秋クールドラマが続々始まっていますが、現時点では「最愛」「スーパーリッチ」「二月の勝者」辺りを注目。どれも曲者俳優を配してて面白い。「最愛」は薬師丸ひろ子と光石研が両親で(しかも父急逝)奥野瑛太が(義理ではないが)兄。さらに津田健次郎と、前クールの「プロミス・シンデレラ」に続いて異常に「エール」を意識させるキャスティング。「スーパーリッチ」は「チェリまほ」の二人を堂々持ってくるのだけはどうかと思う所。「二月の勝者」は予告の時点で原作に無理矢理寄せてきた柳楽優弥に笑ってたら加藤シゲアキまで寄せてきました。

> そうこうしているうちに、VdGGのでかいBOX SETがイギリスから届いておりまして、CDとBDあわせて20枚、梱包込で3キロ近い重量の荷物でございました。

やっぱりすごそうです。Isildurs Baneとの新作は届きましたが、その後もいろいろほかのを優先してしまい、いまだ控えています(買いたい意志はありますが、もうBurning ShedやTower Recordでは品切れ)。。KCやPrinceのBOX群なども差し置いて買ってしまったのはPink Floyd「原子心母」50周年記念盤。「原子心母」自体聞くのも30～40年ぶりぐらいですけど、伝説の箱根アフロディーテBru-Rayこそがメイン。映像自体も大興奮なのですが、当時のパンフやポスターやチケットのミニチュア復刻も同封されて、その気合の入り方に感激です。あとはPeter Hammillに続いて?のカバー集を出したクレイジーケンバンドとThe Specials(!)。カバー集ブームなんでしょうか。あとはEsperanza SpaldingとBuffalo Daughterの待望の新作に、流行り物のJohn Mayer「Sob Rock」あたり。

[>>68](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C68)
> では、ネタバレを避けまくっている「009ノータイムトゥダイ」を見る前に、

見ました。いつまでネタバレ禁止なのかわからないですが、これは公開まで18か月も延ばしただけのことのある大ネタでした。怒る人が多いのもわかります。でもまあ例えるならば「ダークナイトライジング」や「ローガン」みたいなもので、マルチバースは大前提で、この役は絶対に続けない/終わらせる、という強い意思表示だけは表明した訳ですね。「ナイブズアウト」で共演済みのアナ・デ・アルマスは少ない出番ながら強い印象で、彼女が演じるパロマは、ノーミとKと共にまた登場してほしい(けど無理だよねえ)。

あと洋画では、今年のアカデミー賞作品賞ノミネートで最後の公開作となる「サウンド・オブ・メタル」を念願叶っての鑑賞。odessaシステムという素晴らしい音響設備での上映でしたから本当に良かったです。特に終盤の、題名は轟音音楽のことではないんだとわかってからの展開には痺れました。ジョニー・デップの「MINAMATA」は「ブラックレイン」「ラストサムライ」「アンブロークン」「沈黙 サイレンス」などの西洋人の目を通した日本ドラマの一つというところですが、美波や加瀬亮や國村隼ら日本の俳優陣の好演を含めて本気の社会派ぶりには結構感動しました。国内でも作れたはずの映画だとも思います。リドリー・スコットの「最後の決闘裁判」は「デュエリスト」を思い出させる中世の決闘劇ですが、もろに羅生門で、やはりリドスコならではの立ち上がる女性のドラマ。ここ10年では「悪の法則」や「オデッセイ」と並ぶ快作となりました。ヒロインのジョディ・カマーが収穫でしたが、同じくヒロインを演じた「フリー・ガイ」と同様にパンフレットが作られずじまい。ディズニージャパンというところは、基本FOX映画のパンフは作る気がないのでしょうか。

邦画は先月の「空白」に続いて「由宇子の天秤」と「護られなかった者たち」というこれまたヘビーな社会派作品がすごかった。特に「由宇子の天秤」は「空白」と共通する背景が多く、閉鎖的イメージの地方都市、気持ちが通じ合わない父子家庭、マスコミによる報道被害、罪を残して消える者と隠す者、そして暴走する正義感。似たようなテーマなのに最終地点は全然違ってしまうという。今年の日本映画は、悲しいドラマが多いものの、充実していると思います。

今月は白土三平が。しかも岡本鉄二まで立て続けに。今年はなんというか、さいとう・たかをとみなもと太郎と白土三平が、小林亜星と菊池俊輔とすぎやまこういちが、田中邦衛と田村正和と千葉真一が、亡くなった年なんですねえ。残る年長の巨匠たちもだんだん少なくなってきているかもしれません。合掌。

* [[69](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C69)]
* **解除後も**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2021年10月12日(火)20時51分22秒
* FL1-119-238-120-32.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C76%5C)

ｗさん、こんにちは。
ようやく諸々の自粛要請も消え街中にも活気が戻ってきたそうなのですが、通勤のない生活ゆえ私自身の日常はほとんど変わりません。ファイザーは追いワクチン（3回目）接種推奨とのことで、2回とも副反応が軽かったとはいえ少し気が重いです。新規感染者は確かに減少傾向にあり、このまま消火してくれますように……

そうこうしているうちに、VdGGのでかいBOX SETがイギリスから届いておりまして、CDとBDあわせて20枚、梱包込で3キロ近い重量の荷物でございました。5.1サラウンド環境になく正直なところ高い買い物であったなとは思いますが、2021年版新ミックスや映像集、パリでのライヴ音源などまとめて経験できるのはありがたい。Burning Shedで予約したためHammill, Banton, Evans & Jackson 4人のサイン入りポストカード特典も嬉しい。こんな贅沢BOXを迎えることはもうないと思います……

ドラマは「ふたりっ子」再放送、「おかえりモネ」、先週まとめて「きのう何食べた？」録画しておいたぶんを鑑賞いたしました。西島秀俊は何を演っても西島秀俊ですが内野聖陽は見事ですね（前にも同じ感想をもらしたかもしれません）。録画なので一昨年のCMが間に挟まれてまして、清原果耶が別々のCMに3回出ていたり、このダンサー見覚えが……と思えば「いだてん」で人見絹枝、「モネ」で鮫島さんを演じた人だったり、短期間で知名度のぐんと上がった人が何人も。

9月と10月はTerry Chambersがスウィンドン在住ミュージシャンと組んだEXTCが国内ツアー（一つはワイト島フェスティバル）敢行し気を吐いてますね。ライブとツアー大好きTerry、いつまでもパワフルなドラミングで現役を続けて欲しいものです。

* [[68](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C68)]
* **解除の秋、2021年7月～9月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年10月 3日(日)03時22分45秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C75%5C)

昨日から緊急事態宣言解除。まあ近所で変わったのは映画館のレイトショーが再開したぐらいで心理的には変化なし。外をうろつく人や飲食店の客もさほどは増えてなし。ここ数週で感染者数が激減した理由がピンとこないから？ワクチンの浸透との因果はありそうですが。まだしばらくは様子見でしょうか。

前々から予定されていた夏目三久の芸能界引退とアタック25終了には只管感慨深かったのですが、突然の嵐二人のご成婚、白鵬引退、さいとう・たかを氏の訃報(ご冥福を)と悲喜こもごもとしか言いようのない出来事が相次ぎました。それにしてもどれもびっくり。

先月は約3か月ぶりに阪神競馬場に行けました。関西テレビ賞ローズステークスや神戸新聞杯があっても中京開催のため場外馬券売り場扱い。宣言中なのに競馬場に行けるとは有り難いと思ってましたけど(しかも事前の指定席予約なし)、行ってみたらレースやオッズや結果を含めてモニター放映は一切無し、本馬場やスタンドや食事処は閉鎖して立ち入れず、座席もすべて撤去または封鎖され座れるところも無し、スマホでＴＶやラジオを聞いてたら係員が近付いて禁止の忠告をされるなど、馬券を買ったらとっとと帰れと言わんばかりで、まったく落ち着けなくて早々に撤収しました。宣言解除後も開催競馬場の指定席事前予約は継続されそうで、まだまだ窮屈な扱いは続きそうです。

夏クールドラマは次々終了してましたが、傑作「ハコヅメ」以外だと「お耳に合いましたら。」「八月は夜のバッティングセンターで。」「うきわ」のテレ東勢が収穫でしょうか。「僕の殺意が恋をした」「ザ・ハイスクールヒーローズ」も結構面白かったです。一番人気の「TOKYO MER」は医療モノだろうが学園モノだろうが日曜劇場らしい類型に押し込まれる展開がかなりツライ。来季の「日本沈没」もどうなる。「ナイト・ドクター」「ボイスⅡ」「漂着者」はいい加減にせいよと毎回突っ込みながら見続けた感じ。「#家族募集します」は最後の宇野祥平との和解に絆されたものの、なんかひと夏の思い出的な尻すぼみ感に落胆した感じ。各種恋愛ドラマは、まあ良かったんじゃないでしょうか。。。そして「緊急取調室」と「刑事7人」はシリーズ終了で確定なんでしょうかね。

残りひと月を切って亀島にて「おかえりモネ」となりましたが、朝ドラ定番の故郷への帰還が必ずしも地元に快く思われない展開には、これは踏み込んだなと震えました。更なる高いハードルに、人との距離感が取れなかった菅波に「あなたが投げるものなら僕は全部取ります」と殊勝にも程があることを言わせたり、宮田のホルン演奏に「音楽ってこんなにも背中を押してくれるものなんですね」とモネが自戒を込めて呟くのを聞いたり、一つ一つの伏線や心残りをこんなに丁寧に回収してくれるのかと感激したのが遠い昔のよう。期限の2年間にどういう実績を残せるかが最後の落としどころでしょうか。その2年間に被るであろうコロナ禍まで手が回るのかと思いますが、菅波先生は呼吸器外科ですからねえ。。「青天を衝け」は血洗島への帰還と慶喜との再会と戊辰戦争の終了に一喜一憂してたら明治政府編に突入。こちらもとうとう最終章に入ったようで寂しい。あとNHKでは「古見さんは、コミュ症です。」「オリバーな犬」「大江戸もののけ物語」「土方のスマホ」ですね。どれも攻めに攻めている。

[>>67](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C67)
>次号は90年代だそうで、グランジやシューゲーザーやインダストリアルには基本的に疎いのでさすがにかなり知らなそう。

と書いたレココレ最新号「90年代ハード&ヘビー」。結果的にベスト100で知っているのは半分ぐらいでしたが、さすがに上位勢は大体知ってました。今回も個人的ベスト10を上げると「イーヴィル・エンパイア」「ネヴァーマインド」「デカダンス」「メトロポリス・パート2: シーンズ・フロム・ア・メモリー」「メタリカ(ブラック・アルバム)」「ディスコ・ヴォランテ」「グリーン・マインド」「サイアミーズ・ドリーム」「ルーツ」「リーン・イントゥ・イット」など。定番だらけのチョイスだったのか、レココレの方に入ってなかったのはカテドラルの2ndとミスター・バングルだけ。

3つのディケイドを振り返ると、重さ重視の70年代、より速くて派手派手の80年代、そしてもっと重くて暗くてシリアスな90年代という変遷を実感。90年代ものはテクニック的にケチのつけようの無いグレードの高いものばかりでしたが、でも今でもやっぱり心から好きだと思えるのは1978-79年頃の「ブラック・ローズ」「宇宙征服」「殺人機械」「ラヴドライヴ」「地獄のハイウェイ」「JAZZ」「ドリーム・ポリス」辺りで、HR/HW外のハードな物に手を広げたら「ラスト・ネヴァー・スリープス」「エクスポージャー」「ジョーのガレージ」「Y(最後の警告)」「エンターテイメント！」「メタル・ボックス」「ノー・ニュー・ヨーク」もあった訳で、しつこく何度も同じことを書いていると思いますが、自分にとって、この頃が源流であり真髄だったんだなあと思う今日この頃でした。

最後に映画。洋画では6時間映画の「DAU 退行」とボスニア紛争での大虐殺を描いた「アイダよ、何処へ？」という、とにかく見ていてヘトヘトになる作品を立て続けに鑑賞。悲劇の前兆しかないのにどうすることもできない有様にはもう言葉も出てきません。邦画では吉田恵輔の「空白」にはもう参りました。自分こそが正しいと思い込むことも含め、危うい人間たちの衝突や齟齬が二重三重の悲劇を生む情景には我に返ることが多々。片岡礼子のシーンと、松坂桃李の弁当屋への2度目の電話のシーンには唸りました。あとはTVドラマ版を見逃したことを悔いる「浜の朝日の嘘つきどもと」は大久保佳代子のシーンがどれも素晴らしかったです。あと「マスカレード・ナイト」は前作同様の無理矢理な話だけど、鈴木雅之映画としてはできることはやった感じはします。ただ「ボクらの時代」を先に見たせいで真犯人に見当がついてしまったのは無粋でした。

では、ネタバレを避けまくっている「009ノータイムトゥダイ」を見る前に、7月～9月に劇場で見た映画の星取り表を。

◎７月
いとみち ★★★★☆
Arc アーク ★★★★
夏への扉 －キミのいる未来へ－ ★★★☆
クワイエット・プレイス 破れた沈黙 ★★★★☆
ゴジラVSコング ★★★☆
ブラック・ウィドウ ★★★★☆
東京リベンジャーズ ★★★
プロミシング・ヤング・ウーマン ★★★★★
少年の君 ★★★★
17歳の瞳に映る世界 ★★★★☆

◎８月
竜とそばかすの姫 ★★★☆
イン・ザ・ハイツ ★★★★
アウシュヴィッツ・レポート ★★★★☆
復讐者たち ★★★★
ワイルド・スピード/ジェット・ブレイク ★★★☆
ザ・スーサイド・スクワッド "超"悪党､集結 ★★★★☆
フリー・ガイ ★★★★★
孤狼の血 LEVEL2 ★★★★
Summer of 85 ★★★☆
ドライブ・マイ・カー ★★★★★
子供はわかってあげない ★★★★☆
オールド ★★★★☆
サマーフィルムにのって ★★★☆

◎９月
シャン・チー/テン・リングスの伝説 ★★★★☆
サマー・オブ・ソウル(あるいは,革命がテレビに放映されなかった時) ★★★★★
アナザーラウンド ★★★★☆
DAU/ダウ 退行 ★★★★
浜の朝日の嘘つきどもと ★★★★
マスカレード・ナイト ★★★
空白 ★★★★★
アイダよ、何処へ？ ★★★★☆

* [[67](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C67)]
* **今年もパッとしなかった夏が過ぎ去った観**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 9月 8日(水)23時36分4秒
* p4515004-ipoe.ipoe.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C74%5C)

第5波だの豪雨だのいろいろ水を差されつつも、オリンピックはひと月前、高校野球は10日前、パラリンピックは今週頭にそれぞれ割とつつがなく閉幕。五輪は始まる前からすっかり心が冷めてしまい、チェックしたのは野球とソフトボールと、スプリングスティーン娘が活躍した馬術ぐらい。パラはボッチャとゴールボールとシッティングバレーが面白かったです。

この夏の甲子園は一般客観戦不可かつ降雨で7日分も順延と散々だった印象。ブラバン応援が復活したのは嬉かったですが。愛工大名電や明豊や横浜らが早々に姿を消したり、宮崎商と東北学院が辞退したり、その一方でベスト４を近畿勢が独占、しかもベスト４以前に消えた大阪桐蔭と神戸国際大附は同じ近畿の近江に激戦の末に敗退したので、近畿勢は他の地域には無敗という無双状態に。なんという圧倒的な明暗！これはもう、雨天続きで宿舎への幽閉を余儀なくされた遠征組と対照的に、その間も母校などでの練習や調整がばっちりやれた地元組のアドバンテージが相当効いたということでしょうか。決勝は智弁対決という19年ぶり2度目となるレアな組み合わせで面白かったですが、しかし優勝した智弁和歌山は(不戦勝の恩恵もあり)出場校中最も遅い11日目の三回戦からようやく初戦となり、たった4戦でのVと言うのもね。。。個々の試合は、広島新庄2-3x横浜、小松大谷6-7x高川学園、日大山形4-5x石見智翠館、長崎商5-6x神戸国際大附、明徳義塾2-3x智弁学園といった大激戦続出で楽しめましたが、なんか全体を通してはわだかまりが残る大会ではありました。開催されただけ昨年より大幅にマシだとは認めつつも。

「おかえりモネ」はパラアスリート鮫島さんのサポートや、まさかのシロとケンジの邂逅(いや違う)を経て、百音と菅波がコインランドリーでの清い愛を育む中で、暴風雨が新次→亮→未知→百音と玉突きのように伝播していく様にやきもきするなど、この穏やかな朝ドラでもかなりはらはらする展開が続きました。そして先週末の「どうしたの」「先生が目の前からいなくなっちゃうの、やだって思っているんです」からの初めての抱擁、ラスト2か月弱を残して一番幸せなシーンとなったのかも。

民放ドラマは、これは当初から予想していたのですが、「ハコヅメ」の独走状態です。原作のエピソードをコンパクトかつ繊細に取り扱っていて、次第にゆるふわコメディとは一線を画した内容へ踏み込んできました。遂に"守護天使"の話題になってきたので、その件は今クール中の解決までには至りそう。当然続編やシーズン2への期待も高まりますが、下手に映画化などの色目を使いだしたら要警戒。「ごくせん」とか「ホタルノヒカリ」とか「妖怪人間ベム」とか「奥様は、取り扱い注意」とか、日テレドラマの劇場版はどれもねえ。。。。

他はゴールデンはいろいろありますけど全体的には不作。目先の衝撃展開を求め過ぎでは？冬クールと春クールがどれも素晴らしすぎたというのもありますけど。深夜ドラマだと「お耳に合いましたら。」と「八月は夜のバッティングセンターで。」を楽しんでいます。NHKで今月スタートした「古見さんは、コミ症です。」も期待。ジャニーズ枠の「ザ・ハイスクール ヒーローズ」は、24年前の「電磁戦隊メガレンジャー」とか、ちょうど10年前スタートの「仮面ライダーフォーゼ」(福士蒼汰&吉沢亮&清水富美加!!)などを彷彿させるド直球の学園ヒーロー物だけど、東映とジャニーズががっちり手を組んだかと思うと新時代に突入した感じも。

いろいろ物足りなさが残る中で、8月以降の映画については、それまで延期延期延期となっていた作品が順次公開されたお陰でかなりの快作が続きました。

洋画大作系ではTOKYO DRIFT組の再集結が嬉しい「ワイルド・スピード／ジェットブレイク」、ジェームス・ガンの不謹慎度と古典特撮愛に信頼がおける「ザ・スーサイド・スクワッド“極”悪党、集結」、ありふれたゲーム世界モノどころか「竜そば」よりもエレガントにバーチャルが現実を覚醒させるドラマとなった「フリー・ガイ」、安心のシャマラン印ワンアイディアSF「オールド」、MARVELが今度は伝奇カンフー映画水準をもクリアした「シャン・チー／テン・リングスの伝説」の各全米No.1ヒット作。こういうのが普通に見られるようになったことが嬉しい。あと「イン・ザ・ハイツ」はラテンNY音楽ファン垂涎の充実したミュージカル。ルーベル・ブラデスが関わっていることにも納得。

洋画ミニシアター系では「復讐者たち」「アウシュヴィッツ・レポート」のあまりにもヘビーなホロコースト実話2作と、「Summer of 85」の眩しくも苦い青春、「アナザーラウンド」の苦いミッドライフクライシス(しかし急性アル中とは無縁の国か？)、そして驚くべき発掘映像「サマー・オブ・ソウル(あるいは、革命がテレビ放映されなかった時)」のタイムリーすぎる分断後の世界と音楽のドキュメンタリー。これほどの映像が今まで埋もれていたなんて。若きメイヴィス・ステイプルと若きグラディス・ナイトと若きスライ・ストーンに会えることに感激しまいました。若きジェシー・ジャクソンも居ました。

邦画はどれも傑作で「ドライブ・マイ・カー」は3時間を感じさせない会話劇と劇中劇の相克。ストーリーは原作とはかなり違うようだけど、主人公が車(妻への妄執)を手放すまでの3時間と受け止めました。落語心中・星の子・まめ夫同様に岡田将生のシーンは見事。「孤狼の血 LEVEL2」は残虐度5割増しの続編。ちょっと今年見た「警視K」を思い出すかな。喜多見先生と完全別人に仕上げた鈴木亮平は勿論、村上虹郎と早乙女太一は儲けもの。「いとみち」と並んで女子高校生冒険映画三部作になりそうな「子供はわかってあげない」と「サマーフィルムにのって」はこの夏のダークホース。上白石萌歌と伊藤万理華は共に今後ひっぱりダコになりそうです。

[>>66](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C66)
> Colinの新譜は届きました。
> でもAndyのはまだ未発送。いつになるでしょうか。

Colinの『The Hardest Battle』EP到着から約3週間後、やっとこそAndy新作『My Failed Songwriting Career Volume 1』受領しました。CDとアナログの両方を入手。いいですねえ。ジャケットもかわいい。もっと次々続きを聞きたくなりますが、まあ追々という感じでしょうね。PH(VdGG復活めでたい!)の方はカバー集にAmorphous Androgynousとの共作と、痺れる表紙のProg誌を順次受領。あとは前作もかなり良かったIsildurs Baneとの新作の出荷待ちです。ちなみに最近よく聞いているのは、Velvet Underground, Johnny Winter, Paris, Journey, 初期のChar, 中期のP-Model, 初期のINU, あぶらだこ、です。脈絡なし。

> ところでレココレ最新号の特集は「70年代ハード&ヘビー」という、近年私が重点的に聞き直しているジャンルが取り上げれてて歓喜。

この次のレココレ最新号の特集は「80年代ハード&ヘビー」でした。70年代もの比べると80年代ものは全然DIGしてないので殆ど記憶にないかと思いきや、さにあらず。この期間は中学から大学までの青春ど真ん中だったから、ベスト100アルバムの7割方はリアルタイムで接していたというか、HR/HMに限ればほぼ全部聞いていたという結果に。Blue MurderとかCinderellaとかTeslaとかManowarとか30年ぶりに思い出しました。その一方で日本勢がオミットされているのは不満。またまたこのジャンルの個人的ベスト10を上げると(あえて当時の邦題で)、「ブラック・シー」「リーダーに続け！」「エース・オブ・スぺイズ」「ムービング・ピクチャーズ」「リアクター」「フランク・ザッパの○△□」「エッジズ・オブ・ドリーム」「ヘヴン&ヘル」「母乳」「ホエン・ドリーム・アンド・デイ・ユナイト」。これも残念ながら半分しかベスト100には入らず。私に言わせればXTCもキリングジョークもニールヤングもザッパもEDPSもハードロックなんですけど。次号は90年代だそうで、グランジやシューゲーザーやインダストリアルには基本的に疎いのでさすがにかなり知らなそう。

ビッグネームの訃報が相次ぎまして、毎日ニュースを聞くたびに気重になりましたが、やっぱり、みなもと太郎と千葉真一とチャーリー・ワッツには応えました。死とは無縁に生き続ける人という思い込みがありましたので。今月にはJPベルモンドが。RIP。

* [[66](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C66)]
* **猛暑か豪雨のどちらかしか無い夏ですが**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 8月 1日(日)05時15分14秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C73%5C)

8月に入りました。すでに一週前から五輪開幕ですが、無観客で。巻き添えを食ったみたいに夏の甲子園まで無観客。春のセンバツは有観客だったのに。ああ返す返すも3月28日の雨天が悔やまれる～

これ又すでに二週前ですが、「おかえりモネ」が東京編に突入。10週目で東京進出とはずいぶんゆっくりじっくりと序章が描かれました。過去のAK朝ドラと比較してもゆっくりで、「エール」が7週目、「なつぞら」が8週目、「半分、青い」が6週目、「ひよっこ」が5週目。あの「あまちゃん」が13週目のちょうど半分近くで東京に来たのに次ぐ感じで、今世紀の三陸を朝ドラ故郷編の舞台にするからにはという力の入り方の表れでしょうか。それにしてもいろいろミステリアスな銭湯シェアハウスだこと。モネの髪型がいつの間にか変わったのにも「お！」となります。

五輪による中断が余儀なくされるからか、今クールの連ドラには、傑作揃いだった冬クール&春クールほどの熱は今のところ感じられず。朝ドラと大河(パリに行ったと思ったら5週分も休止とは)を除くと、毎週楽しみなのは「ハコヅメ」と「#家族募集します」ぐらい。「ハコヅメ」は割と原作のムードは捉えているので好感あります。続きは映画で、にならなければいいですが(日テレドラマの映画版はどうも....)。「#家族募集します」もどう転がるかわからなくて気になるところ。ただどちらもメインキャストにCovid19感染者が出たのが辛い。完成できるといいけれど。他では、医療モノと警察モノが多いのはいつものことながら、「王子型男子」との恋愛ドラマみたいなのがやたら多いのはどうしたことか。そんななかで「プロミス・シンデレラ」はキャンディキャンディがニールとアルバートさんに挟まれているみたいな、不思議な懐かしさが。

映画は洋画大作の公開がやっとこさ再開し始め、見たいものが増えてきました。洋画大作系では「クワイエット・プレイス２」、「ゴジラVSコング」、「ブラック・ウィドウ」が、それぞれ13か月、16か月、14か月の延期を経て公開。待ちましたわ～。「クワイエット・プレイス」は前作からのアップデートが十分に感じられる素晴らしい続編。主役がイブリンからミーガンにシフトしていくのも頼もしい。「ゴジラVSコング」は過去作からの設定も伏線もガバガバで、モンスターバースもこれまでかという感慨まで浮かんだものの、クライマックスで出てきた「あいつ」にキングギドラの残骸を利用したという話に、まるで「BvsS」のドゥームズデイみたいじゃないかと、親近感が湧いてからは急激に面白くなりました。「ブラック・ウィドウ」は「シビル・ウォー」から「インフィニティ・ウォー」までの間のMCU時系列上での4～5作品の中の一つ。この間、並行して何度も世界を救っていたのですね。最近目立つシスターフッド型ヒーロー物でも特に際立つというか、特に"家族"集結から宿敵との対峙までの辺りは強烈に面白く素晴らしかったと思います。それにしても強化人間であることを無視すれば007やM:Iやボーン・シリーズのまんまで、当初の予定通り「007ノータイムトゥダイ」と同時期公開だったらなと悔やまれたり。

ミニシアター系では「プロミシング・ヤング・ウーマン」「少年の君」「17歳の瞳に映る世界」がよかったです。いずれも孤立無援の女性(たち)を見つめる社会派ドラマ。「プロミシング」はレイプリベンジ版の「デスウィッシュ」という見立てを軽く超えるもので、「無傷」では居られないのは承知の上で「敵」は一人残らず追い詰めるというその覚悟の姿に震えました。前半のコーヒーショップのやり取りにジェイソン・ライトマンやクレイグ・ガレスピーを思わせる洒脱を感じただけに尚更。「少年の君」はいじめ&受験戦争&格差社会などの社会派テーマを盛り込んだ純愛ドラマですが、受験当日から東野圭吾を思わせるサスペンスへと急旋回したのにはびっくり。当初はいじめの話に刑事が介入する描写を念入りに映していたのに(青春ドラマじゃないのかと)違和感あったので最後は納得。「17歳の瞳」は中絶を決意した少女とその従妹とのロードムービーで、「4か月,3週と2日」級の無惨な目に合わないものの、不条理に翻弄される様は只管痛々しい。原題の「Never Rarely Sometimes Always」の意味がわかる超長回しのカウンセリングシーンが肝でしょうか。「プロミシング」と「17歳の瞳」は共にフォーカス・フィーチャーズ配給で女性監督作。今最も攻めている所かもしれません。

邦画では「いとみち」「夏への扉」「Arc アーク」「東京リベンジャーズ」。「いとみち」は横浜聡子新作で全編津軽満載映画。津軽弁メイド&津軽三味線&岩木山。これまた素晴らしい青春映画。原作は越谷オサムだったんですね。「花子とアン」の龍一さん以来に拝見した中島歩も思いがけず良かった。「夏への扉」はご存じハインライン名作の方が実写邦画化。無謀な試みかと思いきや、璃子(=リッキー)を救いたいという動機への改変とAIとしてのピートの擬人化(=ドラえもんですね)等を加えることで身の丈に合った爽やかな映画に。しかし三木孝浩は、越谷オサムの「陽だまりの彼女」を手掛けた時には楽曲起用したのに、今回は達郎を完全スルーしましたか。「Arc アーク」はこちらはケン・リュウが原作とこれまたSF邦画。レプリカントになりたい人間とその顛末というか。未来的ガジェットを一切使わずにSFを描写するという荒業に感服。未来の島のシーンには去年訪れた小豆島がロケ地として使われて、あの狭い路地をまた歩いてみたくなりました。アニメ放映中の「東京リベンジャーズ」もタイムループを駆使したヤンキーものということでこれまたSF邦画か。メインキャストの再現度は凄いけれど、さすがに中学生に戻るのは無理で高校生までか(それでも無理が...)。ただこれで終わったらあまりにも尻切れトンボだけど。それにしても、ずっとバイプレーヤーだった北村匠海、吉沢亮、山田裕貴が大ヒット作の看板を背負う立場になったと思うと感慨深い。かつての「クローズZERO」が登場した時の感じも思い出しました。

[>>64](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C64)
> そして来月にはAndyとColinの新譜ですね。正座して待ちます。

Colinの新譜は届きました。衰えも感じられずお元気そうで何より。「Say It」のオリジナル版も嬉しい。でもAndyのはまだ未発送。いつになるでしょうか。
ところでレココレ最新号の特集は「70年代ハード&ヘビー」という、近年私が重点的に聞き直しているジャンルが取り上げれてて歓喜。アルバムベスト100のラインナップを見ると、正直言って聞いたこと無いものが一つも無いという驚きの号。全体的にはベタかと思うけど、Zep, Purple, Sabbathは別格として、Van Halen, AC/DC, Motorheadなど80年代以降も駆け抜けたグループの評価が相対的高い印象。ただAerosmithやKissの評価はやや低い気も。KC『Red』やPistols, Damned, Runaways, Flower Travellin' Band辺りが入っているのが目を引きます。そんな中でCaptain Beyond, Montrose, Cactus, Sir Lord Baltimore, Rick Derringer, Budgie, Pink Fairies, Tempest, Stray, Armageddonなど、高校生～大学時代に熱心に聞いてた人たちがしっかり取り上げられているのは嬉しかったです。調子に乗ってこのジャンルの個人的ベスト10を上げると(あえて邦題で)、「聖なる館」「ブラック・ローズ」「闇夜のヘヴィロック」「ブラック・サバス４」「現象」「炎の導火線」「眩暈(テンペスト)」「イン・フォー・ザ・キル」「パリス・デビュー!!」「メデューサ(トラピーズ)」。でもレココレベスト100にはこの内の半分しか挙がってないのはちょっとショック。

* [[65](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C65)]
* **上半期終了、2021年4月～6月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 7月 4日(日)04時55分45秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C72%5C)

7月に入りました。近隣はなぜか晴れ続き&降っても小雨で比較的平穏で、猛烈な豪雨に見舞われている太平洋側と大違い。熱海の土石流の猛威をみると「モネ」で度々出てくる「リードタイム」を思い出すなど、気象予報への期待と森林整備の重要性は増すばかり。難しいのでしょうけど。

今年も半分が過ぎましたが、映画も競馬も旅行もほとんど行けず、音楽も旧作ばかりを聞きまくりという、去年のデッドコピーかといいたくなりますが、TVドラマだけは撮影自粛が無いという大きな改善のおかげで、上半期は恐ろしいほどの充実作が相次ぎました。特にNHKは地上波作品が良作だらけという恐ろしさ。「麒麟がくる」「おちょやん」「ここから今は倫理です。」「青天を衝け」「きれいのくに」「今ここにある危機とぼくの好感度について」「半径5メートル」「おかえりモネ」単発の「あなたのそばで明日が笑う」「ペペロンチーノ」「ノースライト」などなど。民放も「俺の家の話」「大豆田とわ子と三人の元夫」「コントが始まる」は今後も目標とされる作品として語り継がれるだろうし、「天国と地獄」「ウチの娘は、彼氏が出来ない!!」「直ちゃんは小学三年生」「書けないッ!?」「モコミ」「珈琲いかがでしょう」「ネメシス」「生きるとか死ぬとか父親とか」「イチケイのカラス」「着飾る恋には理由があって」「コタローは1人暮らし」「ガールガンレディ」などなど、充実作満載で、上半期だけで年間ベストテンが組めそうな勢い。あとはCS放送でやっと見れた、勝新の伝説ドラマ「警視K」全13話をコンプリート鑑賞できたのも良かったです。「怒り新党」で取り上げられたのも8年も前。声がほとんど聞き取れない勝新の破天荒演出も、実の娘とのほのぼのタイムもすごいですが、私の興味は主題歌を含めて劇伴の大半を手掛けた山下達郎楽曲の数々。中でも翌年発表される「FUTARI」のインストバージョンが使われていたのには驚き。サントラにして出してほしい。

では、ゴジラVSコングまだ見ていないのでそれを見る前に、4月～6月に劇場で見た映画の星取り表を。

◎４月
ビバリウム ★★★☆
旅立つ息子へ ★★★☆
ホムンクルス ★★★
街の上で ★★★★☆
パーム・スプリングス ★★★★★
アンモナイトの目覚め ★★★★
水を抱く女 ★★★★★

◎５月
(なし)

◎６月
るろうに剣心 最終章 The Final ★★★
ファーザー ★★★★☆
アメリカン・ユートピア ★★★★★
るろうに剣心 最終章 The Beginning ★★★☆
シン・エヴァンゲリオン劇場版 EVANGELION:3.0+1.01 ★★★★☆
Mr.ノーバディ ★★★★
逃げた女 ★★★★
RUN/ラン ★★★★☆
1秒先の彼女 ★★★★★

最後に上半期のベストも一応選んでみました。こんな感じです。

1. パーム・スプリングス
2. ノマドランド
3. すばらしき世界
4. 水を抱く女
5. 1秒先の彼女
6. アメリカン・ユートピア
7. 聖なる犯罪者
8. 街の上で
9. ファーザー
10. ミナリ

* [[64](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C64)]
* **宝塚記念は今年も見に行けず**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 6月30日(水)05時16分41秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C71%5C)

[>>63](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C63)
> そして翌週には宝塚記念。競馬場の入場は相変わらずの抽選制ですが、今年は行けるでしょうか。

ダメでした。阪神競馬場は比較的簡単に入場券が取れるのですが、G1当日になった途端に全くです。大阪杯、桜花賞、宝塚記念はすべて抽選外れてキャンセル待ちも押さえられず、天皇賞(春)は無観客。ということで、今年前半の阪神競馬場のG1は一つも見に行けませんでした。なんたる狭き門。この分では秋の(せっかくの阪神開催となる)秋華賞&菊花賞も思いやられます。

> 宝塚記念も前年覇者クロノジェネシスが1倍台だったら危ないかも？

全くの杞憂に終わりました。コントレイルやデアリングタクトやラブズオンリーユーとか居なかったので相手も楽だったですが。ただこの馬、本格化してからは連敗しないけど連勝もしないので、次走は負ける番。凱旋門賞を目指すなら前哨戦を一つ使った方がよいかも。

> > Peter Hammillのカバーアルバム In Translationはピアソラやミュージカル「南太平洋」（ご両親のレコードコレクションの中に映画のサントラがあったそうですね）のカバーも取り上げバリエーション豊かで楽しかったです。歌詞が印刷されていないのはつらいですが……

> ようやく注文しました。ほとんどが非英語圏楽曲の英語翻訳カバーというのが面白そうです。

やっと聞けました。歌手ピーター・ハミルを堪能させていただけるナイス企画ですね。リーバー&ストーラー、カーン&ハマースタイン、ロジャース&ハマースタイン、ファブリッツィオ・デ・アンドレにピエロ・チャンピ、アストル・ピアソラの歌ものなど、意外性と引き出しの多さに感服しました。かつてはジャック・ブレルやジョルジュ・ブラッサンスなどのシリアスなシャンソンが合うんじゃないかなと夢想しましたが、愁いを帯びたイタリア音楽とも相性良いことを改めて実感。元々イタリアでも人気あるのですよね。
そして来月にはAndyとColinの新譜ですね。正座して待ちます。

映画は「Mr.ノーバディ」(「ハードコアヘンリー」の監督による"凡人の皮を被った殺人マシン"系)、「逃げた女」(ホン・サンス&キム・ミニ組の最新版)、「RUN/ラン」(母子家庭の"代理ミュンヒハウゼン症候群"モノと思っていたら唖然とする急展開に)、「1秒先の彼女」(後半からのショーン・エリスの出世作を彷彿せる怒涛の展開には感動)を鑑賞。「シン・エヴァンゲリオン劇場版」の新バージョン"EVANGELION:3.0+1.01"も見てきました。冒頭の第３村のシーンは、やはりいい。座席数半減ながらもどの作品にも観客が結構入っていて、よかったなと思います。

毎月の訃報振り返りも気重なものですが、富永一朗、伊藤アキラ、若山弦蔵、フランコ・バッティアート、B・J・トーマス、小林亜星、寺内タケシ、原信夫、高松邦男、李麗仙、ジョン・ハッセル、土岐英史、そして立花隆と、昔からお馴染みだけど近況不明の人が数多く亡くなっていて、"便りの無いのは良い便り"とは言えない時分かと思う今日この頃。そんな中で充実した作品を最近まで作り続けてきたジョン・ハッセルには不意打ちのような驚き。土岐さんもまだお若いのに。RIP

* [[63](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C63)]
* **やっと緊急事態宣言解除**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 6月17日(木)05時34分6秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C70%5C)

となる今週末。ちょうど阪神競馬も再開で、4月以来に仁川へ行けそうです。そして翌週には宝塚記念。競馬場の入場は相変わらずの抽選制ですが、今年は行けるでしょうか。

[>>62](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C62)
> 優勝はシャフリヤールでしたかー！

名勝負でしたね。明暗を分けた10センチの差。エフフォーリアとはこれからもしのぎを削っていただきたい。
それにしても今年の競馬は、格クラスの王者が席巻した去年とは一転して、圧倒的一番人気馬がかなりの頻度で敗退しています。大阪杯でコントレイルがまさかの３着に敗れたのを皮切りに、オークスでソダシが8着、ダービーでエフフォーリアが2着、安田記念ではグランアレグリアが2着と、単勝オッズ1倍台の大本命馬が次々と負けています。去年だったら絶対勝ったのに。宝塚記念も前年覇者クロノジェネシスが1倍台だったら危ないかも？

テレビドラマはようやく追いつきました。「おかえりモネ」は朝ドラに新風を吹かせたいという気合を開幕週から感じます。健やかで穏やかだけど、その背景は恐ろしく重いというか。大震災ではほとんどの登場人物が無事だったけど、一人ですべての負債を抱える風の浅野忠信の新次だけに留まらず、皆の心に刻まれた深い爪痕が時折顔をもたげさせてくるとか。最初の二週で登米の森、次の二週で気仙沼の島を描き、今週からようやく気象予報士へのスタートラインへ立つかという流れもとてもスムースで、今後の展開に期待したくなります。気がかりなのはモネをして「何の役にも立たないよ」と切り捨てられた"音楽"の扱いで、父や妹を含めてかつての仲間が皆音楽を遠巻きにしている姿は何かを示唆しているようであり、たぶんサブテーマとして落とし前を付けてくれるのではないか、とも思っています。

> 「おかえりモネ」でシロさんとケンジの競演を見て、

モネ父がTVの朝岡を見て、モネに「こういう人がタイプか？」と聞いている来るシーンには、視聴者に「あんたのでしょ」とツッコませる狙いか？と驚いたけど、よく考えたら安達奈緒子といえば「透明なゆりかご」のみならず「きのう何食べた？」も手掛けてたのだから、意図的なキャクスティングなのだろうと腑に落ちました。登米では会えませんでしたが、その内に直接対決シーンもあるかもですね。それにしても「あまちゃん」や「なつぞら」を凌ぐかというほどのキャストの豪華さよ。若手も清原果耶の他にも蒔田彩珠に恒松祐里と邦画の期待株を起用していて大いに楽しみ。前田兄も出番多そう。

> 月曜の晩はBSで「ふたりっ子」再放送で若き日のケンジとれいわ新撰組山本太郎に時の流れを感じ……

懐かしいですね。オーロラ照子に狂った父。天才棋士に挑み結ばれ破局した妹。双子を生んだ姉。城崎に行ったときに内野聖陽のロケ地写真が飾られていて、この頃はこんな爽やかだったなあとしみじみしたことを思い出します。大石静は「大恋愛」「恋する母たち」「あのときキスしておけば」と、今も愛に自由で欲望に忠実な人間のドラマを描き続けてきて、清々しく思います。

> 現在続編放送中の「ドラゴン桜」の16年前の放送分を一挙に観てこういうドラマだったのか―、観ておけばよかったと思いました。

第1シリーズは楽しく見てました。桜木のロジカルなようで破天荒な言動が大風呂敷の秦建日子脚本と外連味重視のMMJ演出にジャストフィット。ガッキーとサエコはこのドラマが初見だったので今とは全然イメージ違ったですね。今回の第2シーズンはスタッフが一変し、伊與田P＆福澤克雄演出の「半沢&下ロケ」チームに入れ替わったせいで案の定それ風に。林遣都と佐野勇斗の乱入はいかにも邪魔で、それよりも加藤清史郎や平手友梨奈らの受験の奮闘を掘り下げ欲しいところ。しかしこのドラマも、「幼な子われらに生まれ」「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」の南沙良、「蜜蜂と遠雷」「ホリミヤ」の鈴鹿央士、「町田くんの世界」の細田佳央太とこちらも次代を担う若手俳優を投入してきましたね。TVドラマでも爪痕を残してほしいですね。

他のドラマでは、とうとう終わってしまった「大豆田とわ子と三人の元夫」。「カルテット」+「最高の離婚」という第一印象を大きく踏み外すことは無くも、時代に即した更なるアップデートを達成してきた坂元裕二の集大成作となった観。第９話の「あなたを選んで一人で生きることにした」と「(八作とかごめと)三人で生きていこうよ」には大きく唸りました。今、日本映画専門チャンネルで坂元裕二ドラマの一挙放送などを数か月にわたってやっているので「anone」や「Woman」なども見直してます。残りはNHKとテレ大(テレ東)と「コントが始まる」ですが、書ききれない。映画も今月から再開しました。どうにかこうにか、るろ剣二部作と傑作「ファーザー」&「アメリカン・ユートピア」だけは鑑賞。緊急事態宣言中も次々公開してどんどん終了させるのでついて行けません。「ザ・スイッチ」も「ジェントルメン」も「アオラレ」ももう間に合わないな。

> Peter Hammillのカバーアルバム In Translationはピアソラやミュージカル「南太平洋」（ご両親のレコードコレクションの中に映画のサントラがあったそうですね）のカバーも取り上げバリエーション豊かで楽しかったです。歌詞が印刷されていないのはつらいですが……

ようやく注文しました。ほとんどが非英語圏楽曲の英語翻訳カバーというのが面白そうです。

> 夏に出るというBOXセットは（Sofa Soundでは扱わず）Burning Shedで取り扱うようですが、送料が怖いです……

これは手が出ないかも。。。

* [[62](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C62)]
* **ダービー観戦（テレビで）**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2021年 6月 9日(水)15時11分46秒
* FL1-119-238-120-32.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C69%5C)

ｗさん、こんにちは。
優勝はシャフリヤールでしたかー！福永騎手は確信していたと思いますがウィニングランをせず判定結果を待っていましたね。

さて「おちょやん」終り「おかえりモネ」でシロさんとケンジの競演を見て、月曜の晩はBSで「ふたりっ子」再放送で若き日のケンジとれいわ新撰組山本太郎に時の流れを感じ……
今週は震災の傷癒えず、経済的にも精神的にも立ち直っていない人々の現実を。「おちょやん」のベタな笑いや演出を大いに楽しんだ後は、五輪に浮かれるどころでない市井の人々を丁寧に描いていると思いました。

そして「ふたりっ子」NOKKOの主題歌が懐かしい！リアルタイムで観ていました。
芦屋のお嬢様と駆け落ちした父は20年後に演歌歌手と駆け落ち、双子の片割れは財閥御曹司と気鋭の棋士の間で揺れ動き、身を寄せた芦屋のお屋敷では凄まじいリベンジDVの嵐。家業の豆腐屋は「もうお父ちゃんを待つのはやめた」母が一人で支えると意気込む。思えば平日朝8時といえば家の近い小学生ならまだ登校前で、その時間帯にこんな重い内容をぶつけた大石静おそるべし。

現在続編放送中の「ドラゴン桜」の16年前の放送分を一挙に観てこういうドラマだったのか―、観ておけばよかったと思いました。ガッキーが、山Pが、長澤まさみがピチピチの10代、テルマエロマエか全然変わっていない阿部寛。今放送中のシリーズのほうでは健太役の細田佳央太、相当台本と発達障害について読み込んでいるようでした。

田村正和さんの訃報を受け古畑任三郎の再放送も録画したので、暇をみつけて見直そうと思っています。

Peter Hammillのカバーアルバム In Translationはピアソラやミュージカル「南太平洋」（ご両親のレコードコレクションの中に映画のサントラがあったそうですね）のカバーも取り上げバリエーション豊かで楽しかったです。歌詞が印刷されていないのはつらいですが……
夏に出るというBOXセットは（Sofa Soundでは扱わず）Burning Shedで取り扱うようですが、送料が怖いです……

* [[61](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C61)]
* **今年のダービーも自宅観戦**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 5月31日(月)02時14分23秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C68%5C)

しました。去年のコントレイルに続いて福永祐一が連覇しエフフォーリアの無敗二冠を阻止。今年のダービー馬シャフリヤールの前走の毎日杯(大レコード勝ち)は仁川で現地観戦しましたが、強いと思ったけど、ダービーに直行して勝つとは思わなんだ。数年前までは死のステップだったし。いろいろ競馬の常識は塗り替えられていくようです。ところでオークスでソダシを破ったユーバーレーベンは、それまでソダシに三敗してた馬。シャフリヤールは唯一の黒星をエフフォーリアに付けられていた馬。今年の競馬のテーマは大一番での逆転だったのか。

この間にテレビが壊れました。正確には液晶テレビ画面の色調と明度がおかしくなり、画面が真っ白や真っ黒になって何が映っているかよくわからない状態に陥りましたが、テレビと一体化した録画機能の方は正常なので、先週購入した新品テレビと併用している状態です。しかし新しいテレビは快適で、録画本数がすでに爆発する傾向です。まだ旧録を見直してる段階なので、まだ「おかえりモネ」にも、かごめちゃんがああなって以降の第2部「大豆田とわ子」にも、円四郎がああなってしまうらしい直近の「青天を衝け」にも着手できてません。「おちょやん」は無事に完走です。

[>>60](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C60)
> 「桂春団治」を介して一平との関係にケリを付けることの方が主眼となりそう。
と予想していた「おちょやん」でしたが「お家はんと直どん」の仕切り直しで幕となりました。道頓堀で親しい人たちに見守られて舞台復帰する形でのケジメは付けたかったのでしょう。客席にお母ちゃんとテルヲとヨシヲの姿を幻視したのにはさすがにぐっと来ました(「ペコロスの母～」を彷彿)。トータルとしては女の一代記モノとしては朝ドラ史上に残る苛烈さで最初から最後までシンドイ話でしたが、女優や喜劇というモノに対するスタンスは一貫していてスジは通したというところ。惜しらくは当初の通りもう2週分あれば映画女優時代や晩年まで描けたでは、というあたり。吉本よりも松竹多め、成田凌&若葉竜也以外のイケメン少な目など、キャクスティングの妙にも唸りました。杉咲花は高性能&高感度すぎて次の仕事のハードルは相当に上がりそう。それにしても、浪花千栄子の懐古放映などもっとやって欲しかったとも。

映画は近郊では土日休館しているので何も見れてません。「ファーザー」「アメリカン・ユートピア」「ビーチ・バム」「茜色に焼かれる」とか、見られる日は来るだろうか。世の中では、田中邦衛、橋田壽賀子、田村正和、菊池俊輔、三浦建太郎の訃報に、有吉弘行&夏目三久、星野源&新垣結衣の結婚と、悲喜こもごもとしか言いようがないです。

* [[60](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C60)]
* **トホホのGWが終わって**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 5月11日(火)05時02分22秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C67%5C)

関西エリアは5月末まで延長。休暇明けは早速在宅メインにシフト。まだまだ厳しい日々から抜け出せません。

[>>59](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C59)
> 競馬場無観客と映画館休業という1年前のデジャブ。

でも兵庫の一部の映画館は水曜から時短での営業再開。土日は休業するみたいなのでまだまだか。大阪の方は全面休業継続するところが多いので、普段賑わっているところが取り残されるという事態に。となると今月いっぱいは新作上映は見送られるか。るろ剣とかジェントルメンとかいつ見られますやら。

[>>](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C) そして「おちょやん」もいよいよ残すところあと4週。
> 次週から救世主となる塚地が出てきますが、残りは3週間、たった15回です。

最終週になりました。先々週の、千代が女優復帰し、花の贈り主がわかった105話が一つのクライマックスで、やはり血縁を超えた絆に支えられてきたことが、彼女を家族の枠を超えた「大阪のお母ちゃん」として大衆から愛される存在に導いた道しるべとなることが示され、一番のエッセンスがこの時に語り尽くされた感。残りの時間は映画女優の世界に舞い戻って「夫婦善哉」「彼岸花」「悪名」などが順次取り上げられるかと思いきや、「桂春団治」を介して一平との関係にケリを付けることの方が主眼となりそう。それにしても、花車当郎が花菱アチャコで、春子が養女になることは想定しましたけど、寛治が藤山寛美だったとは。一平を叱りつけるシーンになるまで気付かなかった。。。そうか、満州に渡っていたのは史実だったんですね。

「青天を衝く」は第一部の総集編(なぜ深夜に放送?)を経て、第二部の京都編に突入し、満を持してディーン五代さん登場。新選組も出てきました。いよいよ本番。これまでが長い助走だった感じもしますが、方や慶喜と円四郎についてはかなり濃密に描かれていてた観。大政奉還まであっという間でしょうけど、楽しみです。

他はやはり「大豆田とわ子と三人の元夫」と「コントが始まる」が圧倒。中盤なのにまだまだ奥が深く、この後も新キャラ投入があるのではという期待も(「カルテット」の宮藤官九郎や「俺の話は長い」の倉科カナみたいな)。NHKの連ドラも好調で、渡辺あやの「今ここにある危機とぼくの好感度について」に「きれいのくに」「半径5メートル」とどれも面白い。民放も「イチケイのカラス」「珈琲いかがでしょう」「ネメシス」「コタローは1人暮らし」そして「ドラゴン桜」に「リコカツ」も割と楽しんで見ています。一番変なのはサンテレビの「惑星スミスでネイキッドランチを」。それしても主役が研音とトップコートばっかりだ。

音楽はロンバケVOX後遺症(というか、これによる金欠のせいで)、新譜が全然買えてません。PHのカバーアルバムも未注文。ですから、カリスマボックスなんて、ちょっと。。。仕方ないので旧譜ばっかり聞いています。去年はプログレ、ニューウェーブ、R&B、フュージョン、坂本龍一周辺を聞きまくりましたが、今年はもっともっとベタな王道英米ロックばかり。ジョージ・ハリスン、シカゴ、初期のフリートウッド・マック、トラフィック、プロコル・ハルム、スプーキー・トゥース、ロッド・スチュワート、ロン・ウッド、フリー、モット・ザ・フープル、バッド・カンパニー、ロリー・ギャラガー、ハンブル・パイ、スティーヴ・マリオット、ピーター・フランプトン、ELO、スーパートランプ、ベック・ボガート＆アピス、J.ガイルズ・バンド、スティーヴ・ミラー・バンド、タワー・オブ・パワー、ジェイムス・テイラー、ドゥービー・ブラザーズ、リトル・フィート、ホール＆オーツ、グランド・ファンク・レイルロード、オールマン・ブラザーズ・バンド、レーナード・スキナード、ジョー・ウォルシュ、ブラック・サバス、シン・リジィ、ベーブ・ルース、アリス・クーパー、ブルー・オイスター・カルト、ハート、ホークウインド、モーターヘッド、AC/DC、ザ・ブームタウン・ラッツ、ザ・プリテンダーズ等等。ずっと聞き続けているものもあれば、高校時代以来30～40年ぶりに聞いたものも。どれもベタで王道ですが、抗えないです。

* [[59](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C59)]
* **トホホのGW直前**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 4月26日(月)04時52分19秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C66%5C)

[>>58](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C58)
> 一年前よりも感染者の桁が違っているのを考えると不思議な気持ちですが、競馬場と映画館はいまだになんとか入場受け入れ中ですね。

などと書いていたら一週間で緊急事態宣言再発出となって、競馬場無観客と映画館休業という1年前のデジャブ。口(指?)は災いの元と言いたくなります。

> 再来週の天皇賞は阪神開催ですので

楽しみにしたんですが。

> 「テスラ」「水を抱く女」「ザ・スイッチ」「２１ブリッジ」なども見たいですが。。。

宣言前の滑りこみでペッツォルトの「水を抱く女」だけは見てきました。この監督は3作前の「東ベルリンから来た女」から追いかけていますが、今回も面白かったです。原題から水の精の話かなと察しは着いたものの、これが2人の陸の男を巡る話としたことで予想を超えた展開に。こうした幾分ファンタジックなモチーフにベルリン都市開発における進歩と懐古というドイツ近代史的テーマを絡めるのがこの監督らしい一貫性の現われかと。「東ベルリン～」と2作前の「あの日のように抱きしめて」の時と同様に前作「未来を乗り換えた男」のメインの男優と女優を再度起用するのも楽しめたし、前作のTalking Headsみたいな意表を突く楽曲が今回も使われて嬉しかったです。

> そして「おちょやん」もいよいよ残すところあと4週。
> 鶴亀家庭劇～鶴亀新喜劇編も今週で終わってしまう模様。

まさに激動の週。100話目が最も悲痛な回になってしまいました。月曜から連日の修羅場で不倫発覚→妊娠発覚→離婚届→離縁決意→千代失踪(退団)までたった5日で駆け抜けました。「40過ぎてまた同じこと繰り返してしもうた」(=2度も自分ではなく新しく生まれて来る子供の方が選ばれた)というセリフがありましたが、徹底的に実の家族からの愛に恵まれなかったことを千代の運命とするようです。それがその後の女優人生を決定づける土台として描くのでしょう。次週から救世主となる塚地が出てきますが、残りは3週間、たった15回です。それはさすがに駆け足では。

* [[58](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C58)]
* **春競馬、春ドラマ、2021年1月～3月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 4月19日(月)03時10分20秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C65%5C)

いろいろ大変ですが、消毒して/密を避けて/家族以外と会食しない等を守ってどうにか乗り切ってます。一年前よりも感染者の桁が違っているのを考えると不思議な気持ちですが、競馬場と映画館はいまだになんとか入場受け入れ中ですね。競馬は春のG1シーズンたけなわですけど、大阪杯に続いて桜花賞も入場券を入手できず、現地観戦断念。生コントレイルも生ソダシも依然見られず。今日は入場券GETできたので仁川で競馬観戦しましたが、お目当ての皐月賞は当然関東なのでターフビジョン越し。こういう現地G1じゃない日は楽に見に行けますが、現地G1になった途端に熾烈を極めます。再来週の天皇賞は阪神開催ですので、この調子だと困難でしょうね。しかもＧＷ中ですから、旅行できなかった人が流れてくるかもしれませんし。

映画は今月も面白い作品がいろいろ出てきました。洋画では「パーム・スプリングス」、邦画では「街の上で」が素晴らしかったです。前者は予告でも明らかにされている通り「恋はデジャブ」系のタイムループ映画ですが、「永遠(の人生/恋愛)は理想か」ということへの踏み込み方など新しさを感じます。後味も爽やか。後者は今泉力哉監督による超長回し主体の会話劇ですが、中盤以降の展開は大層驚きました。公開を1年遅らせたことで若葉竜也(主演)と成田凌という「おちょやん」の二人の共演という形で見ることができたのも趣があってよかったです。下北沢が舞台で、ここは昔の職場の近くだったのでいろいろと懐かしく。立ち退きのうわさのあった「江戸っ子ラーメン 珉亭」も健在でほっとしました。でも(映画には関係ないですが)「ふらんす亭」の1号店やカレーパンの名店「アンゼリカ」などはすでに無くなっているそうで、変わりゆく街なんだなという寂しさがありますね。

他に見たのは、なんというか「運命のボタン」や「ミッドサマー」に匹敵する不条理ホラーの「ビバリウム」(エンディングにXTCのあの曲が流れてきたのにはびっくり！)、これまた"連載終了からかなり経ってから念願の実写化"案件の「ホムンクルス」(レイトショーなど割引上映を一切しなかったのはなぜだろう。ネトフリ公開予定だからか)。「クレイマー、クレイマー」+「レインマン」という２大ダスティン・ホフマン映画を連想してしまう「旅立つ息子へ」、「燃ゆる女の肖像」と被る状況設定ながら最後になって大分立ち位置が違ったことがわかった「アンモナイトの目覚め」など。「テスラ」「水を抱く女」「ザ・スイッチ」「２１ブリッジ」なども見たいですが。。。

連ドラもいろいろと始動。坂元裕二の「大豆田とわ子と三人の元夫」と金子茂樹の「コントが始まる」を筆頭に、「イチケイのカラス」「珈琲いかがでしょう」「生きるとか死ぬとか父親とか」「私の夫は冷凍庫に眠っている」「きれいのくに」あたりを楽しんでいます。そして「おちょやん」もいよいよ残すところあと4週。テルヲの死と戦争を挟んでじっくり描いた鶴亀家庭劇～鶴亀新喜劇編も今週で終わってしまう模様。となるとその後は相当に駆け足になりそう。すでに花菱アチャコ相当となる塚地武雅もすでに登場させるなど伏線は引かれていますが、さて。

最後に1月～3月に劇場で見た映画の星取り表を。見逃がせないと思ってる作品はどうにか見れてますね。

◎１月
Swallow スワロウ ★★★★☆
この世界に残されて ★★★☆
聖なる犯罪者 ★★★★☆

◎２月
どん底作家の人生に幸あれ! ★★★☆
KCIA 南山の部長たち ★★★★
花束みたいな恋をした ★★★★☆
天国にちがいない ★★★★
すばらしき世界 ★★★★★
世界で一番しあわせな食堂 ★★★☆
あのこは貴族 ★★★★☆

◎３月
藁にもすがる獣たち ★★★★
37セカンズ ★★★★☆
喜劇 愛妻物語 ★★★★
ミナリ ★★★★☆
DAU. ナターシャ ★★★
ノマドランド ★★★★★
シン・エヴァンゲリオン劇場版 ★★★★☆

* [[57](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C57)]
* **いろいろ春の祭りがあった3月**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 3月31日(水)05時25分54秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C64%5C)

緊急事態宣言の漸次的解除もあり、春の訪れとともに今月はいたるところ賑やかな「祭り」があったそうで。たとえば
3/8  シン・エヴァンゲリオン劇場版 公開
3/13 JRA 阪神競馬 観客入場再開
3/15 第63回グラミー賞 授賞式
3/15 第93回アカデミー賞 ノミネート発表
3/19 第93回選抜高等学校野球大会 開幕
3/21 大滝詠一『A LONG VACATION』発売40周年記念 完全生産限定盤VOX 発売
3/26 TBSドラマ「俺の家の話」最終回

などなど。どれも、嗚呼良かったねえとしみじみ思えるものですが、一部その波に乗り切れなかったものもあり、センバツは準々決勝の予定だった28日日曜日に指定席を確保したものの、雨で順延となり払い戻しの憂き目(なんで二週続けて日曜に降るんだよ！)。阪神競馬も毎日杯のあった27日土曜日にようやく指定席を確保して現地観戦できたものの、次週の大阪杯は全席アウト。またしてもコントレイルを生で見る機会を逃してしまい涙。この分だと桜花賞や天皇賞も厳しいかな。でもシンエヴァは公開20日後にどうにか鑑賞。ロンバケVOX(驚異の25300円！)もやっとの思いで入手。その反動でへとへとです。

センバツは大阪桐蔭が早々に敗れたり、仙台育英と智弁学園がベスト8で消えたり、思ったよりも難解な大会に。現時点では東海大相模と中京大中京の決勝になるかと思いますがどうかなあ。今回は入場制限での全席指定で、生ブラバンもビールの売り子も無しという相当寂しい大会ではありますけど、それでも見たかった。特にあの「アルプススタンドのはしの方」を生んだ東播磨高校は私も「はしの方」で応援して見たかったです。

シンエヴァには私も思わず感動してしまい、なるほど、311とシンゴジラを経てからこその境地かと深く伝わりました。ほぼ悔いのない終劇となってよかったです。ちょっと全方位的に抜かりないほどの落とし前の付けっぷりには「エンドゲーム」を思い出したり。ただ「VOYAGER」にはさすがに声が出ました。

ほかに見た映画では邦画の充実ぶりが著しく、「花束みたいな恋をした」以降も「あのこは貴族」「すばらしき世界」と相次いで傑作が。「貴族」は女性を取り巻く東京中心とする階級社会の話だと見ていたら、"第三章"から思いがけず、あまり(邦画では)見たことのないところへ連れていかれてしまい、かなり驚きました。「世界」は"罪人"である主人公をえぐり続けてきた西川美和らしく苛烈なドラマですが、終盤に出てくる孤児院、介護施設、そして電話からラストまでのシーンには、手懐けることのできない悲しみについ憑りつかれました。そしてうまく言えないですが「本気のしるし」「罪の声」に通じる、人を赦し救済することの重さと難しさを深く感じました。あとは昨年分からの落穂拾いで「37セカンズ」「喜劇愛妻物語」をようやく鑑賞。しかし「風の電話」「れいこいるか」「アンダードッグ」はタイミング合わず。またの機会に。

洋画では期待の「ミナリ」と「ノマドランド」。劇場公開米国映画の救世主はA24と(元FOX)サーチライトなのか。奇しくもいずれもアジア系監督による米国映画ですが、まるでテレンス・マリックを思わせる映像美と宗教観で神々しさまで感じます。単純化すると「ミナリ」は米国版「北の国から」か「家族」、「ノマドランド」は最新式の放浪系ニューシネマってことになるけれど、共に一歩足を踏み外せば這い上がれない奈落がそばにある感覚が現代的なのだろうか。これでアカデミー賞作品賞候補としては「シカゴ7裁判」と「マンク」を含めて8作中4作までは鑑賞。例年よりはやっぱり少ない。この中だと一番好きなのは「シカゴ7裁判」だけど、可能性が一番高いのは「ノマドランド」か、というところ。他に見たのは、こんなアジアンヘイトの時代には眩しすぎる「世界で一番しあわせな食堂」、快いほどほぼ全員地獄行の"ヤバい金"ノワール「藁にもすがる獣たち」、ハネケやザイドルと同級の悪意にめげそうになる「DAU.ナターシャ」など。

今クールのTVドラマは、まぁ最後の最後で「能とプロレス」をモチーフにした意味と、「継承と別れ」「家と私」「老いと死」といったテーマを明るみにすべく、最終回ですべて抱え上げてひっくり返してきた「俺の家の話」にすべて持っていかれました。いやーすごいわ。クドカンも西田敏行も、そして最高レベルのアウトプットでもって役者人生と別れを告げる長瀬智也も素晴らしかったです。感謝したい。第3のキーパーソンの登場によって「入れ替わりには共闘が必然」というセオリーに説得力を持たせることのできた「天国と地獄」もお見事でした。ファンタジックなのに誰もが訳あり過ぎる「にじいろカルテ」も涙したけど、「天国と地獄」ともどもメインキャラに「朔」と新月を意図する名付けしたのは偶然か？「にじいろ」の"色+天体"人名のオンパレードには笑いました。「レッドアイズ」の伏見(亀梨)の宿敵が鳥羽(高嶋弟)というのも考え過ぎなのか考え無しなのか。あとの収穫は「ウチカレ」「アノニマス」「倫理です」「書けないッ」「モコミ」「おじさまと猫」「僕街」など。ついでにアニメの「約ネバSeason2」がワンクールで駆け抜けるように終わったのには驚きました。そして「進撃の巨人The Final Season」の「冬に続く」にはひっくり返りました。Seasonって、なんなんだろう。。。。

[>>56](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C56)
> 日曜の朝に録画していた太平記、夜に麒麟が来るを見ていたので、
> 太平記で尊氏に足蹴にされヒイヒイ泣いていた高師直を見たその晩に、信長に足蹴にされる十兵衛を見るとすごい既視感が（そして脚本家も同じ！）
太平記の最終回は昔リアルタイムで見た時には直義の毒殺シーンが唯々悲しかったのですが、改めてみると今回の本能寺の信長の心情ともシンクロしているように見えて、びっくりしました。

> 十兵衛は天に届く樹を切り倒すという決断を迫られるわけですが、常に親の愛情を求めていた信長にとって親代わりの二人の手にかかることはむしろ本望ではなかったかと……
明らかに、そういうように見てほしいという意図が感じられましたね。

> おちょやん、弟のヨシヲは今後どうなるのか？
神戸に戻って後の大親分に出世？と思ったりしましたが、もう居ないとは。

> 紫のバラの君（違う）はいったい誰なのか？ヨシヲでなければ一平か、そうとみせかけて実は（まさか）テルヲ……
テルヲも死んでしまい、そうなると道頓堀にいることを知っているとなれば、南河内のご近所(吉本新喜劇の烏川さん)の長男坊あたりでしょうか。
さもなくば栗子(宮澤エマ)？あるいはテルヲと栗子の間の子？

* [[56](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C56)]
* **麒麟ロス**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2021年 2月27日(土)21時13分16秒
* FL1-219-107-84-184.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C63%5C)

ｗさん、こんにちは（もう2月も終わろうとしておりますが義父義母の法事がめじろ押しでやっとひといきつきました。）
日曜の朝に録画していた太平記、夜に麒麟が来るを見ていたので、
太平記で尊氏に足蹴にされヒイヒイ泣いていた高師直を見たその晩に、信長に足蹴にされる十兵衛を見るとすごい既視感が（そして脚本家も同じ！）
最終回の信長は敦盛なし、安らかな童子のような表情で果てておりました。
帰蝶と自分で信長という怪物を育ててしまった、蝮の娘は「毒を盛る」といい
十兵衛は天に届く樹を切り倒すという決断を迫られるわけですが、常に親の愛情を求めていた信長にとって親代わりの二人の手にかかることはむしろ本望ではなかったかと……
などと考える大河でございました。

おちょやん、弟のヨシヲは今後どうなるのか？
紫のバラの君（違う）はいったい誰なのか？ヨシヲでなければ一平か、そうとみせかけて実は（まさか）テルヲ……

* [[55](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C55)]
* **麒麟は、きたのかな**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 2月13日(土)02時46分19秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C62%5C)

「麒麟がくる」終わりました。大河ドラマとしては前代未聞の幕切れでしたね。大概"非業の最期"系の大河では古くは「風と雲と虹と」とか「信長 KING OF ZIPANGU」「新選組！」「義経」「風林火山」「龍馬伝」「西郷どん」など主人公の戦死/自害/処刑/暗殺で終えるのが常套ですが(直接その死を描かないという意味では「真田丸」の流れではあるのかもですが)、最終回メインを本能寺に集中させ、その後をナレ死ならぬナレ山崎で処理し、天海僧正説も仄めかすようなラストにするとは。宴席での叱責からの「2人で茶でも飲んで」を経ての「(我が敵)その名は織田信長と申す」へのジェットコースターも凄いし。秀吉や帝までも光秀が謀反を起こすのは必然と知っている状況も多分前例になく、思いもよらなかったのは信長だけという哀しすぎる帰結。エピローグを帝と将軍で締めたのにも驚かされましたが、現在並走している「太平記」再放送を思えばなるほど池端脚本というか、帝と足利氏の相克で始まった室町時代を帝と足利氏の視点で畳むというのがサブテーマだったかということにようやく気付く最終回でした。果たして駒や菊丸は麒麟を見たか。

そして今度の日曜はもう大森美香大河が始まるけど、そんな急に気持ちを切り替えられるかどうか。なんとディーン五代さん再起用のニュースがフライングで来ましたが、ということは吉沢亮は途中から三宅裕司になる、訳ないか。

「おちょやん」は鶴亀家庭劇を立ち上げてから千之助と社長に認めてもらうまでに二週間。千鳥一座編と撮影所編をそれぞれ二週間で駆け抜けたのを思うと相対的にじっくり進めている感。「ちりとてちん」なら徒然亭一門が復活するまでの、スタート台に立ったぐらいの位置づけですかね。話数的にはまだ半分まで来ていないので(～50話)、例年なら12月半ばぐらいです。そのうちに鶴亀新喜劇も始まり、しばらくは明るく楽しい話が続くのかと思いたいですが、破局と退団は約束されていますので、それがどのタイミングなのか気がかりです。

民放ドラマは「俺の家の話」「天国と地獄」「書けないッ!」「にじいろカルテ」「バイプレイヤーズ」「直ちゃんは小学三年生」「おじさまと猫」とやっぱりTBS系とテレ朝系とテレ東系が強いです。ちょっと気になっているのが日テレ系の「レッドアイズ」で、ガワは「絶対零度」や「ボイス」等の何番煎じみたいな設定ですが、容疑者がテッド・バンディやゾディアックなど有名殺人鬼の模倣だったり(「サタノファニ」か)、主要人物名が古戦場の名前ばかりだったり(伏見、島原、山崎、湊川、小牧、長久手、長篠、姉川などなど)、妙な拘りが気になります。狙いは何だろうか。2年前にも同じ枠の「イノセンス」でも登場人物名がみんな温泉地名だったことがありましたが(黒川、和倉、秋保、有馬、別府、湯布院、城崎、登別、石和、指宿、鳴子などなどなど。ゲストにも阿蘇とか雲仙とか道後なんて人も)。

映画ではヒット中の「花束みたいな恋をした」ですね。"破局の名手"坂元裕二脚本の面目躍如という作品で、サブカル好きへの東京ラブストーリーと言っちゃえば座りはいいですが、同じ趣味で同じ考え方で同じ経済観念を持ってしても埋められない僅差が譲れない生き方の違いを生む的な話なので、これは「ラ・ラ・ランド」「ブルー・バレンタイン」「マリッジ・ストーリー」よりも見ていて厳しい気持ちです。そりゃカウリスマキ見ても心が虚ろだというのならそりゃしんどいのでしょう。

外国物でまず良かったのは、麒麟の最終回直前に見て、主人公が光秀なら、朴正煕が信長、最後に利を得る"イアーゴ"が秀吉か、すると家康はあの人？とそのシンクロぶりにたまげた「KCIA 南山の部長たち」ですね。「どん底作家の人生に幸あれ」は主役のデヴ・パテルを筆頭に人種を全面度外視脚色した「デヴィッド・コパフィールド」でしたが、ベン・ウィショー演じるユーライア・ヒープにどうしても目を奪われます。初めて見るエリア・スレイマン監督の「天国にちがいない」は、ロイ・アンダーソン+カウリスマキみたいな脱力系ショートムービー集の趣き。小鳥のシーンと公園の天使のシーンをたびたび思い出します。

ひっそりとキネ旬ベスト10が発表に。洋画ではベスト10中9作、邦画では7作まで鑑賞済。洋画で見逃したのは8時間越え映画「死霊魂」ですのでねぇ。ちなみに私が星取りで5つ星献上した作品だと、邦画の「海辺の映画館」が2位、洋画ではベスト10中8作を占めとりました。キネ旬層とのシンクロ率が高かったというか、みんな見るもの好むものが同じというか。アカデミー賞はどうなるのでしょうね。候補になりそうなので既に見たのは「シカゴ7裁判」「Mank/マンク」「ザ・プロム」と劇場で短期公開されたNetflix作品だけという有様。この先に劇場で見れそうなのはサーチライトの「ノマドランド」とA24の「ミナリ」ぐらいでしょうか。

[>>53](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C53)
> Paulの「McCartney III」は間に合わず未聴。

ようやく聞きました。前作とはだいぶ趣が違い、過去のMcCartneyシリーズより相当ラフな作品でしたが、PHの近作を彷彿させるなどとてもよかったです。ほかにも去年の落穂拾いでいろいろ購入しましたが、特に素晴らしかったのはSam GendelとMeritxell Neddermann。そうそう、堀込高樹の「共演NG」サントラも。テーマ曲が１分間のTVサイズしかないのが残念だけど、繰り返し聞いてしまう。♪険悪、殺伐、一触即発、撲殺～

今月に入ってからはクリストファー・プラマー、森山周一郎、 鴨下信一、ラリー・フリント、そしてチック・コリアが亡くなりました。「Now He Sings, Now He Sobs」「Light As A Feather」「Crystal Silence」などはもちろん「Tap Step」「Three Quartets」やReturn To ForeverやElectric Bandなど学生時代はかなり愛聴していました。意外と今聞いても良さを感じます。合掌。

* [[54](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C54)]
* **2021年も、なかなか**
* 投稿者：w
* 投稿日：2021年 1月31日(日)07時23分47秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C61%5C)

明けましておめでとうございます、ってもう一月も終わり。その間に緊急事態宣言発令。またかよ。と思いつつも去年の4月頃の緊張感は世間から漂ってはこず。飲食店や映画館などが20時に閉まったり、競馬場が再び無観客&WINS発売停止ぐらいで、本当に不要不急の外出がまったくできない感じは無し。去年の7月ぐらいのムードじゃないですかね。でも今年のセンバツは普通の開催できるそうなので、各チーム一試合しかできなかった昨夏甲子園を思えば、緩くなったかというかこなれてきたというか。でも去年の5月末の水準までに戻ることができるのかどうか。今後の仕事への影響も無視できず、心配は尽きません。

ここ一か月のトピックというと、欧米でのワクチン接種開始とか、米国大統領交代劇に纏わる混乱とかありますが、最も響いたのはフィル・スペクターの訃報ですかね。なかなかここまで晩節を汚した人もいないと思いつつ、でも自分が中学生時分だった70年代末期でも、レコードプロデューサーといえばフィル・スペクターだと刷り込まれていたのだから凄い影響力。リアルタイムではRamonesの『End of the Century』ぐらいだったんじゃないかな。後世への影響では『A Long Vacation』や「Don't Answer Me」という決定打があるけれど、今思えばBiily Joel「Say Goodbye To Hollywood」、ELO「Confusion」、Hall & Oates「The Last Time」、Elvis Costello「No Dancing」、山下達郎「2000トンの雨」などのウォールオブサウンド影響下の楽曲を既に浴びてきた訳で、モータウンやフィリーサウンド同様に一ジャンルとして血肉に浸み込んで抗えないことを、今朝聞いたピーターバラカンの番組のスペクター追悼特集を聞いて実感しました。ご冥福を。

テレビドラマは今週でようやく連ドラが一通り出揃った感。深夜ドラマが今クールになって更に多いけれど(特に土曜！)、どこまで追従できるか。現時点ではクドカン「俺の家の話」が案の定の素晴らしさ。伝統芸の継承に相続と介護というヘビーなテーマを軸にしつつも「タイガー&ドラゴン」と「うぬぼれ刑事」の記憶を喚起させる軽やかさ。「コロナ禍の今を生きる」覚悟を持った数少ないドラマでもあり。森下佳子「天国と地獄」、北川悦吏子「ウチの娘は彼氏が出来ない」、岡田惠和「にじいろカルテ」、橋部敦子「知ってるワイフ」と「モコミ」、福田靖「書けないッ!?」なども楽しみにしています。警察モノも多いけど「アノニマス」「レッドアイズ」「青のSP」などまあまあか。深夜帯では「ここは今から倫理です。」「バイプレイヤーズ」「江戸モアゼル」「おじさまと猫」「夢中さ、きみに。」「ミヤコが京都にやって来た！」「僕だけがいない街」(連ドラにもなったか)などを楽しく視聴中。「麒麟」はいよいよ最終章。信長もとうとう酷い奴になり、帰蝶が動くという唸る展開に。結末どうなりますやら。あ、「光秀のスマホ」面白かったです。うちの奥さんはFUMIがすっかりお気に入りに。「おちょやん」は「ビール月間一位」を伏線に敷いた小暮さんとの恋の終わらせ方は素敵でしたね。若葉竜也は「野ブタ」のシッタカ、「愛がなんだ」のナカハラと恋に敗れる役が様になってて哀しいところもありますが。そしてもう道頓堀に戻れるのですね。いよいよ松竹(?)家庭劇編に突入。元花組トップの明日海りおがどんな感じになるのか気になります。

映画はさすがに本数激減。今月見たのは「Swallow/スワロウ」「この世界に残されて」「聖なる犯罪者」だけかな。どれも重い気持ちが残るけど、大作系とは違ってちゃんと劇場にかけられるのはいいこと。でも現状、見たい作品は相対的に減り続けているのがつらいです。まだまだ配信には踏み切れないのですが。。。

* [[53](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C53)]
* **2020年ベスト**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年12月31日(木)23時23分29秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C60%5C)

[>>51](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C51)
まずは訂正。「2着のサリオス」ではなく「2着のサラキア」でした。失礼しました。

今年も年末恒例、紅白を見ながらの今年ラストの打ち込みです。ステージに人が少なくて寂しいな、ジャニーズばっかりだなと思いつつも、例年よりコント成分少な目で見やすいです。

・CD
Aksak Maboul/FIGURES
Jakko M. Jakszyk/Secrets & Lies
米津玄師/STRAY SHEEP
Prep/PREP
The 1975/Notes on a Conditional Form
Thundercat/It Is What It Is
Jaga Jazzist/Pyramid
Jonsi/Shiver
Crazy Ken Band/NOW
Fiona Apple/Fetch the Bolt Cutters

今年は旧作ばっかり聞いたので新作は健聴数が少なくて、あまり新しいのには手が出ず。そんな中では英国版シティポップというよりもPilotやSqueezeなどニッチポップ系と言いたくなるPrepは良かったです。米津玄師はソングライターとしてはもちろん、ボーカリストとしても玉置浩二の後継者になり得る存在として素晴らしいと思います。そしてやっぱり最も感動したのはベテラン勢のAksak MaboulとJakko。年末にはSigur RosのJonsiのソロとKirinjiのベストを聞きまくりましたが、Paulの「McCartney III」は間に合わず未聴。ちなみに今年一番よく聞いたのはGentle Giant, Jethro Tull, PFM, Hatfield & The North, Pat Metheney Group, Jean-Luc Ponty, The Pop Group, The Raincoats, RCサクセション、大貫妙子、そして鈴木さえ子です。そうそう、さえ子さんのMIDIの2作品を買い直しました。音も良いしライナーも面白いです。普通に慶一さんと対談するんだ、とか。

・映画
海辺の映画館-キネマの玉手箱
TENET テネット
ミッドサマー ディレクターズカット版
パラサイト 半地下の家族
はちどり
燃ゆる女の肖像
1917 命をかけた伝令(IMAX)
異端の鳥
バクラウ 地図から消された村
娘は戦場で生まれた

今年は劇場に全然行けてない、と思った割には見た映画は豊作だったです、個人的には。大林監督の遺作は、強い思い入れのある「その日の前に」のワンシーンと再会したことの感動が上乗せしてるかも。テネットはIMAX版を見逃したのが残念。他にも「37セカンズ」「エクストリーム・ジョブ」「マーティン・エデン」「ブルータル・ジャスティス」「佐々木、イン、マイマイン」「ザ・バンド かつて僕らは兄弟だった」なども見ておきたかった。次点は「ナイブズ・アウト」「ジョジョ・ラビット」「赤い闇」「鵞鳥湖の夜」「シカゴ７裁判」「本気のしるし」など。

・連続TVドラマ
MIU404
スカーレット
コタキ兄弟と四苦八苦
麒麟がくる
心の傷を癒すということ
天使にリクエストを
#リモラブ
30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい
僕はどこから
これっきりサマー

同じ言葉ばかり書いているのですみませんが、相変わらず野木亜紀子ドラマとNHKとテレ東深夜(テレビ大阪)だけ追っていれば8割はオッケーという感じです。それだけ他の民放が落ち込んでいる?視聴率好調のTBSにしたって「半沢」「テセウス」「恋つづ」、テレ朝も「M」「先生を消す方程式」などは個人的にはあまり買ってませんので。今年は夏頃にリモードラマがいろいろ作られたのに、その意識を引き継いだ作品が「#リモラブ」ぐらいだったには軽く落胆しました。あと「エール」や「おカネの切れ目が恋のはじまり」などが当初の予定通りに作られていたらと思いますが詮無い話。配信ドラマが盛んになると地上波ドラマのクオリティは心配になってくる一方ですが、まだ枠が減るところまでは行ってないので、まあ気長に構えたいです。次点は意外なところで「恐怖新聞」「妖怪シェアハウス」「いいね!光源氏くん」「女子高生の無駄づかい」「あのコの夢を見たんです。」など。

[>>52](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C52)
「おちょやん」は出だしはヘビーでしたが結構面白いですね。武田鉄矢とか去年の北村一輝を上回るトータス松本のウルトラクソ親父ぶりには悲しくなりますが、その分だけ杉咲さんが輝いてくれそうです。京都編も楽しみです。ちなみに「光秀のスマホ」「ノースライト」「岸辺露伴は動かない」「アーヤと魔女」は録画してますが積読状態。この年始はどこにも行かないのでゆっくり見ようと思います。

紅白も終盤。郷ひろみで筒美京平トリビュートなら「花とみつばち」も付け足してほしかったとかありますね。後半に入ってからのエールコーナーは良かったですが、その後のGreeeenのバーチャル登場で吹っ飛んでしまいました。PERFUMEにBABYMETALをぶつけてきたのも面白かったです。嵐コーナーと鬼滅コーナーは早めに終わってしまいましたが、今年も氷川きよしが一番盛り上がったかな。そしてユーミンの後は玉置浩二だ！

ではまた、良いお年を。

* [[52](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C52)]
* **今年もあとわずか**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2020年12月31日(木)15時31分53秒
* FL1-219-107-84-184.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C59%5C)

ｗさん、こんにちは。
雪の大晦日になり多めの粉雪が舞っています。
「おちょやん」旧ほっしゃん投入でいっそう「カーネーション」味が増していますが、杉咲花の間のとりかたもうまくコメディエンヌとしての才能は確かですね。道頓堀から小舟が漕ぎだしていく場面のロケ地は近江八幡市の八幡堀だそうで、ほぼあのとおりの景色とのこと。ここはいつか足を運んでみたいものです。

連続放送中は初回から3回目まで見のがしていた「光秀のスマホ」はクリスマスイブの24日に一挙再放送された時に未放送映像を足されていてラッキー。アイコン能面の「おね」声をあてているのが田中みな実と後で知りひっくり返りました。

「麒麟が来る」と再放送の「太平記」を欠かさず観ているので、陣内孝則があちらでもこちらでも出てくると「甲高い声変わらないなあ」と思います。

ドラマでは「ノースライト」よかったです。同心梅のキーワードが何度も出てきますが、ブルーノ・タウトとパートナー、絵に描いたような悪人も清廉な善人も登場しないながらも静かに心にしみていく物語でした。

喪中につき年始のご挨拶は遠慮いたしますが、健康でありますよう、そしてどうぞよいお年をお迎えください。来年もよろしくお願いいたします～！

あ、XTCのDrums & Wiresの2020年APEリイシュー版アナログが密林で値崩れを起こしていたので見るに見かねて買ってしまいました……

* [[51](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C51)]
* **有馬記念終了、2020年10月～12月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年12月30日(水)08時19分8秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C58%5C)

[>>50](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C50)
> でもこの三強が出てこない有馬記念は(かなり寂しいけど)混戦必至なので期待しましょう。

またまた有馬記念当日も指定席が当選し、競馬場のターフビジョン越しで観戦してきました。期待通りの大混戦になったものの、やー、2着のサリオスが抜けてしまい、みすみす馬連万馬券を逃してしまいました。今年のG1は堅い決着続きだっただけに大チャンスをモノにできず、残念。人生はこんなもんですね。また来年も頑張りましょう。できれば高い指定席ではなく普通の入場料200円で観戦できる日を待ち望みつつ。

> 国内の映画興行界を救っている「劇場版 鬼滅の刃」は、奥さんがテレビ再放送分を見終わるの待っているのでまだ未見。年内に間に合うかな。

M-1当日の裏番組で最後の5話分をまとめて放送してくれたのでようやく夫婦で鑑賞してきました。(私の方は話自体は知っているので)覚悟しながら見る感じでしたがそれでも泣ける。それにしても原作に忠実かつ逸脱せずに進んでいるのに(要は大多数も話を知っているのに)これほど盛り上がってしまうのには恐れ入る。続きは劇場版よりテレビ版にして欲しいですがどうなりますか。そして対照的に、話が確実に未知なシン・エヴァはどうなりますか。

他に年末までに見たのは綿矢りさと大久明子の再タッグにのんを投入した「私をくいとめて」は期待以上。ほぼののんの一人芝居モノローグ劇(いや、中村倫也との会話劇か)ながらも感情が極まるシーンの説得力は素晴らしい。潮騒のメモリーズの再会には思わず感涙。そして大滝詠一のあの曲が登場するシーンには胸熱。洋画では貴重な大作「ワンダーウーマン 1984」。「キャプテンマーベル」より10年遡ったぐらいのレトロ趣味で前作よりも割とゆるい内容ですが、ワーナーで1984年が舞台ならPrinceとVan Halenをなんで使えなかったのかと問いたい。方やまさかの約30年ぶり続編となった「ビルとテッドの時空旅行」ももっとゆるゆるですけど、音楽で全世界＆全時代を幸せにしようとする本気で考えているポジティブ精神には感動。バンドをクビにされたのを恨み続ける死神とハートの弱い殺人ロボットに笑。元声優＆移民＆ダーティワークということでいろんな映画を連想してましたが、フェリーニのオマージュだったとは終盤になるまで気づかなかった「声優夫婦の甘くない生活」もよかった。クメール・ルージュ支配下のカンボジアで引き裂かれた家族を描くアニメ「FUNAN フナン」は数年前の「消えた画」で土人形を使って表現された虐殺と苦難の日々が如実に描かれていてより情緒に訴えてきます。ただ全編フランス語で有名俳優が起用されているのにはちょっと限界を感じたりも。

最後に10月～12月に劇場で見た映画の星取り表を。意図的に鑑賞本数は減らしていますが、あー見逃したと思うものはありますね。

◎１０月
フェアウェル ★★★★
ある画家の数奇な運命 ★★★★☆
ラストブラックマン・イン・サンフランシスコ ★★★★
異端の鳥 ★★★★★
シカゴ7裁判 ★★★★☆
星の子 ★★★☆
スパイの妻 ★★★★
本気のしるし ★★★★☆
空に住む ★★★☆

◎１１月
ミッドナイトスワン ★★★☆
浅田家！ ★★★★
おもかげ ★★★★☆
朝が来る ★★★★
罪の声 ★★★★☆
おらおらでひとりいぐも ★★★★
Mank/マンク ★★★★☆

◎１２月
ホモ・サピエンスの涙 ★★★★
燃ゆる女の肖像 ★★★★★
ザ・プロム ★★★★
魔女がいっぱい ★★★☆
ミッドナイト・スカイ ★★★★
バクラウ 地図から消された村 ★★★★★
私をくいとめて ★★★★☆
ワンダーウーマン 1984 ★★★★
ビルとテッドの時空旅行 音楽で世界を救え! ★★★★☆
声優夫婦の甘くない生活 ★★★★
劇場版 鬼滅の刃 無限列車編 ★★★★
FUNAN フナン ★★★★☆

* [[50](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C50)]
* **勝負の3週間も終わり**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年12月17日(木)01時28分36秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C57%5C)

なんだか光明が見えないまま年末に突入してしまいました。関西エリアでは、神戸ルミナリエも中之島イルミネーションも新梅田ドイツクリスマスマーケットも中止。夏の一連の祭りやイベントが潰れたときは、あと半年我慢すれば冬のイベントが待っている、などと希望を持っていましたが、甘かったです。

[>>49](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C49)
> そして今週末のジャパンCはアーモンドアイ&コントレイル&デアリングタクトが激突するという空前絶後の世紀の一戦となります。
> ジャパンC当日の阪神競馬場の指定席もまたまた当選したので、今回もターフビジョン越しでの応援です。そして満を持して今年初めての仁川での競馬観戦となります。

半月ほど経過しましたが、見てきました。久々の阪神競馬場は立ち入れるゾーンが限られているし、当選した観衆も少ないですが、それでもうれしかったです。
ジャパンCはリビングレジェンドとなったアーモンドアイのラストランVで、コントレイルとデアリングタクトの初黒星。この三頭でワンツースリー。有終の美を飾りつつ、後輩のホープ達にバトンをつないだ、みたいな、これ以上無く美しすぎる決着で何も言うことはありません。ただ、堅過ぎ。今年下半期のG1はほとんど一番人気のVなのでほぼ外れないですが全然儲けが出ません。でもこの三強が出てこない有馬記念は(かなり寂しいけど)混戦必至なので期待しましょう。

新朝ドラ「おちょやん」は大正時代の無学少女の奉公話から始まる、なんだか花登筺を彷彿させる泥臭い幕開け。数年前に吉本せいを取り上げた「わろてんか」があったばかりなので、今度は松竹かぁという第一印象でしたが、夢を持たない子供が芸事に触れて世界に導かれていく流れには「ちりとてちん」を、勝気な娘が人生を懸ける仕事を見つけていく展開には「カーネーション」を連想したりして、結構期待しています。今回の子役も達者で(「スカーレット」では照子の娘だった子)、経験上、子役が良いのは良い朝ドラですし。

冬クールのドラマも続々終盤ですが、まぁまぁ粒ぞろい。毎週熱心に見ていたのは「#リモラブ」「35歳の少女」「共演NG」「チェリまほ」「天使にリクエストを」「閻魔堂沙羅の推理奇譚」「タリオ」「恋あた」「恋する母たち」あたり。日テレ系＞テレ東系＞NHK＞TBS系ですね。テレ東系は「あのコの夢を見たんです。」「どんぶり委員長」「だから私はメイクする」「猫」「ざんねんないきもの事典」も良かったかな。うーんと思うところもある「24JAPAN」と「監察医朝顔2」は2クールなのでまだ評価保留。呆気にとられた「危険なビーナス」「七人の秘書」「極主夫道」「ルパンの娘」「先生を消す方程式」も、まあ楽しみました。

音楽は、追悼でVan Halenとか筒美京平作品をヘビーローテーション、ということもなく、そもそもこれらは常日頃聞いているので。Van Halenはどうしても最初の三枚が好きですねえ。そしてかつて渋谷陽一が「ロックの暴力性を体現したギタリスト」という文脈で高く評価していたのがEddie Van HalenとAndy Partrigeだった、という連想からXTCも負けじと聞いちゃったり。あと、Van Helenの先輩格はMontrose、その先輩格はEdgar Winter Groupということで、西海岸ハードロック勢(not ヘビーメタル)をどちらかというと聞きました。しかしEdgar WinterもRick DerringerもRony MontroseもDan Hartmanも、Van HalenとかMotley CrueとかGuns'N'Rosesらと比べて全く歴史に埋もれていて残念だなという感慨はあります。筒美京平は「ブルーライトヨコハマ」「また逢う日まで」「17才」「木綿のハンカチーフ」「魅せられて」の五大名曲もいいですが、西田佐知子、佐川満男、平山三紀、欧陽菲菲、郷ひろみ、野口五郎、岩崎宏美、桑名正博、中原理恵、庄野真代、小泉今日子、少年隊、石井明美、稲垣潤一らの楽曲軍も語り継ぎたいですね。そしてハルヲフォンとか「ソリッドレコード 夢のアルバム」などに手が伸びたり、筒美京平だけじゃなく、浜口庫之助、遠藤実、馬飼野康二、都倉俊一、中村泰士、渋谷毅、宮川泰、平尾昌晃、そして宇崎竜童もすごいよな、と同時代の作曲家に思いを馳せたり。

他にはEdgar Winter Groupから派生して(?)、Jeff Beck Group、Patti Smith Group、Pat Metheny Group、そしてMichael Schenker Groupなどの「○○グループ」を聴き比べしたり。どれも主役の○○の人よりも他のメンバーの影響が強いのが面白い。新譜は、月並みですが米津玄師の新作は、去年の星野源(おととしか)と同様に勢いのある人の華やかさ満載で楽しい。後は久々のJakko, 人気のFiona Apple, The Flaming Lips, 恒例のCrazy Ken Band、今流行りのシティポップ系(?)と思われるPrep, 無果汁団, Yukikaの「ソウル女子」などを愛聴してます。山下達郎の「Pocket Music」と「僕の中の少年」の最新リマスターはやはりボーナストラックを中心に。「土曜日の恋人」と「踊ろよフィッシュ」の各バージョン聞き比べが簡単にできるのは有難い。

映画は秋になってようやく邦楽の期待作が上映されるようになってきまして、鑑賞数が邦画に集中。黒沢清「スパイの妻」、青山真治「空に住む」、中野量太「浅田家！」、大森立嗣「星の子」、河瀬直美「朝が来る」、深田晃司「本気のしるし」　内田英治「ミッドナイトスワン」、沖田修一「おらおらでひとりいぐも」、土井裕泰監督＆野木亜紀子脚本の「罪の声」など。どれも充実作でしたけど、反面、「TENET テネット」以降の洋画大作がまったくかからなくなっていることも要因。そして去年同様にNETFLIX配給作の期間限定上映も相次いだのもポイント。社会派の「シカゴ７裁判」、クラシカルな「Mank/マンク」、ミュージカルの「ザ・プロム」、SFの「ミッドナイト・スカイ」とジャンルも多彩ですが、いずれも劇場にて見るのが相応しい作品ばかりなので、こういうのが今後配信に誘導されていくかと思うと困ってしまいます。あとはミニシアター向け洋画ですが、欧州(&南米)からの「異端の鳥」「ある画家の数奇な運命」「おもかげ」「ホモ・サピエンスの涙」「燃ゆる女の肖像」「バクラウ 地図から消された村」はどれも見れてよかったとしみじみ。「異端の鳥」の色彩のない地獄巡りと、「燃ゆる女の肖像」での計算された構図とプロットでエモーションを焼き付ける様はちょっと凄かったです。米国からの「フェアウェル」と「ラストブラックマン・イン・サンフランシスコ」はA24配給作で、まさしくA24はインディ界の救世主か。一方で今月見た「魔女がいっぱい」は「TENET テネット」同様のワーナーで、今週末の「ワンダーウーマン 1984」もですが、今メジャーで頼れるのはワーナーだけなのか。

で、国内の映画興行界を救っている「劇場版 鬼滅の刃」は、奥さんがテレビ再放送分を見終わるの待っているのでまだ未見。年内に間に合うかな。すでにローソンやくら寿司で展開してたタイアップ商品は多数手にしてますが。ダイドーの鬼滅缶は手が出ません。ジャンプ連載はだいぶ前に終わっているけど、鬼滅以上に個人的入れ込んでいた「約束のネバーランド」も「チェンソーマン」もチャンピオンの「BEASTERS」も相次ぐように終わってしまったので、今の心の支えは「ゴールデンカムイ」と「ジャガーン」と「サタノファニ」ぐらい？何はともあれ、テレビ放送時点で信頼を築いている鬼滅の劇場版はともかく、約ネバの実写版は大いに心配。映画では今一な平川雄一朗だし。それよりはアニメのシーズン２は待ち遠しいですが。

* [[49](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C49)]
* **無事に加齢、世紀のジャパンC直前、エール終了、そして今更ながら2020年7月～9月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年11月27日(金)19時28分8秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C56%5C)

御無沙汰しております。秋になってからは結構な多忙でした。実はGoToなんちゃらを駆使していろいろと遠出していました。法事もつつがなく執り行いました。一応なんとか健康に過ごしてます。第三波が来てしまった今だったらどうなったかなと思いますが。

この間に、Peter Hammill 72歳、Andy Partridge 67歳、私 55歳。さそり座の人たちは無事に一つ歳を重ねました(Neil YoungやJoni Mitchellもか)。Andyさんはコロナ危機を乗り越えてのことなので本当によかった。一方で、Edward Van Halen、筒美京平、Sir Sean Connery、そしてDiego Maradonaという真のレジェンド達が天に召されました。本当に辛い一年です。

[>>48](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C48)
Re: アーモンドアイ引退
> のニュースが飛び込んできました
> 今年は珍しく菊花賞も天皇賞もテレビで観ていましたがいやあ速い強いコントレイル、と思ったらアーモンドアイもすばらしい。
> ルメールが感極まりながらインタビューに応じていたのが印象的でした。

デアリングタクトの無敗牝馬三冠、コントレイルの無敗三冠、アーモンドアイのG1八冠が3週連続で達成されるという、日本競馬だけは輝かしいモーメントが続いてます。よかったよかった。アーモンドアイの天皇賞当日は、奇しくも京都競馬場の指定席が当選しましたので、改修前の最後の淀のスタンドで観戦してきました。アーモンドアイの雄姿は(東京競馬場なので)ターフビジョン越しで見ることになりましたが、快挙達成の瞬間にはスタンドからの数少ない観客たちから拍手が湧きました。最終レース後には馬場開放イベントがあり、淀のターフを踏みしめてきました。淀の最後の直線はさすがに長かった(バテました 汗)。グランドスワン(スタンド)の改修工事とともに淀の名物の円形パドックまで無くなるのは残念ですが、3年後のリニューアル後には大観衆で観戦できるようになっているといいですね。

そして今週末のジャパンCはアーモンドアイ&コントレイル&デアリングタクトが激突するという空前絶後の世紀の一戦となります。3頭の少なくとも2頭は敗退、無敗2頭の少なくとも1頭は初めて土が付くのだからエライことです。アーモンドアイのラストランとしてもこれ以上無い舞台ですね。ありがとうJRA。さらに、ジャパンC当日の阪神競馬場の指定席もまたまた当選したので、今回もターフビジョン越しでの応援です。そして満を持して今年初めての仁川での競馬観戦となります。うれしいです。場内でお酒の販売がないことだけが残念ですけど。

本日で朝ドラ「エール」が終了。本編は昨日木曜日に実質最終回を迎え(志村けん追悼回だったと言えます)、今日のオーラスは出演者による古関裕而コンサートという史上稀にみる幕切れ。再開後は相当に駆け足で進んだせいで勿体無い感が残りますが、止む無しですね。全体を通すとコメディとシリアスのバランスが噛み合ってない等、ややいびつな作風となりましたが、多分に脚本家降板の影響でしょう。志村けん急逝にコロナ禍による撮影中断＆短縮、とどめが肝心の五輪と甲子園の開催が無くなるなど不運続きの作品でしたが、ゲゲゲ以降相次ぐ「夫婦二人三脚型」朝ドラの中ではひときわ爽やかな後味を残しました。主役二人はもちろん、森七菜、佐久本宝、古川琴音ら期待の若手は前途洋洋と思いました。御手洗先生役の古川雄大も面白かったです。

最後に、かなり遅くなりましたが(今年の終わりも近いですが)、今更ながら7月～9月に劇場で見た映画の星取り表を。上半期よりだいぶ鑑賞本数が増えてきましたね。
他のドラマと音楽と最新の映画の話題はまた別途。

◎７月
SKIN/スキン ★★★★
ハニーランド 永遠の谷 ★★★☆
タッチ・ミー・ノット ローラと秘密のカウンセリング ★★★
ワイルド・ローズ ★★★★☆
WAVES/ウェイブス ★★★★
アングスト/不安 ★★★☆
グレース・オブ・ゴッド 告発の時 ★★★★
リトル・ジョー ★★★★☆
LETO -レト- ★★★☆

◎８月
はちどり ★★★★★
アルプススタンドのはしの方 ★★★★☆
海辺の映画館-キネマの玉手箱 ★★★★★
コンフィデンスマンJP プリンセス編 ★★★
悪人伝 ★★★★
ディック・ロングはなぜ死んだのか？ ★★★☆
ぶあいそうな手紙 ★★★★☆
赤い闇 スターリンの冷たい大地で ★★★★☆
ブックスマート 卒業前夜のパーティーデビュー ★★★★
２分の１の魔法(吹替) ★★★★☆

◎９月
ポルトガル、夏の終わり。 ★★★☆
シチリアーノ 裏切りの美学 ★★★★
幸せへのまわり道 ★★★★
mid90s ミッドナインティーズ ★★★★
行き止まりの世界に生まれて ★★★★☆
シリアにて ★★★☆
TENET テネット ★★★★★
マティアス&マキシム ★★★☆
鵞鳥湖の夜 ★★★★☆

* [[48](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C48)]
* **アーモンドアイ引退**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2020年11月12日(木)10時32分31秒
* FL1-122-130-45-160.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C55%5C)

のニュースが飛び込んできました。
今年は珍しく菊花賞も天皇賞もテレビで観ていましたがいやあ速い強いコントレイル、と思ったらアーモンドアイもすばらしい。
ルメールが感極まりながらインタビューに応じていたのが印象的でした。

* [[47](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C47)]
* **TENETか半沢直樹か神戸新聞杯か**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 9月28日(月)03時08分15秒
* p953149-ipngn200504kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C54%5C)

とかいろいろな楽しげな話題が用意されていた9月末。そんな気分を吹っ飛ばす竹内結子の訃報に絶句してます。
[>>45](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C45)
> 大林宣彦が逝去された４月以降、こんなに沢山亡くなったのですね。
と書いた後も大物が次々と亡くなり、とりわけチャドウィック・ボーズマンと芦名星とルース・ベイダー・ギンズバーグには思いがけないほどの衝撃を受けていまして、今日の更なる追い撃ちにはさすがに憂鬱になってきました。「コロナの年」という括りでは説明できないほどに、世間のニュースから受ける希望の無さ/未来の暗さ/終末感に戸惑うばかりです。

[>>46](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C46)
> 夏に調子を崩していた義母が91歳で亡くなり、新型コロナの感染予防のため入院中も家族の面会禁止で、かろうじて近所に住む義姉のみ臨終に立ち会うことができました。

お悔やみ申し上げます。このタイミングでのおみおくりやお葬式はさぞご苦労があったことでしょう。
私どももこうしたご時世を慮り、今年は親の法要を含めて複数の法事を一回で執り行うことを東京の菩提寺と相談し、高齢の親戚にはご遠慮いただいてごく少数だけで営む方向で調整中というところです。今でも上京はリスキーだと感じつつも、施主としては馳せ参じるしかなく、恐る恐る取りまとめてる真っ最中です。

> そうそう、鈴木さえ子さんがミディから出しているアルバムが数年前にリマスターされ、『STUDIO ROMANTIC』にアンディ・パートリッジにプロデュースを依頼した経緯などさえ子さんへのインタビューでかなり細かく載っていました。

おお！奇しくもこの夏によく聞いてたのが、矢野顕子と大貫妙子と鈴木さえ子でした。『愛がなくちゃね。』『シニフィエ』『緑の法則』やその前後の作品などはいまだに色褪せないですし、いずれも猛暑の下で疲れ果てた心に寄り添う音楽として、耳にやさしく頭を冷やし同時に背筋を伸ばしてくれる存在として手放せませんでした。鈴木さえ子さんは可愛い歌モノもいいですが、「バオバブ人」「フィラデルフィア」「夏休みが待ち遠しい」「柔らかな季節」「Kaspar's Statement」「Freak In」等のインスト曲の突き抜けっぷりがまたすごい。さえ子さんは80年代にピーター・バラカン氏と共に出演していたNHK-FMの番組で選曲した楽曲がどれも素晴らしかった(10CCとかPilotとかDie Zweiの"Skyliner"とか!)のも良い思い出。『スタジオ・ロマンチスト』のリマスター版は未入手ですがよさそうですね。アンディ氏のバックコーラスは特定はできそう(かな?)。できればまた歌もののアルバムを出してほしいですね。

新譜では、Jaga Jazzist, Jon Hassell, Rick Wakeman, Steve Howeなど。これもこの夏のクールダウンミュージック。あとはKing Crimson「Cat Food」やPeter Gabriel「Rated PG」といったナイス企画もよかったです。

映画は「TENET テネット」に尽きます。ようやく映画興行市場に登場した洋画大作。ノーランの「メメント」以来の拘りと一貫性には本当に恐れ入ります。多分「実写化するには大変なことをアニメやCGを使わずに実写化したい」＆「サブテキストが無いと伝えきれないはずのことを映像だけで示したい」ことの実現だけに命を懸けたい人なんだなと今回も思いました＞ノーラン。それゆえ「インセプション」同様に、本作の大発明には追従者が現れないことでしょう。多分挑戦してもパロディにしかできなさそうだろうし。

ほかの映画もなんかかんやで洋画ばっかり。奇しくも90年代スケボー文化映画としては被ったが後味が相当に違う「mid90s」と「行き止まりの世界に生まれて」、歩み寄りと相互理解を経ての成長を描いた(と括るのは乱暴？)「2分の1の魔法」と「ブックスマート」と「マティアス＆マキシム」、シリアスなのに面白すぎるノワールもの「シチリアーノ」と「鵞鳥湖の夜」、ホロドモールを取り上げるとは知らずに見てかなりの精神的ダメージを受けた「赤い闇」、現代において手紙で交信することの必然性を上手く形にした「ぶあいそうな手紙」、イザベル・ユペールらを贅沢に使ったロメール流の会話劇「ポルトガル、夏の終わり」、トム・ハンクスが演じる一筋縄ではいかぬ人物像に感心させられた「幸せへのまわり道」、極限状態下の密室劇ながら普遍性のあるドラマに作り上げられた「シリアにて」、など。

あ、あとようやく競馬場が入場可となり、約7か月ぶりに仁川に行きました。といっても場外馬券場としてで、馬場やスタンドには入れず、場内モニターには何も移されず、食堂や売店や給茶機などはクローズのままで、メイン発走の一時間半前の14時には退場させられる状況でしたけど。今年の神戸新聞杯は中京で開催され、無敗三冠達成がかかるコントレイルが秋の初戦の無事に快勝。楽しみが続きますが、この馬の走りを目の前で見れる日はいつのなるのやら。次週はタワーオブロンドンがG1制覇を果たしたスプリンターズSから１年。今年は大混戦でどうなりますか。

* [[46](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C46)]
* **7月の投稿が**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2020年 9月 9日(水)13時55分18秒
* FL1-122-130-45-160.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C53%5C)

ENTERを押さずに閉じてしまったのか、自分の投稿が迷子になってしまいました（汗）

ｗさん、こんにちは。
夏に調子を崩していた義母が91歳で亡くなり、新型コロナの感染予防のため入院中も家族の面会禁止で、かろうじて近所に住む義姉のみ臨終に立ち会うことができました。遠方の身内は各家庭から一人だけ帰ろうということになり、夫婦で帰ったのは長男（喪主）の私たちのみ。静かに送るつもりでしたが地元長崎の親戚ネットワーク強い。高齢者が多く、感染者数の多い地域から帰ってきた私たちと接触して大丈夫か……との心配もよそに次々に通夜にも告別式にも参列してくれました。そういうわけでいまだバタバタしておりますが、戻って来れば自分の日常も取り戻し離れている者のほうが気持ちがまぎれるかもしれないですね。来月は納骨でまた帰りますが、準備するものごとが多く落ち着いてテレビも見ていられません。

そうそう、鈴木さえ子さんがミディから出しているアルバムが数年前にリマスターされ、『STUDIO ROMANTIC』にアンディ・パートリッジにプロデュースを依頼した経緯などさえ子さんへのインタビューでかなり細かく載っていました。さえ子さんはGodley & Cremeの大ファンで、Something in the Airは彼らにやってほしくて手紙まで書き、返事もきちんといただいた（映像作家として売れっ子の時期ゆえこの話は実らなかった）。次に白羽の矢がたったのがアンディで、事前に『緑の法則』を送って聴いてもらい、高橋鮎生に通訳してもらいながら国際電話でプロデュースを依頼した、と……
リマスター盤は音が格段によくなっています。契約上明記できなかったけれどあちこちでアンディがコーラスをつけているんだとか。

* [[45](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C45)]
* **こんな年でも夏は暑いよ**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 8月19日(水)02時09分53秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C52%5C)

関東に戻らない夏季休暇が終わり、リモートワーク生活が再起動。この時は日中の通勤をしないだけ楽ですが。心なしか、心身ともに疲れが残っています。

この夏は祇園も仁川も甲子園も行けなかったけど、この凄まじい暑さでは行かなくて正解？代わりに近くの山と温泉に出かけました。まあ皆考えることは同じで、都会はそれほどだったのに山奥には大渋滞が起きてしまうという。ついでに郊外のイオンモールを周って、そこで「アルプススタンド～」のパンフをゲット。都心のシネコンではどこも完売だったので、これは役得でした。

映画館は相変わらずどこも座席数半分間引き態勢。半分埋まれば盛況という、見る分には余裕があっていいけど興行的には厳しい状況。満を持してようやく公開された大林監督の遺作「海辺の映画館」はファーストデイの初回に観賞。期待を大きく上回る大傑作。時空や彼岸/此岸を超越して会津・沖縄・広島での悲劇を貫き、戦争三部作を凌ぐ怒りと執念と鎮魂を込めた集大成的作品。。３時間の大作だったのに体感的にはあっという間。大林印の饒舌・棒読み・特撮・合成・コマ落としもふんだんも使われて往年もファンも満足必至の出来栄えでは。私は「その日のまえに」の駅長くんの「出発進行！」の再現に泣きました。

映画館で初めて見る城定監督の作品「アルプススタンドのはしの方」も楽しめましたです。かつての「桐島、部活やめるってよ」「カメラを止めるな！」と同じく口コミで話題を集めた夏映画。野球場が舞台なのにグランドを一切写さない演出がシアトリカルでとてもよかったです。本当はいつもの甲子園がある夏の年に公開できてればと思わなくもないけど、ちょうどリモートドラマ流行りの年で却って良かった気も。練り上げられた脚本の妙がより実感できました。今年は邦画の良作を見る機会をずっと逃してましたが、立て続けに見られて良かった。あ、「コンフィデンスマンJP」も見ましたよ。「クレイジー・リッチ」モチーフながらも敵がそんなに怖くないというか、今回はダー子の想定を超えたところで結果オーライとなるのがなんだかな、と思いつつも、これがラストなんじゃないかという哀しい予感も。

あとは「パラサイト」以外の韓国映画の話題も見逃し続けてましたが、「はちどり」と「悪人伝」はどうにか間に合いました。「はちどり」は素晴らしい青春映画。「知り合いの中で心まで知る人は何人いるか」という詩に触れてから、群衆の中の自分の指針を見つけるまでを描くスタイルで、理不尽や不条理にも理由や背景がある(が誰も最後まで語らない)というのは今まで見たことがない感じがしました。「悪人伝」は「チェイサー」「悪魔を見た」などの韓国産殺人鬼対決モノの系譜ですが、今回は屈強な男も犠牲者にする敵を設定することで、警察＆ヤクザVS殺人鬼という三つ巴構図にするのが新機軸というか、いろいろ面白いことを考えるものだと感心しきり。

欧米産では「ディック・ロングはなぜ死んだのか？」という、これは本当に実話ベース？という事件映画？。「バーニー」「アメリカン・アニマルズ」そして「アイ・トーニャ」など「なんだこりゃ」と言いたくなる実録ものは毎年作られますが、この話の真相の脱力度は前例がない程。全然ベクトルが違うけど「WAVES/ウェイブス」と共通する感じはA24だからかも。ハリウッド大作はまったく公開されないですが、A24ものはバンバン公開されるのですね。「テネット」も予定通りに見られるのかどうか。

[>>41](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C41)
> 追悼ネタなどまだまだ書き残してますが、また別途。

最後に。アダム・シュレシンジャー、ハル・ウィルナー、志賀勝、関根潤三、藤原啓治、川崎燎、志賀廣太郎、久米明、小島一慶、岡江久美子、デイブ・グリーンフィールド、スウィートピー・アトキンソン、リトル・リチャード、ベティ・ライト、ジョージ秋山、ホルヘ・サンタナ、ジミー・コブ、ルパート・ハイン、服部克久、キース・ティペット、五島勉、イアン・ホルム、ベニー・マードーンズ、桑田二郎、エンニオ・モリコーネ、チャーリー・ダニエルズ、森崎東、ジョン・ルイス、リリアン、三浦春馬、エミット・ローズ、山本寛斎、弘田三枝子、李登輝、アラン・パーカー、岡康道、立石涼子、轟二郎、ピート・ハミル、渡哲也。大林宣彦が逝去された４月以降、こんなに沢山亡くなったのですね。ひとりひとり語りたいけどキリがないので、ご冥福をお祈りします。

* [[44](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C44)]
* **ほんまだったら五輪開幕ウィークでしたが**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 7月27日(月)03時35分22秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C51%5C)

近場をぐるりと回っただけの寂しい4連休。豪雨とコロナ再燃でGoToなんとかが有っても無くても遠出しようという気が起きません。祇園祭も競馬も高校野球も(形上はあるけれど)生観戦は無いですし。一方で仕事も切羽詰まってしまい、いろいろしんどい日常です。

７月にやってようやく春クールのTVドラマがいろいろと出揃ってきました。明後日の「竜の道」ですべてスタート。方や「M」「美食探偵」「ミタゾノ」などはすでに終了。時期はバラバラですが視聴率は意外と好調。穴埋めに使われた旧作再放送が好評だったから？それらの中で私が見てたのは「逃げ恥」と「大恋愛」だけでしたが。

新ドラマでは当初の期待通りに「MIU404」の独走状態。「アンナチュラル」同様に現在視点にアップデートされた社会派ドラマとして素晴らしく、今クールになぜか集中＆競合した「アンバランスなバディモノ」の中でひと足抜きん出ています。他は続編ばかりなので保守的なクールだと言えますけど、もうすぐ終わるキムタクの「BG」は前作から大きく方向を変えてきたのが悪くないです。仲村トオルとの再演には「眠れる森」の不穏な記憶が呼び戻されて気が抜けないし。「半沢直樹」と「ハケンの品格」は、まあベタだし何もアップデートする気がないのもわかってましたが、安全に面白がってます。医療モノの「アンサング・シンデレラ」と「ディア・ペイシェント」は今のところ快調ですが、さらにこの先にコロナ時代への目配せを忍ばせたタイムリーなテーマにできるかどうかというところ。「未満警察」と「私の家政夫 ナギサさん」は現時点ではまあまあという感じ。深夜系だと「女子グルメバーガー部」「銀座黒猫物語」「ふろがーる！」「ひまわりっ」などを楽しんでますが、ちょいと新鮮味には欠けるかも。

あとはCSとかでやっている旧作ドラマも見まくっています。水谷豊の二時間サスペンス「地方記者 立花陽介」全20作の一気見が特に面白かったです。1993年～2003年の10年間に火サスで放送された名シリーズ。日本各地の地方都市を転々とし、その土地に因んだ歴史・文学・祭事を紐解くご当地モノと、忘れられ行く昭和の出来事を振り返る回顧モノと、過去の隠蔽が現代になって襲い掛かる松本清張系サスペンスの側面などを備えた充実したシリーズで、近年の2時間ドラマと比べてもプロットが作りこまれていて出来がよいです。清張への傾倒が感じられる1作目「伊豆下田通信局」、どんでん返しみたいな真相暴露が鮮やかな「会津若松通信局」、老夫婦の重すぎる秘密が哀しい「湘南鎌倉通信局」と「阿波鳴門通信局」、無茶苦茶なアリバイ工作にたまげた「釜石遠野通信局」と「青梅奥多摩通信局」、青春のすれ違いが取り返しがつかないほどの遺恨を残す「米沢蔵王通信局」「日光蔵王通信局」「但馬城崎通信局」「山陰出雲通信局」などが心に残ります。水谷豊の演技も、10年の間に往年の軽やかな姿から杉下右京のプロトタイプとも言える粘着的な真相追及姿勢へとシフトしていくのが見て取れて興味深いです。あとは遠藤憲一の「湯けむりスナイパー」と「さすらい温泉」も一気見して楽しんでます。

映画はだんだん上映点数が増えてきて、いまのところミニシアター系では期待していたものが毎週公開されてきて忙しくなってきました。ほとんどが英国～欧州の映画。「ザ・バニシング 消失」に負けない不快度の発掘作「アングスト/不安」、懐かしいぐらいの超実験作の「タッチ・ミー・ノット」、ドキュメンタリーと思えない展開と結末に戸惑う「ハニーランド 永遠の谷」、「ジュディ 虹の彼方に」のマネージャー役の人もこんなにも歌が上手かったのかと驚嘆した「ワイルド・ローズ」、意外とド直球な社会派作風に背筋が伸びる「スキン」(短編込み)と「グレース・オブ・ゴッド 告発の時」(オゾンなのかと)、画角が変わり続けると同時に気持ちもヘビーになっていく「WAVES/ウェイブス」、今最も嫌な後味を覚えさせるカンヌ好みの社会派SF「リトル・ジョー」、70年代欧米ロック最強を再確認するのはいいんだけどね、と思ってしまう80年代レニングラードもの「LETO レト」、などなど。

音楽は相変わらず旧譜をいろいろ聞いてて、レココレのシティポップ特集に触発されてか、70年代後半～80年代中盤の邦楽を最近は振り返ることが多く。とりわけ、細野晴臣、大貫妙子、矢野顕子、高橋幸宏、渡辺香津美、山下達郎、YMO、そしてソロといった当時の坂本龍一の仕事は素晴らしかったなと実感。またそれとは全く対照的な初期のサザンオールスターズやRCサクセションなども懐かしく振り返ったり。あとはDr.Feelgoodとか、Bobby Womackとか。新譜では、ThundercatとThe 1975という期待の人たちの新作を楽しみつつ、それらを上回る愛聴度となっているのが、ベルギーのAksak Maboulの40年ぶりの新作!今まで何してたんだろう？と思いますが、ボリュームもすごいし、内容も最前線。MagmaとかFocusとかPFMとか、こういう人たちが存続できるのだから欧州も捨てたものじゃないですね。

* [[42](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C42)]
* **数少ないながらも、2020年4月～6月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 7月 5日(日)03時16分56秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C49%5C)

[>>41](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C41)
> とうとう今年の阪神開催はすべて無観客で上半期競馬が終了。

今年は7月も阪神開催でした。中京の代替開催で、阪神開催は7月まで継続したのでした(当然無観客で)。仁川でＣＢＣ賞とか中京記念とかをやるというこの違和感。その入れ替わりに9月の阪神開催は中京開催に代替に。セントウルＳもローズＳも神戸新聞杯も仁川でやらないのか今年。すなわち阪神競馬場で競馬を見られる次のチャンスは11月！待つなあ。(実際に見られるのか?)

> 映画ネタ、追悼ネタなどまだまだ書き残してますが、また別途。

6月には、見たかったけど公開延期してた映画を、どうにか念願叶っていろいろ見られました。どれもよかった。「デッド・ドント・ダイ」はジャームッシュによる"ゾンビ"="現世の欲望への依存症者"という新定義？が面白い。ジャームッシュ常連組の集結は楽しかったけど、エスター・バリントとトム・ウェイツまで担ぎ出してもらったのは特に嬉しく。「ハリエット」は「それでも夜は明ける」の真逆方向から描いた実話映画で、正にモーゼかジャンヌ・ダルクかという神憑り的話という趣きですが、最も憎むべき相手への主人公の最終的な振舞いには「ナイチンゲール」と共通するところがあり、今時の映画だと思ったり。ただジャネール・モネイの扱いには涙。「ストーリー・オブ・マイライフ」は若草物語の翻案ものとしてはかなり大胆で緻密。原作とは全然違うする話にするのかとドキドキしたけれども絶妙な落とし所に決着するところは見事で、現代視点での再解釈を避けられないNHK大河ドラマのウォッチャーとしては強く共感。大河というよりは、朝ドラに更に翻案したものを見たくなりましたけど。「在りし日の歌」は近年の中国映画が得意とする、時代の流れに振り回された市井の人々のクロニクル。特に"一人っ子政策"が何を蹂躙してきたのかは充分に思い知らされたです。そしてこの映画でも現代での勝ち組と負け組が明確に分かれる描写があり、なんともはや。「その手に触れるまで」はイスラム原理主義への傾倒がミソジニーに拍車を掛けてしまう少年の話で、ダルデンヌ兄弟だから甘い結末など端から望めないのだけど、ラストシーンには救済があったと思いたいところ。欧州におけるイスラム教徒の立ち位置に難しさもわかりやすく提示。「ペイン・アンド・グローリー」はここ10年ぐらいのアルモドバル作品では最も面白く、「8 1/2」や「田園に死す」と同系ですが(監督自身の少年時代もみっちり描くし)、一人舞台シーン以降の、創作作業による過去との落とし前が癒しや救いとなって自分に返ってくる描写はとりわけ興味深いです。

では、4月～6月に劇場で見た映画の星取り表を。

◎４月
(なし)

◎５月
囚われた国家 ★★★★☆
娘は戦場で生まれた ★★★★★
ナイチンゲール ★★★★

◎６月
デッド・ドント・ダイ ★★★☆
ハリエット ★★★★
ストーリー・オブ・マイライフ わたしの若草物語 ★★★★★
在りし日の歌 ★★★★
その手に触れるまで ★★★★
ペイン・アンド・グローリー ★★★★☆

最後に上半期のベストも一応選んでみました。こんな感じです。

1. ミッドサマー ディレクターズカット版
2. 1917 命をかけた伝令(IMAX)
3. パラサイト 半地下の家族
4. ナイブズ・アウト 名探偵と刃の館の秘密
5. 娘は戦場で生まれた
6. ジョジョ・ラビット
7. ストーリー・オブ・マイライフ わたしの若草物語
8. フォードvsフェラーリ
9. 囚われた国家
10. 屋根裏の殺人鬼 フリッツ・ホンカ

最初の3か月だけで決まったとは言わせない結果でした。中でもアカデミー賞候補作はどれも優秀でしたです。下期も期待しましょう。

* [[41](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C41)]
* **パッとしないまま今年も半分が過ぎていきます。**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 6月30日(火)03時31分7秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C48%5C)

[>>40](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C40)
収束とは言えないものだいぶ落ち着いてきた感じで、私も今はリモートと通勤を週半々ぐらいです。さらに時差通勤もあり、電車内はすかすかで快適。でも街中は結構人は前よりもいますね。人が全然いないのは映画館。夏興行までに人が戻ってくるかどうか。戻ってきても今は座席を間引き予約しているので、すぐに満席になるんじゃないかという心配も。ただ、こちらも夏祭りも花火大会も中止。祇園祭もほとんどの行事を中止ですし、この辺が戻らない限り、日常が戻ったとは言えないですね。

競馬はダービーも安田記念も宝塚記念も無事に無観客でフィニッシュしました。あ～あ。とうとう今年の阪神開催はすべて無観客で上半期競馬が終了。今年は一度も目の前を走る馬を見てません。こんなに寂しい年ってあったかしら。
ダービーでは期待通りにコントレイルが無敗で優勝しましたが、ダービーの2日前のブルーインパルス都心飛行でのひこうき雲(コントレール)がこの快挙を予言したとかしなかったとか、JRAのダービーCMがユーミンを使ったから「ひこうき雲」繋がりだったとかなんとか。思い起こせば、ちょっと前に「コントレール 罪と恋」という大石静のドラマがありましたね。ここでの「コントレイル(ひこうき雲)」は幸せと悲劇の象徴という二面性がありましたが、コントレイルの未来はどっちだ？
安田記念はアーモンドアイが１歳下のグランアレグリアに、宝塚記念はラッキーライラックが１歳下のクロノジェネシスにそれぞれ完敗してしまい、古馬戦線は牝馬だけで頂上決戦を繰り返し行っているような構図。この流れから行くとデアリングタクトの方がコントレイルよりも強かったりする可能性も？個人的にはコントレイルに最初に土を付けるのはサリオスだろうとみてますが。

TVドラマはようやく春クールのドラマがぼちぼちスタートor再開、いくつかは夏クールまで順延という感じですが、見事完走できたドラマもいくつか。完走した/できそうなドラマではやっぱり「いいね！光源氏くん」「捨ててよ、安達さん。」「映像研には手を出すな！」「美食探偵 明智五郎」「ピーナッツバターサンドウィッチ」２クールぶちぬきで「きょうの猫村さん」と言ったところには満足しました。深夜ドラマばっかりや。"ラーメンハゲじゃない芹沢"に目を瞑れば「行列の女神～らーめん才遊記～」も○。そんな中で唯一世間をバズらせた「M 愛すべき人がいて」の田中みな実ですが、「奪い愛、冬」の水野美紀、「ホリデイラブ」の松本まりかに続く新たな原石を採掘した感じ＞テレ朝。マサ三浦翔平の言ってることのめちゃくちゃぶりも普通に面白いです。

新しい中では「MIU404」は概ね期待通り。初回はあおり運転問題に触れつつも、狙いはスピルバーグ「激突」オマージュなのでしょうか。「探偵 由利麟太郎」「ハケンの品格」「BG」「未満警察」は今のところまあまあ面白い。

シリアスとコメディの振り幅の大きさが混乱を呼ぶというかクセになるかという「エール」ですが、今週ついに中断。初回から再スタートですが、初めの方の録画が再生不良になってしまって見直せなかったという個人的理由で却ってありがたい。これで志村けんさんともお別れかと思ったら今後も登場シーンがあることがわかったので嬉しい。ただ「紺碧の空」に1週間もかけたのに「六甲おろし」は一瞬で通り過ぎたのはどうしたことか。。。

あとおそらく今だけの特別企画でしょうが、リモートドラマもいろいろありました。3人の林遣都のドラマとか、柴咲コウと高橋一生とムロツヨシとネコが入れ替わるドラマ(by森下佳子)とか、広瀬姉妹・永山兄弟・中尾＆仲夫妻・青木＆優香夫妻による各室内劇(by坂元裕二)とか、ミタゾノ特別編とか。どれも面白かったけど、登場人物が固定される会話劇ならではの密閉感があり、量産には向かないなという実感も。限定された画面or空間or人数という縛りで作り上げらた作品としては「search/サーチ」「[リミット]」「THE GUILTY／ギルティ」「オン・ザ・ハイウェイ その夜、86分」といった先行例がありますが、どれも1時間半ぐらいの長さですが、二転三転するストーリーでドライブすることになるので、脚本家は至極大変そうですね。

坂元裕二はテレ朝の2時間ドラマ「スイッチ」もありましたが、これも快作。阿部サダヲと松たか子というと「夢売るふたり」での愛憎劇の記憶が蘇りますが、坂元裕二的には「カルテット」と「anone」が合体した感じも。実に息ぴったりで、ぜひともこの二人with坂元脚本で連ドラ作ってほしいという思いが沸々。「東京ラブストーリー」のセルフパロディや「最高の離婚」を思い出させるジュディマリ曲の起用など往年のファンへのくすぐりも利いてます。テレ朝は松坂桃李の「微笑む人」もなかなか不気味で凄かったですし、2時間ドラマ方面でも攻めてますね。

> 意外なもうけものが過去の大河ドラマの中から傑作回の放送。
> 「国盗り物語」で若い平幹二朗や高橋英樹、近藤正臣、火野正平、寺尾聡らの姿を観られ眼福でした。

これまたナイス企画。特に「国盗り物語」はリアルタイムでは小学校低学年ですがうっすら記憶があり、「麒麟がくる」を見てる最中でもモックンと平幹二郎、染谷将太と高橋英樹、川口春奈と松坂慶子を脳内で比べたりしてました。(戦国大河ではないので取り上げられないでしょうが)「麒麟」と同じ池端俊策脚本の「太平記」もBSで再放送中で、これも欠かさず見てますが、やっぱり今見ても面白い！片岡後醍醐帝が神々しい。宮沢りえが切ない。鶴太郎が愚かで、これまた悲しい。

あとは先月やった「岸辺のアルバム」一気見で火が付いたか、旧作ドラマをいろいろ見てます。日本映画専門チャンネルでこのところ山田太一作品を大量に放送しているのを楽しみにしてます。「深夜にようこそ」「シャツの店」「今年の秋」「冬構え」、TBS日曜劇場の「秘密」と「終りの一日」。ジョージ・チャキリスが小泉八雲を演じた「日本の面影」も本当に懐かしい。

他には「ぼくの魔法使い」と「彼女が死んじゃった。」の日テレドラマ名作も。「ぼくの～」の頃のクドカンは前後に「キャッツ」「マンラブ」「タイドラ」を挟んだ最初の絶頂期だから今見ても最高。そしてこの頃の篠原涼子の破壊力もすごかった。「彼女が～」は湘南ドラマということもあり、結構思い入れが。特に湘南台のプラネタリウムでロケしている点で(剛力彩芽の)「未来日記 Another World」ともども愛着があります。この2作も「すいか」「野ブタ」「マイボス」「Q10」「泣くな、はらちゃん」や最近の「俺の話は長い」などに脈々と流れる日テレ土曜ドラマ良作群の系譜。これからも残してほしい作風です。

映画ネタ、追悼ネタなどまだまだ書き残してますが、また別途。

* [[40](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C40)]
* **なんとか平常運行に**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2020年 6月23日(火)10時34分42秒
* FL1-122-130-45-160.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C47%5C)

ｗさん、こんにちは。
リモートワークわずか1週間でまた出社体制に戻った弊社ですが、学校の登校授業も開始され一気に電車が混みあうようになったそうです。
最寄りが始発駅なので座れますが、朝6時台なら車内に10人いるかどうかだった乗客が一気に増え、これで感染したら元も子もないよなとぼやいております。
来月の盆踊りは中止となり、子供のいないわが家では特に影響もありませんが、運動会がどうなるのか小学生をもつ保護者がやきもきしておられますね。

そんなわけで、大河も朝ドラも撮影中止で特番続きですが、意外なもうけものが過去の大河ドラマの中から傑作回の放送。
昔NHKはビデオテープを使いまわしていたそうで初回から最終回まで通して観ることはできないそうですが、「国盗り物語」で若い平幹二朗や高橋英樹、近藤正臣、火野正平、寺尾聡らの姿を観られ眼福でした。
そんな中で「いいね！光源氏くん」は婚活中のこじらせOLを演じた伊藤沙莉が最高でした。

ドラマは低迷中ですが、BSで放送している「ザ・カセットテープ・ミュージック」の70～80年代邦楽洋楽とりまぜた明るい蘊蓄がたまりません。しばらくはこの手の番組に注目することにしましょう。

* [[39](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C39)]
* **リモートつづくよどこまでも**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 5月31日(日)04時37分57秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C46%5C)

もうすぐ6月ですが、緊急事態宣言解除したけどこの有様。しばらく在宅勤務強化月間がまだまだ続きます。仕方ないですね、まだまだ感染者が出るところはありますし。

映画館はようやく再開、でも明日のダービーは無観客で夏の甲子園は中止といずれも戦後初の事態。もはや涙も出ません。ダービーはコントレイルの(オークスのデアリングタクトに続いての)無敗2冠なるかが焦点ですが、9割方達成されるのでは。父ディープインパクトの時とおなじゼッケン5番ですし。ただ騎手も厩舎もオーナーもすでにダービーを制してる点だけが(念願のV感が無いので)どうかというところ。万が一に負ける相手にしてもサリオス以外にいるだろうか。ただ去年は圧倒的一番人気サートゥルナーリアが４着に敗れて、１枠１番の同厩舎の人気薄ロジャーバローズが勝ってしまったので、今年もコントレイルの同厩舎かつ１枠１番に入ったサトノインプレッサには(今回は無いだろうとは思いつつ)一応警戒します。

映画は先週から再開でおよそ２か月ぶりの鑑賞ができました。「囚われた国家」「娘は戦場で生まれた」「ナイチンゲール」という、緊急事態宣言前に見逃していた作品が見ることができて満足。どれも今現在見る価値がある内容だったので、本当にありがたい。「囚われた国家」の侵略SF物の外形にジョン・ル・カレ級のエスピオナージをぶち込む蛮勇ぶりには感嘆。主人公にジョン・グッドマンという重層的な個性を持つ役者を配した理由も最後の最後には納得。「娘は戦場で生まれた」はシリア内戦の苛烈でヘルプレスな実態のドキュメンタリーですが、舞台が病院だけに壮絶極まりない。実際の爆破の瞬間を捉えた院内の監視カメラの動画は衝撃的だし、これほど幼い子供の死骸を見せられる映像もそう無いのでは。極限状態でもユーモアや笑顔を失わない人々の姿には感じ入るところも。「ナイチンゲール」はタスマニア島を舞台にした仇討西部劇という見立てだけど、密林での道中を経ての主人公の心の変遷というか他者や他文化への理解の深化の描写に独特の味があると感じました。ちょっと長いけど。

これからは公開延期の映画が順次劇場に乗るかと思いますが、大概は完成済み又は海外で公開済みの作品なので、あとは公開のタイミングを待つだけ。それ比べて撮影と放送が並走するテレビドラマの方は事前ストック切れが続々。無事完走したのは現状は「映像研には手を出すな！」「ピーナッツバターサンドイッチ」「いいね！光源氏くん」「路～台湾エクスプレス～」ぐらいで、なんとか継続中なのは朝ドラと大河の他は、ゴールデンでは「行列の女神」だけで、深夜枠も「捨ててよ、安達さん。」「正しいロックバンドの作り方」「東京男子図鑑」そして「きょうの猫村さん」だけ？あとはすでにBSで放送済みの「今夜はコの字で」「サイレント・ヴォイス」「雲霧仁左衛門3～4」ぐらい。あとは続々中断中で「美食探偵」も「浦安鉄筋家族」も「レンタルなんもしない人」も「女ともだち」も「捜査一課長」もいいところでストップ。朝ドラ「エール」は「紺碧の空」が完成したし、大河「麒麟がくる」は長良川の戦いという大きな山場を越えたばかりなのに、来月には本当に中断かと思うと切ない。中断の分だけ来期や来年の作品のスタートを遅らせてもいいんやで、少なくとも新年度９月開始よりは実現性は高いし、と一視聴者は無責任に思っているですけど、どうなりますやら。

[>>38](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C38)
> 映像ではこの際に「岸辺のアルバム」などを一気に見直そうと思ってます。

ゴールデンウィーク中に一気見しました。懐かしいけど結構記憶にないことがあったり、あの頃からモスバーガーあったのかとか、当時の父親像は内弁慶の亭主関白が当たり前だったなとか、実際の災害映像を使うなんて今では無理だなとか、国広はその後の「ふぞろい」の時とは別人だなとか、竹脇/村野/外国留学生らは誰も断罪されずに一人立ち向かった国広が返り討ちにあって終わったんだなとか、今視点の配役なら竹脇と津川は逆になるなとか、最後に家族でアルバムを見るシーンなどは無くて(あったと記憶違い)最後の４人を捉えたスナップまでが「アルバム」だったんだなと今頃気付くとか、いろいろ面白く再認識しました。それにしてもさすがは山田太一は容赦なくて素晴らしい。できれば「沿線地図」辺りを次に見直したいものです。清純派まっしぐらだった真行寺君枝や、冷酷な印象だった児玉清なども懐かしい。

* [[38](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C38)]
* **一年前とは大きく変わったゴールデンウィーク**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 4月30日(木)02時58分36秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C45%5C)

[>>37](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C37)
> 今月7日の緊急事態宣言を受けて、仕事も妻や兄弟はGWまでは休暇乃至はリモートワーク中。私も出社と在宅を交替で実施する毎日で、なんとかやり繰りしてます。

その後、2週前から完全在宅勤務が始まり、1週前から強制休暇に変更。GW明けも来月半ばまでは在宅勤務復活という有様で、ほとんど家に籠り続ける毎日となってます。通勤リスクがないので気楽ではあるけれど、いろいろ不便ではあります。本屋とかも閉まっているので、欲しい雑誌も通販利用のため、最大一週間ぐらい待たされたり。医療関係と同じぐらい物流や交通に携わる方々にも頭が下がります。

今日で4月も終わり。本当ならGWも始まった頃で、今週末にはいよいよ天皇賞(春)なのですが、どうにも心の弾まないこと。予想にも身が入りませんけど、現時点では前年覇者フィエールマンは２着まで、勝つのはユーキャンスマイルかキセキかミッキースワローと予想、というか希望してます。

TVドラマは、春クールが1/3を消化しようというのに、ほとんどが再放送で一向にスタートできないという惨状。スタートを切った中でも「スーツ2」や「ギルティ」などはすでにストックが尽きたような。4回分消化した「特捜9」も来週は「9係」第１回を再放送するようですし、いかにも苦しい。

こんな中でもまだまだ順調な「エール」ですが、当初の雰囲気から一変してのコメディタッチへの乗り替えにはなかなか戸惑いました。これが脚本家変更の影響なのかは不明ですが、まあありかな、と。今週には志村けんさんが出てきそうですね。現在辛うじて進行中の新作連ドラでは「いいね！光源氏くん」「映像研には手を出すな！」「美食探偵 明智五郎」「行列の女神 らーめん才遊記」「捨ててよ、安達さん。」「レンタルなんもしない人」「きょうの猫村さん」そして「M」と予想以上に豊作。「映像研」は傑作だった前クールのアニメ版の直後なので当然不安でしたが、「賭ケグルイ」同様に異世界学園ドラマとして上々の仕上がり。これなら劇場版も期待出来そう。「行列の女神」は原作ではあの"ラーメンハゲ"の芹沢が女性化(鈴木京香)されて更に主役に据えるという暴挙に動揺しましたが、これも「流石は飯テロドラマのテレ東系」と納得できる出来栄え。毎週２分半なのに手堅い「猫村さん」にも驚愕。そして「M」の田中みな実の怪演に「あゆをダシにしつつも狙いはスチュワーデス物語！？」かと大笑い。あとようやくシリーズ復活の「警視庁捜査一課長」も相変わらず狂っていて凄い(先週の第一声が「割引シールを貼られたご遺体が！？」、今週は「餃子の皮を握ったご遺体」の模様)。でもはやく「MIU404」が見たいです。

映画館も野球場も競馬場も温泉施設もすべて閉まっている今日、結局今一番の楽しみはやはり音楽ですね。新作ではThundercatの待望の新作「It Is What It Is」と、大滝詠一の晩年の復刻録音集「Happy Ending」ばっかり。旧作では相変わらず1980年前後の音楽ばかりを聞き直していて、最近ではEcho & the Bunnymen, Magazine, Siouxsie & the Banshees, 初期のElvis Costello, The Specials, Al Stewart, Steely Dan, 第４期King Crimoson, そしてYMOとかを。映像ではこの際に「岸辺のアルバム」などを一気に見直そうと思ってます。

* [[37](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C37)]
* **リモートな日常、大林監督、そして2020年1月～3月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 4月16日(木)01時07分29秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C44%5C)

相変わらず自己中な書き込みで恐縮ですが、少なくとも今のところは自分の親族や知り合いには感染者は居なさそうということだけで、ホッとしてしまっています。今月7日の緊急事態宣言を受けて、仕事も妻や兄弟はGWまでは休暇乃至はリモートワーク中。私も出社と在宅を交替で実施する毎日で、なんとかやり繰りしてます。ただ少なくともニュースの中で火を噴いている大都市圏と比較すると、会社内や病院や学校や休業要請された業種を除くと、近辺の緊張感は結構足りないなと感じるところも。電車が混雑する時間帯はどうしても残るし、スーパーも買い占めは無いけれどレジは渋滞してしまうし。

さすがにこの頃の訃報は辛くて一つ一つ振り返る余裕を失いつつありますが、大林宣彦までこのタイミングなのかという(泣)。初期の「ハウス」「転校生」「廃市」には強い偏愛を覚え、中期の「異人たちとの夏」「ふたり」「青春デンデケデケデケ」には成熟を感じ、後期の「理由」「転校生 さよならあなた」「その日のまえに」には改めてその才気に感服し、末期の戦争3部作には緊張を持って見守り、そういえば「金田一耕助の冒険」「ねらわれた学園」「漂流教室」といった珍作?も見直したいなと思っていました。奇しくも公開延期となった「海辺の映画館」の公開予定日4月10日に82歳没。弔いの言葉は本作の鑑賞後まで取って置かせてください。

こんな状態でドラマもほとんど開始せず、そもそも見る側のモチベーションもさほど上がってないですが、それでも「エール」は一週目から楽しみに。週5日体制にまだ馴染めず、駆け足に感じますが、運命の二人が心に奏でる「音楽とエール」という軸は見えてきた感じ。ただ脚本家の変更と撮影中止のハレーションがどこまで響くのか(そして志村さん...)気がかりです。「麒麟がくる」も新機軸の信長＆帰蝶がようやく面白くなってきました。他のドラマは現時点ではすべて様子見。あと未開始ドラマを再放送で埋める策はいいと思いますが、どこまで持ち堪えられるか。。

[>>36](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C36)
> ステイホームを受けて様々なアーティストが自宅セッション動画をアップしていますが、意外にも美声だったのが（渦中の）杏。
> そういえば彼女も朝ドラヒロインであった……

良かったですね。「教訓Ⅰ」を取り上げるセンスも秀逸。「デート」とか「幽かな彼女」とか女優として元々好感を持っているのですが、歴史好きが高じてシンポジウムで講演する姿もいいのですよね。CMでの笑顔を見ると哀しみが湧きあがりますが(朝ドラ「ごちそうさん」、そして「寝ても覚めても」に感じ入った者としても、ですが)、両親の仕打ちを含めていろいろ苦しんできたであろう、彼女の幸せは痛切に願っております。

> 離婚後に初めて八さんが喜美子を訪ね帰っていくとき、足音が一瞬止まるのでした。自分が負けた穴窯の前で立ち止まっていたのでしょうねえ。

深い指摘です。スカーレットは芸術、毒親、闘病、希望と、語られるべき切り口が多い作品でしたが、喜美子と八郎のドラマという一本軸は最後までブレませんでしたね。しかしこんなに別離後の男女を濃厚に描いた作品ってあったのでしょうか。そして松下洸平の前途は洋洋かという期待も。

> 4月も折り返しを迎え、一日も早い収束と、医療関係者の方々のお疲れが取れますように願わずにいられません。

おっしゃる通りです。そしてどうにか院内感染を最小限に押さえ込んで欲しいです。

最後に映画。野球場、競馬場に続いて、とうとう映画館も中に入れない事態となりました。これはもう年末まで(近隣での)劇場鑑賞は無理でしょうかね。「今年は頭の数か月でベスト１０が組める(ほどハイレベル)」などと吹いてましたが、冗談でなくなりそうな感じに。というわけで(まだまだ寝かせる予定でしたが)、現時点での今年の映画の星取り表を。確かにこの中から年間ベスト１０が決められそうです。

◎１月
ある女優の不在 ★★★☆
パラサイト 半地下の家族 ★★★★★
フォードvsフェラーリ ★★★★★
ジョジョ・ラビット ★★★★★
リチャード・ジュエル ★★★★
ロング･ショット僕と彼女のありえない恋 ★★★★
テリー・ギリアムのドン・キホーテ ★★★☆

◎２月
ダウントン・アビー ★★★☆
マザーレス・ブルックリン ★★★★☆
ナイブズ・アウト 名探偵と刃の館の秘密 ★★★★☆
ハスラーズ ★★★★
オリ・マキの人生で最も幸せな日 ★★★★
ミッドサマー ★★★★☆
1917 命をかけた伝令 ★★★★★
名もなき生涯 ★★★★☆
スキャンダル ★★★☆

◎３月
1917 命をかけた伝令(IMAX) ★★★★★
屋根裏の殺人鬼 フリッツ・ホンカ ★★★★☆
初恋 ★★★★
象は静かに座っている ★★★★☆
ミッドサマー ディレクターズカット版 ★★★★★
ジュディ 虹の彼方に ★★★★
ハーレイ・クインの華麗なる覚醒 ★★★★
レ・ミゼラブル ★★★★☆

* [[36](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C36)]
* **Teddy Pendergrass**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2020年 4月15日(水)16時25分19秒
* FL1-122-130-45-160.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C43%5C)

ｗさん、こんにちは。
ついに愛知県も（独自）緊急事態宣言の発令で休校延長され、不要不急の外出を控えるように知事から要請がありました。
ブレブレの大村知事と変な手製マスクによれよれネクタイの名古屋市長が反目しあっているため、足並みが揃いませんが、とにかく一人の感染者も家族から出したくありませんね。
とはいえ出勤制限も今週の月火とかかったのみで、連れ合いも今日から通常勤務に入りました。
ステイホームを受けて様々なアーティストが自宅セッション動画をアップしていますが、意外にも美声だったのが（渦中の）杏。
そういえば彼女も朝ドラヒロインであった……
スカーレットは音や光を上手に使った描写が秀逸で、離婚後に初めて八さんが喜美子を訪ね帰っていくとき、足音が一瞬止まるのでした。自分が負けた穴窯の前で立ち止まっていたのでしょうねえ。

志村けんの容態はECMOを使っていると知った時点で心配していました。
年齢や既往症、スモーカーであった点から難しいのではないかと危惧したとおりになってしまい、残念でなりません。面影の似たお兄さんが涙をこらえて取材を受けているのを見ているほうがつらいほどでした。
全年齢から笑いを取ったヒゲダンスのあの曲がテディ・ペンダーグラスとはｗさんの書込みを読むまで知りませんでした。
山田双葉（現山田詠美）のマンガによく名前が出てきたので知ってはいたんですけれど。
4月も折り返しを迎え、一日も早い収束と、医療関係者の方々のお疲れが取れますように願わずにいられません。

* [[35](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C35)]
* **志村さん.....**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 3月31日(火)01時46分57秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C42%5C)

[>>34](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C34)
> ノムさん、カーク・ダグラス、マッコイ・ターナー、マックス・フォン・シドー、古井由吉、宮城まり子と巨人が次々と鬼籍に入る中で、ひっそりと亡くなったのが、ジェネシス・P・オリッジとガビ・デルガド。（略）先日のアンディ・ギルと同じぐらいに、思いがけないほどの動揺を受けました。

昨晩、かように幾分センチメンタルな文言を書いた翌朝、矢継ぎ早にこんなに酷い追い打ちをかけられるなんて。

ザ・ドリフターズは、自分が小学校低学年時代、通学途中に松竹の撮影所の方に向かうと思しき彼らと往来にばったり出会い、お茶の間で見る姿とは幾分落差のある、案外イカツイ面々に思わずたじろぎ、声もかけられずに通り過ごしたことを今でも思い出します。ただあの時はまだ荒井注在籍時。見習いを経て、あのメンバー達に後から加わった志村けんは耐えられるか？と正直心配していたことがありました。あれほどの大天才だったと気づく前でしたけど。
東村山音頭は小学生時代ど真ん中でした。マチャアキ西遊記が中学時代、たけちゃんマンが高校時代、仮面ノリダーが大学時代、これらが自分と同時代を歩んだ同時代のお茶の間ヒーロー。そうした積み重ねを辿るなら、志村さんとカトちゃんとドリフは自分の原点とは言わずとも深層近くに当たり前に鎮座するアイコンであり、家族の次ぐらいに気恥ずかしく、あまり振り返ることのない存在にいつの間にか成っていました。

そんな志村さんへの見方が変わったのは、御多分に漏れず、週刊プレイボーイでの山下達郎との異色対談を読んでから。達郎が志村さんのファンだったことにも驚いたけど(※)、志村さんがブラックミュージックに造詣深い方だったことも初めて知りました。これでTeddy Pendergrassを日本中に子供たちに叩き込んだヒゲダンスも、日本最初期のラップと評されるドリフの早口言葉も、志村さんのアイデアだったのかと感心して、すっかり見る目が変わりました。変なおじさんも「ハイサイおじさん」だとすぐに気が付いたけど、良く考えたら喜納昌吉を最初にTVで見たのは全員集合でしたっけ。

※ちょうど昨日の日曜昼の山下達郎サンデーソングブックでも、志村さんへの応援を込めてTeddyの「Do Me」をかけてました。

COVID-19感染報道が出たその日の夜、「あいつ今何してる？」にゲスト出演し、かつて結婚を意識したという当時アイドル歌手の元交際相手を探すという内容だった際には、はっきり言って妙な胸騒ぎがしたことは確かです。彼女は志村さんとの思い出として、音楽が好きでデートでレコード屋に連れて行ってもらったこと、ジャケットがカッコいいレコードは中身もいいという感じでジャケ買いしてたこと、志村さんに勧めてもらった曲(Hi-Gloss「You'll Never Know」)が大好きになったことなど。アイドル歌手を止めてから現在まで裏方のソウルコーラスグループをずっと続けているそうで、コーラスに目覚めたのはChaka Khanのバックコーラスに憧れて。「志村さんの教えた音楽に影響を受けた感じ」とホリケンが指摘してたけど、志村さんとの出会いが彼女の人生への道しるべになったのか思わせる内容。志村さんはスタジオでの最後の言葉として「嬉しいね。うまくいっていて」。果たして、これが生前最後の放送だったと思うけど、こんな素敵な内容を生前の間に見ることができたことに感謝したいです。

しかしこれから「エール」を見るのが気が重くなりそうだけど、人生70年の集大成として謹んで受け止めようと思います。どうぞ安らかに。

* [[34](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C34)]
* **さらば喜美子、さらば菊村、さらばジェネシス＆ガビ、そして....**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 3月30日(月)05時59分20秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C41%5C)

[>>33](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C33)
> この分だとセンバツも危うし。

今年のセンバツの中止が決まったのが約3週前。その時の絶望的な気分は言葉に表せないぐらいでしたが、阪神淡路や東日本の年でも開催に漕ぎ着けたセンバツがとうとう中止という事態の只事では無さは、その後徐々に思い知ることに。カンヌ映画祭中止、ドバイワールドカップ中止、そして東京五輪延期(「AKIRA」か...)。9年前とは全く違う形での危機的状況に狼狽するばかりです。幸いなことに身近な感染爆発には直面してはないものの、時差通勤ないしは在宅勤務体制もいつまで続くのかと思うし、今回の件でグローバル業務へのダメージ、及び五輪延期によるハレーションは避けられず、事業継続可能性の点からも史上最大級の試練に見舞われた観があります。まずは日本やアジアだけでなく欧米もどうにか収束してほしい。。。。

こんな気持ちの中でのエンタメネタなのかと思いますが、忘れないうちに書き込んでおかないと。
「スカーレット」と「やすらぎの刻」が終わりました。「スカーレット」は武志の闘病を最後の最後に持ってくるなんて、こちらの気分は100日ワニどころじゃないよ、と震えながら見守りましたが、こんなにしみじみと深い余韻を残す終幕になるとは。「カーネーション」「あまちゃん」と匹敵する傑作だったと断言できると思います。また朝ドラのハードルが上がってしまったか。「やすらぎの刻」もどうにか大団円で、今時すごい試みだったと実感。ただ清野菜名がまたしても津波ののまれたのは可哀想すぎる。多くの名優が本作を最後に旅立ったけど、そして帯ドラマ枠も再び消えるようだけど、できればスペシャルの形でも時折復活してほしい。

他の連ドラでは「コタキ兄弟と四苦八苦」「伝説のお母さん」「女子高生の無駄づかい」「ランチ合コン探偵」「僕はどこから」「絶メシロード」「ホームルーム」「ハイポジ」など深夜ドラマに面白い意欲作が集中して印象的でした。が、それに比べて民放のゴールデンアワー枠は壊滅的な不作で、人気の「テセウスの船」「恋つづ」「シロクロパンダ」などはかなり厳しい顔で見てました。良かったのは「知らなくていいコト」「アライブ」「病室で念仏」ぐらいかな。「ケイジとケンジ」も挑戦作でしたのに、今後のシリーズ化は無理そうなのが哀しい。そして「相棒18」は右京の衰えを表に出すなど、シリーズ終了の準備が始まったのかと勘繰りたくなる展開に。森口瑤子の登場は立花陽介シリーズを思い出せて嬉しかったですが。

ノムさん、カーク・ダグラス、マッコイ・ターナー、マックス・フォン・シドー、古井由吉、宮城まり子と巨人が次々と鬼籍に入る中で、ひっそりと亡くなったのが、ジェネシス・P・オリッジとガビ・デルガド。スロッビング・グリッスルもDAFも高校時代にムキになって聞いていたので、先日のアンディ・ギルと同じぐらいに、思いがけないほどの動揺を受けました。享年70歳のジェネシスとはともかく、ガビは早いな。TGの「20 Jazz Funk Greats」もガビのソロの「Mistress」も当時は大いに愛聴したのだけどCDはなぜか持っていない。思い出の中の音楽。アンディの訃報以降、最近は80年前後のパンク/ポストパンク/ニューウェーブもやたら聞き直しているのですが、Gang of Fourは抜けた存在だったなと再認識。The Jam, The Clash, The Damned, Ultravox, Wire, PIL, The Pop Group, Squeeze, Killing Joke, The Smiths, R.E.M., The Hootersなどを超久々に聞きまくり。初期のThe Policeにまで手を出しました。これは懐かしい。。。

さて映画。公開延期とか上映時間短縮とか、いろいろ制約がある中で、ちょぼちょぼ見てます。「屋根裏の殺人鬼 フリッツ・ホンカ」「初恋」「ジュディ 虹の彼方に」「レ・ミゼラブル」「ハーレイ・クインの華麗なる覚醒」。フリッツホンカとレミゼラブルは欧州の暗黒を詰め込んだ内容で気が滅入るものの、世界を確実に撃ち抜いたと見てます。ジュディは決して物まね映画で終始せず、ショービジネスの犠牲者というだけじゃないと伝える暖かいクライマックスには予想以上に感動しました。ハーレイクインの原題はBirds of Preyで、思わず脳内に"Samson"とか"Madame Guillotine"とかが鳴り響いてしまう(ゴドクレ脳)。あとはようやく見られた「象は静かに座っている」(タルベーラやエドワードヤンの後継者に成れたはず、との評に深く納得)。更に「1917」IMAX版と「ミッドサマー」ディレクターズカット版も観て、改めて作品の周到な設計をより深く堪能できました。

[>>33](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C33)
の訂正と補足も。

> 「スキャンダル」～4年前の映画をネタに映画化するライオンズゲートという会社のフットワークの軽さには恐れ入ります。

「4年前の実話をネタに映画化する」でした。すみませんでした。

>「1917」は「バードマン」「ヴィクトリア」「サウルの息子」「ハードコア・ヘンリー」といった一つの視線を切れ目なく繋ぎ続ける最近の手法の系譜ですが、

最近だと「ウトヤ島、7月22日」に「One Cut Of The Dead」(カメ止めの前半)もありましたね。

* [[33](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C33)]
* **いよいよ阪神競馬開幕！のはずだったのだけど.....**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 2月28日(金)04時59分26秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C40%5C)

和歌山以外は近畿圏ではほとんど発症件数が上がらずで、かなり呑気に構えていたCOVID-19禍、今日になってとうとう火の粉が降ってきたといいますか、今週、明日(土曜日)から今年の阪神競馬が開幕！のはずだったのですけれど.....政府方針だか鶴の一声だか判りかねますが、他のスポーツイベント同様に当面は無観客で実施という前代未聞の憂き目に。これまでも、地震・台風・積雪・停電などで競馬開催が延期となる事態は経験したことがありますが、いやはや、レース自体は施行されるのに競馬場にもWINSにも入れないとは(ネット投票は可能)。その反面、映画館は普通に営業しそうですし、公共交通機関やレストランやフードコートなどには規制はなさそうというのが、優先度を決め打ちしている観がして何とも。この分だとセンバツも危うし。

ひと月前までは、これほどまで抑え込みも封じ込めでもできないままとは想像しておらず。油断してました。正直、他人事に思っていてごめんなさい。ただ、それこそどの辺まで感染源クラスターが広がっているのがわからないのは参りました。現在の業務には全然支障はないのですが、同僚たちが公立校休校の影響で不在とか頻発するとどうなりますやら。このまま感染拡大しないまま収束方向へ推移して欲しいのですけど、楽観的でしょうか。

さて、気を取り直して最近のエンタメ状況でも。

映画は、まず先のアカデミー賞の結果を受けてのパラサイト景気に乗っかったのか、近場のシネコンでも上映回数を急に増やしてくれましたので、この際に再見。改めてシナリオと演出の緻密さに舌を巻くといいますか、最初に戻る見事な円環構造を見せつつも、すべての構成要素と伏線をあの結末に向かうしかないように総動員できる構築力に感服。「計画」というワード、英語交じりの会話、アメリカンインディアン、モールス信号、台湾カステラ、便所コウロギ、匂い、階級と集団の結束(それぞれの「愛」の違い)等々、出来すぎなぐらいよく出来てますね。さらに、現在進行形の深刻な社会派テーマを王道の欧米映画の語り口(「ハイ・ライズ」とか)を利用しつつ最新モードの意匠で判り易くも味わい深く提供してくれるエンタメ性、そして主に富裕層をYoung & Simpleにカリカチュアライズして前景化するなどして(「殺人の追憶」「オールドボーイ」「チェイサー」といった)超ド級の鈍器系韓国映画よりは欧米アカデミー投票者層にも親しみを感じられる仕立てを打ち出した戦略性も強く感じ入りました。何しろ韓国産映画はこれまではアカデミー賞外国語映画賞部門にもノミネートできてなかったのですから。そして受賞には前年の「ローマ」と「万引き家族」の賞レースでの活躍も味方した気もします。いずれにせよ総合力の勝利で、21世紀の映画のシンボルとして「ダークナイト」や「怒りのデスロード」ともども語り継がれる映画になりそうでしょう。

他の映画も充実作・期待作・話題作だらけ。今年の1月と2月だけで年間ベストが組めそうなぐらいのクオリティ。アカデミー賞の後に見たのでも見るべきものがたくさんあって間に合わず。特に「1917 命をかけた伝令」と「名もなき生涯」という２つの戦争絡みの映画がとりわけ素晴らしい。「1917」は「バードマン」「ヴィクトリア」「サウルの息子」「ハードコア・ヘンリー」といった一つの視線を切れ目なく繋ぎ続ける最近の手法の系譜ですが、これがロジャー・ディーキンスの耽美的な映像で綴られると得も言われぬ没入感に囚われてしまい、特に中盤の暗転後の夜の市街の光景からは圧巻で、これほどの映像を提示しても作品賞から撥ねられるのかアカデミー賞という感慨に。思えば撮影賞や視覚効果賞を取った作品はこのところほとんど作品賞を取っておらず(「ゼロ・グラビティ」「ラ・ラ・ランド」「ローマ」など)、いわゆる「スジ・ヌケ・ドウサ」の三要素の中で「ヌケ」というかヴィジュアルが勝っている映画が最も軽視されている傾向が最近はあるような気がします。「名もなき生涯」もまたテレンス・マリックですので３時間の「ヌケ」の映画ですが、これももう反戦・反ナチスを主題とした「沈黙-サイレンス-」といってもよく、結末はわかっているにも関わらず、その崇高さに久方ぶりに感動いたしました。

あとは「ミッドサマー」「ハスラーズ」「スキャンダル」という、これらは女性映画と括ってよいのかしら。アリ・アスターの「ミッドサマー」は案の定凄まじくて、前作が「オーメン」等を下敷きしているように本作もかの「ウ(以下略)」ベースなんですが、今作もやっぱり「人間関係のどうしようも無さ/面倒くささ」の深層を表現したいがために往年のホラーの表層を導入しているところが伺われ、「展開は恐ろしいほどに予想通りだが死ぬほど厭だ(けど確かに面白い)」という変な気分にさせられる奇特な作風。どうにももう一度見たくはなりませんけど。「ハスラーズ」はジャネット・ジャクソンがかかりまくる女性ケイパーものというか、上り坂と下り坂が明確にわかるピカレスクロマンであるものの、ド派手に景気よく稼ぐ見せ場よりも、破滅の予兆が現れてからの方が本領発揮ですね、このパターンは(「パラサイト」も同じく)。「スキャンダル」は実録版「ネットワーク」という面もあるけど、メイン３人が必ずしも同じ方向を向いていない(分断的な)共闘という点では「マネーショート」のMeToo版という感じ。4年前の映画をネタに映画化するライオンズゲートという会社のフットワークの軽さには恐れ入ります。あとは地味ながらもようやく劇場公開となったカンヌ"ある視点部門"受賞策の「オリ・マキの人生で最も幸せな日」も楽しみました。「ボーダー 二つの世界」のボーレの人がここでも厄介な人物を演じてて笑。

TVドラマではただいま絶賛スピンオフ中の「スカーレット」。この事態は単にシナリオが間に合わってない事の苦肉の策なのか、それとも３月に待ち受けるであろう最大の試練に向けてのワンクッションなのか。。。いよいよ終盤に差し掛かってきた「やすらぎの刻」(と「道」)も同じぐらい目が離せません。他では「麒麟がくる」「ハムラアキラ」「螢草 菜々の剣」「伝説のお母さん」「知らなくていいコト」「コタキ兄弟と四苦八苦」「病室で念仏を唱えないでください」「トップナイフ」「アライブ」「ランチ合コン探偵」「僕はどこから」「絶メシロード」「ホームルーム」「連続殺人鬼カエル男」辺りを楽しく拝見。「テセウスの船」「１０の秘密」「絶対零度」「シロクロパンダ」「恋つづ」は半ば降り落とされそうになりながらもどうにか食らいついてます。しかし連ドラ数超多い。

* [[32](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C32)]
* **答え合わせ：2019年キネ旬ベストとアカデミー賞の予想**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 2月12日(水)00時13分48秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C39%5C)

立春を過ぎたら急激な寒波。と思ったらまた暖かくなったりして、体調キープに苦労する今日この頃です。新型コロナも心配ですが、その前にくしゃみが止まらず、早くも花粉症シーズン来たかなって観も。

今月は「ダウントン・アビー」「マザーレス・ブルックリン」「ナイブズ・アウト」とアカデミー賞作品賞戦線に何故か乗らなかったけど面白かった映画を見ました。脚本賞部門に食い込んだ「ナイブズ～」はオリジナル脚本だったとは驚くべき出来栄え。チョイ役にまで配した怪優たちの競演も見もの。「マザーレス～」は「ワンハリ」「フォードVS」「アイリッシュ」と並ぶアメリカ近代史回顧物としてなかなかの改作だったのに不思議なほどの冷遇的上映数。主人公の持病に対する敬遠なのか？「ダウントン～」はTVシリーズを引き継ぐ劇場版。さすがの安定感ですがこれで完結？「渡鬼」も負けじと劇場版をやればよいのでは(冗談)。

[>>31](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C31)
> ということで、明日発表となるキネマ旬報ベストテンに向けて、今年も洋画邦画の上位勢の予想を。

キネ旬ベストワンの結果ですが、

・洋画
１位　▲ジョーカー
２位　◎ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
３位　○アイリッシュマン
４位　△運び屋
５位　△グリーンブック
12位　△帰れない二人

・邦画
１位　○火口のふたり
２位　　半世界
３位　△宮本から君へ
４位　△よこがお
５位　◎蜜蜂と遠雷
８位　△愛がなんだ
11位　▲新聞記者

洋画は▲→◎→○なので的中。上位の読みはほぼバッチリで今年も５連単ゲットか(笑)。ただ３位ぐらいかなと思っていた「ジョーカー」の首位は嬉しい驚きで、遂にアメコミ作品が映画界を名実ともに制覇する年が来たのかと。ただ「エンドゲーム」の方がたった一人しか投票しなかったことを思うと矛盾した結果に見えるけど、キネ旬やからね。それに霞んでしまったけど、タランティーノの２位も、NETFLIX映画の2作TOP10入り(「ROMA」も８位)もエポックメイキングでしょう。邦画は○→無印→△と今年も２着抜け。「半世界」は「凪待ち」ともども残念ながら見逃していたので仕方ないです。

> > > ところでアカデミー賞も近づいてきました。今年は予想しようかどうしようかという。
> ということで、今年も◎○▲で予想を。なお短編部門は全然わからないので除外します。

アカデミー賞の結果ですが、

・作品賞　▲パラサイト 半地下の家族
・監督賞　○ポン・ジュノ（パラサイト 半地下の家族）
・主演男優賞　◎ホアキン・フェニックス（ジョーカー）
・主演女優賞　◎レニー・ゼルウィガー（ジュディ 虹の彼方に）
・助演男優賞 　◎ブラッド・ピット（ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド）
・助演女優賞　◎ローラ・ダーン（マリッジ・ストーリー）
・オリジナル脚本賞　◎パラサイト 半地下の家族
・脚色賞　◎ジョジョ・ラビット
・撮影賞　◎1917 命をかけた伝令
・編集賞　○フォードVSフェラーリ
・美術賞　◎ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
・衣装デザイン賞　▲ストーリー・オブ・マイライフ／わたしの若草物語
・メイキャップ＆ヘアスタイリング賞　◎スキャンダル
・録音賞　◎1917 命をかけた伝令
・音響編集賞　○フォードVSフェラーリ
・視覚効果賞　◎1917 命をかけた伝令
・オリジナル作曲賞　◎ジョーカー
・オリジナル歌曲賞　◎"(I'm Gonna) Love Me Again"（ロケットマン）
・長編ドキュメンタリー賞　○アメリカン・ファクトリー
・長編アニメーション賞　◎トイ・ストーリー4
・国際映画賞　◎パラサイト 半地下の家族
※以下は予想せず
・短編アニメーション映画賞　Hair Love
・短編ドキュメンタリー映画賞　Learning to Skateboard in a Warzone (If You’re a Girl)
・短編実写映画賞　The Neighbor’s Window

予想した２１部門中◎が１５、◎○▲は２１と全的中。よってほぼ無風決着と言いたい所ですが、最後の最後の作品賞で「パラサイト」が受賞したのはこれはもうビッグサプライズ。私も「去年は「ROMA」が取れなかったからねえ」という先入観に支配されていたので、かなり震えました。作品賞ノミネート９作品はどれも満遍なく賞を取れましたが、「アイリッシュマン」だけ無冠は残念か。今年は例年より授賞式が早かったですが、上記９作品中７作品はすべて鑑賞済みで、しかもすべてハイレベルだったので楽しい授賞式でした。「1917」「ストーリー・オブ・マイライフ」「スキャンダル」も期待します。

* [[31](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C31)]
* **さらばアンディ・ギル、そして2019年キネ旬ベストとアカデミー賞の予想**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 2月 4日(火)05時06分22秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C38%5C)

[>>29](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C29)
> ニール・イネスが亡くなったのはとても悲しく、追悼の意でソロとかボンゾとかラトルズとかいろいろ聞きましたが、去年新作が出てたとはチェックできておらず、今慌ててます。と思ったら最近テリー・ジョーンズもなくなったようで、つらい時代です(今年に入ってからもRushのニール・パート、上原正三、高木守道、宍戸錠と続々)。

と書きましたら、今度はアンディ・ギルが！Gang of Fourは健在で去年も来日していたというのに。渋谷陽一サンストで'Damaged Goods'を初めて聞いた時の衝撃は今でも忘れられない。とはいえ、XTCとTalking Headsを除くと、Gang of Four、The Pop Group、Wire、PiL、Ultravox、Siouxsie & The Bansheesといったあの頃のポスト・パンクってアナログ時代しか聞いてなくて、一枚もCDを持ってなかったことが発覚。ずっと聞き直して無かったのね。すみません。誠に迂闊。少なくとも"Entertainment!"と"Solid Gold"は何時でも聞けるようにしなくては。ということでRIP

[>>30](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C30)
> ちなみに秘宝のベスト１は「ワンハリ」で、同じく評論家ベストが発表されたスクリーン誌はベスト１は「ジョーカー」。キネ旬はどうなるでしょう。

ということで、明日発表となるキネマ旬報ベストテンに向けて、今年も洋画邦画の上位勢の予想を。

・洋画
◎ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
○アイリッシュマン
▲ジョーカー
△運び屋
△グリーンブック
△帰れない二人

・邦画
◎蜜蜂と遠雷
○火口のふたり
▲新聞記者
△愛がなんだ
△宮本から君へ
△よこがお

洋画は、Nexflix作品が普通の劇場上映作品と同様の俎上に乗るのかどうかわからないので「アイリッシュマン」は対抗までに留めます。となると「ワンハリ」が上かなあ、と。「ジョーカー」も強力だと思うけど、キネ旬は「ダークナイト」「第９地区」「シェイプ・オブ・ウォーター」などが３位止まりなので、そのぐらいかな。さすがに「運び屋」の１位は無いよね。邦画ではこれまでの映画賞戦線で実績のある映画を◎○▲にしましたが、個人的には△にした３作の方を買ってます。

> > ところでアカデミー賞も近づいてきました。今年は予想しようかどうしようかという。

ということで、今年も◎○▲で予想を。なお短編部門は全然わからないので除外します。

・作品賞
　◎1917 命をかけた伝令
　○ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
　▲パラサイト 半地下の家族
・監督賞
　◎サム・メンデス（1917 命をかけた伝令）
　○ポン・ジュノ（パラサイト 半地下の家族）
　▲クエンティン・タランティーノ（ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド）
・主演男優賞
　◎ホアキン・フェニックス（ジョーカー）
　○アダム・ドライヴァー（マリッジ・ストーリー）
　▲ジョナサン・プライス（2人のローマ教皇）
・主演女優賞
　◎レニー・ゼルウィガー（ジュディ 虹の彼方に）
　○スカーレット・ヨハンソン（マリッジ・ストーリー）
　▲シアーシャ・ローナン（ストーリー・オブ・マイライフ）
・助演男優賞
　◎ブラッド・ピット（ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド）
　○ジョー・ペシ（アイリッシュマン）
　▲アル・パチーノ（アイリッシュマン）
・助演女優賞
　◎ローラ・ダーン（マリッジ・ストーリー）
　○スカーレット・ヨハンソン（ジョジョ・ラビット）
　▲キャシー・ベイツ（リチャード・ジュエル）
・オリジナル脚本賞
　◎パラサイト 半地下の家族
　○ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
　▲マリッジ・ストーリー
・脚色賞
　◎ジョジョ・ラビット
　○ストーリー・オブ・マイライフ
　▲ジョーカー
・撮影賞
　◎1917 命をかけた伝令
　○ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
　▲ジョーカー
・編集賞
　◎パラサイト 半地下の家族
　○フォードVSフェラーリ
　▲ジョジョ・ラビット
・美術賞
　◎ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
　○1917 命をかけた伝令
　▲ジョジョ・ラビット
・衣装デザイン賞
　◎ジョジョ・ラビット
　○ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
　▲ストーリー・オブ・マイライフ
・メイキャップ＆ヘアスタイリング賞
　◎スキャンダル
　○ジョーカー
　▲ジュディ 虹の彼方に
・録音賞
　◎1917 命をかけた伝令
　○フォードVSフェラーリ
　▲ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
・音響編集賞
　◎1917 命をかけた伝令
　○フォードVSフェラーリ
　▲ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
・視覚効果賞
　◎1917 命をかけた伝令
　○ライオン・キング
　▲アベンジャーズ/エンドゲーム
・オリジナル作曲賞
　◎ジョーカー
　○マリッジ・ストーリー
　▲1917 命をかけた伝令
・オリジナル歌曲賞
　◎"(I'm Gonna) Love Me Again"（ロケットマン）
　○"Into the Unknown"（アナと雪の女王2）
　▲"I Can’t Let You Throw Yourself Away"（トイ・ストーリー4）
・長編ドキュメンタリー賞
　◎娘は戦場で生まれた
　○アメリカン・ファクトリー
　▲ブラジル －消えゆく民主主義－
・長編アニメーション賞
　◎トイ・ストーリー4
　○ミッシング・リンク
　▲失くした体
・国際映画賞
　◎パラサイト 半地下の家族
　○レ・ミゼラブル
　▲ペイン・アンド・グローリー

一言で言って、大混戦ですね。

* [[30](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C30)]
* **さらば秘宝、さらば八郎、さらばFOX、そして2000年代ベスト**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 1月31日(金)04時55分9秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C37%5C)

Windows7 サポート終了トラブルでPCを新調する羽目に合い、ようやく軌道に乗ってきたところです。ほぼ10年周期で新機種に買い替えてる公算です。スマホだと更に短い周期。わかっちゃいるけどお金も心も大いに負担です。車は諦める先達もおいでですが、こういうのはより益々手放せなくなり、どうしたものかという。

雑誌「映画秘宝」が今月で最終号となり、残念というよりも、映画ファンとして危機感を覚える状況が迫ってきたかなと心境になっています。前身の「映画宝島」からムック時代は大変楽しみにしましたし、「怪獣学入門」「地獄のハリウッド」「底抜け超大作」などは特に強い刺激と影響を受けたものです。あの頃の突っ走ってた姿を思うと、最後の年間ベストなどは至極ノーマルというか、私の2019年ベスト映画と７作まで被っていたのには、私も秘宝にすっかり染まってる、というよりも、もはや雑誌の志向がスタンダードなものになってきた(のに雑誌は終わってしまう)ように思えて、なかなか複雑な気持ちです。ちなみに秘宝のベスト１は「ワンハリ」で、同じく評論家ベストが発表されたスクリーン誌はベスト１は「ジョーカー」。キネ旬はどうなるでしょう。

まあ私は映画雑誌は年間ベスト号ぐらいしか買わないので、いまだに定期購読している月刊誌はMMとRCという音楽誌ぐらい。RC(レココレ)2月号は毎年恒例のリイシューベスト号ですが、例のVdGGエアゾール50周年記念盤が取り上げられるかと期待しましたが完全スルーでがっかり。その代わりに目立ったのが「アビーロード」「レットイットブリード」「宮殿」「ウッドストック」「ザ・バンド」といった超メジャーアイテムの50周年記念盤がズラリ。ほかにも「ホット・ラッツ」もあったし、こんなに出されても買えないですよ。この先は５０周年記念盤に毎年目を回す未来がくるのでしょうか。

さて、99話にして最大級の山場を迎えた「スカーレット」。三津が去ったことで大勢が懸念した「八郎駆け落ち説」は回避できたのに、こんな形になるとは。。。このまま独り立ちした喜美子と武志の母子二人の(重くてつらい)展開へシフトするかというとおもうと、今のこども武志を見ているだけでもう悲しくなってしまいます（気が早い）。
１月はフジ系の「教場」が面白くて(連ドラにしてもよかったぐらい)、民放ドラマも回復傾向と思いましたが、冬クールが本格化するや否や「スカーレット」以外も「麒麟がくる」「心の傷を癒すということ」「ハムラアキラ」とどれも快調で、さっそくNHKの独壇場状態となりました。「麒麟」はなんというか戦国大河ファンの渇きを癒すかのごとく至れり尽くせりでなんとも手堅い。みんな好きだね戦国大河。まだ「真田丸」や「風林火山」級の快作となるかは様子見ですが、メイン脚本があの「太平記」の池端俊策ですからね、期待は大きいです。
で民放の方は、数字狙いというか医療ドラマかサスペンスばかりで工夫がないというか、前クールと比べると大幅にパワーダウンしている感じ。現時点ではテレ東系の「コタキ兄弟と四苦八苦」(野木脚本！)と「僕はどこから」と「絶メシロード」、TBS/MBS系の「SEDAI WARS」と「ホームルーム」(どちらも山田裕貴主演！)など、今回も深夜枠に収穫ありです。

[>>27](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C27)
> ところでアカデミー賞も近づいてきました。今年は予想しようかどうしようかという。現在楽しみにしている映画は今週公開の「フォードvsフェラーリ」と「パラサイト」。さらに「ジョジョ・ラビット」と「１９１７」と「スキャンダル」。「ジュディ 虹の彼方に」と「リチャード・ジュエル」はどうでしょうね。

というわけで、映画ではアカデミー賞の俎上に乗った「パラサイト 半地下の家族」「フォードvsフェラーリ」「ジョジョ・ラビット」がどれも素晴らしい出来栄えで感動しました。年明け早々にこんなにハイレベルな映画が見れていいのかという。「パラサイト」は確かに「万引き家族」や「ジョーカー」と同じ流れにある社会派の側面が強いですが、ちゃんと説得力のあるエンタメの軸は外さないのがポン・ジュノの信頼できるところ。「フォード～」はモータースポーツ物の皮をかぶった西部劇調バディ映画で、流石はジェームス・マンゴールドで力業で泣かされました。「ジョジョ～」は戦争映画ながらも軽やかな意匠で急所を突くFOXサーチライト映画の定石を抑えており、ウェス・アンダーソンの強力なライバル出現の観。「リチャード・ジュエル」もいろいろいわれるイーストウッド映画ですがここ数年では一番いいです。「ジョジョ」も「ジュエル」もほんまかと思うほどにサム・ロックウェルが頼もし過ぎ。「ロング・ショット」「ある女優の不在」も面白かったです。ちょっと心配してたギリアムの「ドン・キホーテ」も充分に満足。盟友ジョナサン・プライスと絶好調のアダム・ドライバーを確保できたのが功を奏したと思います。ラストシーンには「これが遺作でもいいかな」とおもったぐらい(ちょっと失敬)。

ところで20世紀FOXがディズニーに買収されFOXの名が消えることが決まり、今回の「フォードvsフェラーリ」と「ジョジョ・ラビット」最後のFOXテーマが聞ける映画となりそう。これまた残念です。特にFOXサーチライトは近年名作が多かったのでね。FOXサーチライトは数年前から映画パンフを「FOXサーチライトマガジン」としてナンバリングしてて、ちょっと高めでしたがオシャレでよかった。このシリーズもなくなると思うと悲しいので、私の知る範囲でリストアップしときます。(×は映画を劇場で見なかったので手元にない号です）

Vol.01 トランス ×
Vol.02 ザ・イースト
Vol.03 グランド・プダペスト・ホテル
Vol.04 バードマン あるいは(無知がもたらす予期せぬ奇跡)
Vol.05 わたしに会うまでの1600キロ
Vol.06 わたしはマララ ×
Vol.07 マリーゴールドホテル 幸せへの第二章 ×
Vol.08 ブルックリン
Vol.09 gifted/ギフテッド
Vol.10 スリー・ビルボード
Vol.11 シェイプ・オブ・ウォーター
Vol.12 犬が島
Vol.13 バトル・オブ・ザ・セクシーズ
Vol.14 女王陛下のお気に入り
Vol.15 トールキン 旅の始まり ×
Vol.16 ジョジョ・ラビット

そして前回の
> さて2020年になりましたが、2010年代が終わったばかりということで、ここ10年間のベストをリストアップしましょうか。

が割と楽しかったので、調子に乗って2000年代のベストをリストアップしました。温泉は東西順で他は年代順。こうしてみるとこの20年間は前半後半で大きな差異はなかったです。

・音楽
XTC / Wasp Star: Apple Venus 2
キリンジ / 3
クレイジーケンバンド / グランツーリズモ
カーネーション / LIVING/LOVING
Peter Hammill / Incoherence
Kanye West / College Dropout
Mars Volta / Frances The Mute
Motorpsycho / Black Hole/Blank Canvas
Perfume / GAME
Prefab Sprout / Let's Change the World with Music

・映画
赤目四十八瀧心中未遂
ミスティック・リバー
スパイダーマン２
ミュンヘン
ゆれる
パンズ・ラビリンス
ミスト
歩いても歩いても
ダークナイト
母なる証明

・TVドラマ
私立探偵 濱マイク
すいか
てるてる家族
マンハッタン ラブストーリー
新選組！
時効警察
結婚できない男
マイ☆ボス マイ☆ヒーロー
ハゲタカ
ちりとてちん

・競馬
2000年　有馬記念　　１着テイエムオペラオー　２着メイショウドトウ
2001年　ジャパンＣ　１着ジャングルポケット　２着テイエムオペラオー
2002年　天皇賞(秋)　１着シンボリクリスエス　２着ナリタトップロード
2004年　天皇賞(春)　１着イングランディーレ　２着ゼンノロブロイ
2004年　有馬記念　　１着ゼンノロブロイ　　　２着タップダンスシチー
2006年　天皇賞(春)　１着ディープインパクト　２着リンカーン
2006年　皐月賞　　　１着メイショウサムソン　２着ドリームパスポート
2007年　宝塚記念　　１着アドマイヤムーン　　２着メイショウサムソン
2008年　天皇賞(秋)　１着ウオッカ　　　　　　２着ダイワスカーレット
2009年　天皇賞(春)　１着マイネルキッツ　　　２着アルナスライン

・温泉
平湯温泉 ひらゆの森(岐阜)
勝浦温泉 ホテル浦島(和歌山)
湯の峰温泉 つぼ湯(和歌山)
白浜温泉 崎の湯(和歌山)
花山温泉(和歌山)
六甲おとめ塚温泉(兵庫)
有馬温泉 上大坊(兵庫)
天然湧出 円山川温泉(兵庫)
ホテル祖谷温泉(徳島)
温泉津温泉 元湯泉薬湯(島根)

※以下はぬるい温泉限定
木津温泉 しらさぎ荘(京都)
椿温泉 富貴(和歌山)
水道筋灘温泉(兵庫)
郷緑温泉 郷緑館(岡山)
千原温泉(島根）

* [[29](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C29)]
* **Re: 今年もよろしくお願いいたします**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 1月24日(金)04時33分19秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C36%5C)

[>>28](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C28)
> あっという間に成人の日も過ぎてしまいましたが元気にしております。

今年もよろしくお願いします。

> 晩秋に阪神競馬場で開催された「関西蚤の市」なる骨董市をひやかしてきました。
> いやあああ広い近い競馬場！こちらの中京競馬場とちがいバリアフリー、
> 駅からも濡れずに場内へ移動できるというアクセスの良さに感激いたしました。

おお、そのようなイベントがありましたか。
阪神競馬場はここ数年、開催期間中はほぼ毎週通ってますが、施設の新しさ、広さ、混み具合、セントウルガーデンという庭園ゾーンの景観の良さなどから、最も気に入っている競馬場です。4コーナー付近の芝生スペースからゆったり観戦できるのもいいですね。キッチンカーの屋台もいろいろ設置されているのでピクニック気分でのんびりできます。

> それに飽き足らずつい先週ですが福知山のブックカフェmozicaを訪ね、
> 高速バスで三宮へ向かい梅田に一泊してきました。
> mozicaには事前に行く旨伝えていたのですが、
> なんと店内に！Imperial Zeppelinが！
> 思わず「ピーターハミルお好きですかっ！」と店主に詰め寄…いえ詰問口調に。
> プログレ好きお父上の薫陶を受けて育ったそうです。
> せっかくだからとFool's Mateなど流して下さったのだそうで、その後もAfterwardsまで聴けるなど感涙です。

Fool's Mateが流れるカフェ！素敵ですね。福知山は十年以上も立ち寄ってないのですが、そのような素晴らしい場所があったとは。福知山は今年の大河「麒麟がくる」ゆかりの地ですし何やら呼ばれている気がします。余談ですが、近所では明智光秀にちなんだラッピングバスが昨年秋から走っていますので、画像をぞうぞ。

> 映画はJOKERがすごかった。ホアキン、むかしはリヴァーの弟でしたがいまや
> リヴァー・フェニックスがホアキンの兄ですね。
> あの場面で流れるWhite Roomに鳥肌が立ちました。音楽の使い方が秀逸で
> もう一度観たいものです。

御覧になりましたか。クリームとゲイリー・グリッターが流れたシーンはすごかったです。去年の映画だと「ワンス・アポン～ハリウッド」のパープルとヴァニラ・ファッジ、「ブラッククランズマン」のELP、「未来を乗り換えた男」のトーキング・ヘッズ、「ウトヤ島～」のシンディ・ローパー(のカバー)と並んで意表を突く使われ方でした。ホアキンは今度のアカデミー主演男優賞候補でも大本命かと思いますが、近作はどれも良くて(「her」「ビューティフル・デイ」「ゴールデン・リバー」等々)、ようやく真っ当な評価を得られる時が来たかと嬉しくなります。

> 年末おしせまった頃に届いたNeil Innesの訃報（何の前触れもなく、おそらくほとんど苦しむこともなかったでしょうとのこと）
> 献花のつもりで彼のオフィシャルHPで新作（遺作になってしまいました）Neally Reallyを購入したら
> 妻のイヴォンヌさんから「もうニールがアルバムにサインできなくなってしまったけれど、変わらぬ応援ありがとう」のメッセージカードが。

ニール・イネスが亡くなったのはとても悲しく、追悼の意でソロとかボンゾとかラトルズとかいろいろ聞きましたが、去年新作が出てたとはチェックできておらず、今慌ててます。と思ったら最近テリー・ジョーンズもなくなったようで、つらい時代です(今年に入ってからもRushのニール・パート、上原正三、高木守道、宍戸錠と続々)。モンティ・パイソンつながりで、奇しくも今日からテリー・ギリアム念願の「ドン・キホーテ」がいよいよ公開。これまた見なくては(いつ見られるか…)。



* [[28](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C28)]
* **今年もよろしくお願いいたします**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2020年 1月15日(水)11時31分30秒
* FL1-119-238-144-40.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C35%5C)

あっという間に成人の日も過ぎてしまいましたが元気にしております。
晩秋に阪神競馬場で開催された「関西蚤の市」なる骨董市をひやかしてきました。
いやあああ広い近い競馬場！こちらの中京競馬場とちがいバリアフリー、
駅からも濡れずに場内へ移動できるというアクセスの良さに感激いたしました。
目的が骨董市ですのでふだんの客層とかけ離れていたことと思いますが、臨時改札も開け
上手に誘導していましたね。

それに飽き足らずつい先週ですが福知山のブックカフェmozicaを訪ね、
高速バスで三宮へ向かい梅田に一泊してきました。
mozicaには事前に行く旨伝えていたのですが、
なんと店内に！Imperial Zeppelinが！
思わず「ピーターハミルお好きですかっ！」と店主に詰め寄…いえ詰問口調に。
プログレ好きお父上の薫陶を受けて育ったそうです。
せっかくだからとFool's Mateなど流して下さったのだそうで、その後もAfterwardsまで聴けるなど感涙です。

映画はJOKERがすごかった。ホアキン、むかしはリヴァーの弟でしたがいまや
リヴァー・フェニックスがホアキンの兄ですね。
あの場面で流れるWhite Roomに鳥肌が立ちました。音楽の使い方が秀逸で
もう一度観たいものです。

年末おしせまった頃に届いたNeil Innesの訃報（何の前触れもなく、おそらくほとんど苦しむこともなかったでしょうとのこと）
献花のつもりで彼のオフィシャルHPで新作（遺作になってしまいました）Neally Reallyを購入したら
妻のイヴォンヌさんから「もうニールがアルバムにサインできなくなってしまったけれど、変わらぬ応援ありがとう」のメッセージカードが。

* [[27](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C27)]
* **2020年突入、そして2010年代ベスト**
* 投稿者：w
* 投稿日：2020年 1月10日(金)04時52分47秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C34%5C)

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

今年の正月は瀬戸内海の小豆島でのんびり過ごしました。去年行った志摩半島に匹敵するほどビュースポットと美味に恵まれた場所で温暖かつ風光明媚。有名なエンジェルロードに寒霞渓、オリーブ公園に中山千枚田、迷路のまち、醤の郷、二十四の瞳映画村に、島に点在するアート作品などを回ったり、「八日目の蝉」「Nのために」「表参道高校合唱部」のロケ地巡りを楽しんだり。多くの若い人たちでが賑わってましたが、温泉はやや薄口でこの辺も志摩に似ているかも。

さて2020年になりましたが、2010年代が終わったばかりということで、ここ10年間のベストをリストアップしましょうか。

・音楽
Alabama Shakes / Sound & Color
Thundercat / Drunk
The 1975 / A Brief Inquiry into Online Relationships
Begin Again Original Sound Track
David Bowie / Blackstar
キリンジ / Super View
星野源 / Yellow Dancer
山下達郎 / Ray Of Hope
Randy Newman / Dark Matter
Van Der Graaf Generator / A Grounding in Numbers

上から４つは10年間の流行り物が占めた形。2010年代に現れた音楽の中でも新しくも懐かしい、ちょっとおやじ殺し的なところがポイント。残りは洋楽ベテランと日本ものが３つずつ。ボウイの遺作は感動的だったけど、パーソナルなのと同時に最新型だったのも印象的。ランディ・ニューマンやVdGGを含めて、いずれも2010年代らしさを感じられる音にはなっていた気がします。次点はRober Plant / Lullaby and the Ceaseless Roar, Keith Richards / Crosseyed Heart, The Who / Who, カーネーション / Multimodal Sentiment, 細野晴臣 / Vu Ja De, 「あまちゃん」と「Sing Street」のサントラあたりか。てか、Peter Blegvad & Andy Partridge / Gonwardsを忘れちゃいかんですな。

・映画
アベンジャーズ／エンド・ゲーム
シン・ゴジラ
この世界の(さらにいくつもの)片隅に
スリー・ビルボード
灼熱の魂
イーダ
沈黙 -サイレンス-
女神の見えざる手
裏切りのサーカス
第９地区

2010年代は、MCUと「シン・ゴジラ」と「片隅」の時代だったと乱暴にまとめたいところ。その他、忘れられない映画をチョイスしていったらこんな感じに。どれも序盤とはぜんぜん違う所に連れて行かれた作品で、いつまで経ってもこういう作品を見たいんですね。そしてラストシーンが又すべて素晴らしい。次点は「ウルフ・オブ・ウォールストリート」「ダンケルク」「オデッセイ」「her/世界でひとつの彼女」「ベイビー・ドライバー」「ホワイト・ドッグ」「ボーダー 二つの世界」「ブランカニエベス」「哭声 コクソン」「淵に立つ」など。できれば2020年代もよい作品に「映画館で」出会えるといいのだけれど。

・TVドラマ
あまちゃん
真田丸
カーネーション
ちかえもん
リーガル・ハイ
アンナチュラル
透明なゆりかご
mother
Q10
義母と娘のブルース

TVは偏りが避けられないので「各脚本家１作まで」の縛りを入れました。結果、宮藤官九郎、三谷幸喜、渡辺あや、藤本有紀、古沢良太、野木亜紀子、安達奈緒子、坂元裕二、木皿泉、森下佳子、という中々バランスの良い選択となりました。女性脚本家が半数を占めたのが目を引きます。方や岡田惠和、大森美香、遊川和彦、金城一紀、井上由美子、奥寺佐渡子、北川悦吏子、大森寿美男、そして倉本聰が漏れたのは我ながら意外。局ではNHKと民放半々ずつ(地上波のみ)。次点では「俺の話は長い」「昭和元禄落語心中」「64(ロクヨン)」「最後から二番目の恋」「宮本から君へ」「贖罪」。脚本縛りを緩めれば「いだてん」「平清盛」「鈴木先生」「カルテット」「重版出来」「デート」「天皇の料理番」「G線上のあなたと私」などなど、いくらでも挙がってしまいます。

・競馬
2011年 菊花賞 １着オルフェーヴル
2012年 ジャパンカップ １着ジェンティルドンナ
2015年 天皇賞(春) １着ゴールドシップ
2015年 宝塚記念 １着ラブリーデイ
2016年 有馬記念 １着サトノダイヤモンド
2017年 天皇賞(春) １着キタサンブラック
2017年 宝塚記念 １着サトノクラウン
2018年 阪急杯 １着ダイアナヘイロー
2018年 ジャパンカップ １着アーモンドアイ
2019年 スプリンターズＳ １着タワーオブロンドン

これは年代順に。オルフェ、ゴルシ、ジェンティル、キタサン、アーモンドという2010年代を代表する名馬の国内でのベストレースと、個人的に思い入れのある馬の会心のレースから。特に2015年と2017年の春天と宝塚(および前年の有馬)はそれぞれワンセットで一つのドラマとして忘れられないです。ロードカナロアとモーリスのレースが漏れましたが、これらはラストランかな。ちなみに国外のレースを５つ追加すると以下。
2011年 ドバイワールドカップ １着ヴィクトワールピサ
2012年 凱旋門賞 １着ソレミア(２着オルフェーヴル)
2016年 イスパーン賞 １着エイシンヒカリ
2019年 クイーンエリザベス二世Ｃ １着ウインブライト
2019年 コックスプレート １着リスグラシュー

・温泉
万座温泉ホテル 日進館（白濁）
白骨温泉 泡の湯旅館（白濁で泡付き）
嬉野温泉 嬉泉館（ぬるい源泉）
雲仙 小地獄温泉館（白濁）
阿蘇 地獄温泉 清風荘 (泥湯、足元湧出)
別府 明礬温泉 別府温泉保養ランド (泥湯)
別府 鉄輪温泉 神和苑（青い湯）
七里田温泉 下の湯（ぬるくて泡付き）
霧島 新湯温泉 新燃荘（白濁）
霧島 湯之谷温泉 湯之谷山荘（泡付き）

以上はこの１０年間で初体験し、単純に泉質から気に入った温泉を東から西へ。８件が九州というのが我ながら驚きですが、確かに九州を重点的に回った１０年間でした。すべて源泉掛け流し。阿蘇の清風荘は泥湯の露天が絶品でしたが、あの熊本震災で大打撃を受けてずっと閉館したところ、つい最近再開したとか。頑張ってほしいものです。ちなみに以下は「行けたことへの満足度」を加味して嬉しかった温泉です。
那須湯本温泉 鹿の湯（６つの温度の異なる湯船からなる木造の共同浴場）
那須 北温泉館旅館 （テルマエ１作目ロケ地、天狗の面の風呂で有名）
那須 老松温泉 喜楽旅館（廃墟寸前の建物だが名湯、怒り新党でも取り上げられた）
四万温泉 積善館（重要文化財級の建物内のレトロでお洒落な浴室）
川原湯温泉 山木館（八ッ場ダムのために移動させれてしまった。モモンガが見れたかも）
渋温泉 渋大湯（大きく風情のある共同浴場＋すべて無料の九湯めぐり付き）
地獄谷温泉 後楽館（野猿の入浴で有名な地獄谷で人間用の温泉だが、露天には野猿が大接近）
上諏訪温泉 片倉館（西洋モダンな建物内の玉砂利を敷き詰めた巨大な浴室）
下諏訪温泉 旦過の湯（日本最強レベルの超高温湯。現地人はみんな平気で浸かっているが。。。）
乗鞍高原温泉 せせらぎの湯（名もなく小さな小屋）
新穂高温泉 中崎山荘奥飛騨の湯（リニューアルした名湯。白濁）
熱海温泉 福島屋旅館（時代に取り残された感のある共同湯みたいな名湯）
伊東温泉 東海館（重要文化財級の超立派な建物内の小さな浴室）
琴引浜露天風呂（浜辺で無料開放している露天）
温泉津 小浜温泉才市の湯（ガイドブックに載らない共同湯）
木部谷温泉 松の湯（すぐ近くに間欠泉がある炭酸泉）
別府 梅園温泉（会員制みたいだった共同湯）
長湯温泉 しず香温泉（ガイドブックに載らない共同湯）
霧島 山ん城温泉（山の中に流れる川の中の野湯。最高に開放的だが道路から川岸に行くまでが大変）
開聞温泉 共同浴場（ガイドブックに載らない共同湯、みな床で雑魚寝してた）

ところでアカデミー賞も近づいてきました。今年は予想しようかどうしようかという。現在楽しみにしている映画は今週公開の「フォードvsフェラーリ」と「パラサイト」。さらに「ジョジョ・ラビット」と「１９１７」と「スキャンダル」。「ジュディ 虹の彼方に」と「リチャード・ジュエル」はどうでしょうね。

* [[26](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C26)]
* **2019年ベスト**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年12月31日(火)23時15分29秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C33%5C)

それでは年末恒例の～

・CD
The Who/WHO
Magma/Zess
Brittany Howard/Jaime
KIRINJI/cherish
星野源/POP VIRUS
Esperanza Spalding/12 Little Spells
Flying Lotus/Flamagra
クレイジーケンバンド/PACIFIC
Jeff Lynne's ELO/From Out Of Nowhere
Peter Hammill/Not Yet Not Now

今年購入した新譜CDからのチョイス。年末に出てきたThe Whoの最新作「WHO」が予想をはるかに超える快作で驚きました。「Who Are You」どころか「四重人格」に匹敵するほどの楽曲のクオリティにやられました。ベテランではフランスのMagmaの未完の大曲「Zess」の完全版も凄かった。ベテランではELO, Focus, Steve Hackett, Steve Howe, PH, そしてもちろんRobyn Hitchcock & Andy Partridgeも。流行りものではBrittany Howard, Esperanza Spalding, Flying Lotus, Billie Eilish, Tyler The Creator, Bon Iver, Vampire Weekendなども愛聴。邦楽ではいつものキリンジ、CRB、細野晴臣、竹内まりや、そして昨年末発売だけど星野源。やっぱり「アイデア」は好きだなあ。サントラではRandy Newmanによる「Toy Story 4」と「Marriage Story」、大友良英「いだてん」も忘れられません。

・映画
アベンジャーズ/エンドゲーム(3D IMAX)
スパイダーマン:スパイダーバース(3D IMAX)
ジョーカー
ボーダー 二つの世界
マリッジ・ストーリー
ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド
家族を想うとき
愛がなんだ
ROMA/ローマ
アイリッシュ・マン

劇場で見られた新作映画からのチョイス。結局今年は「エンドゲーム」と「ジョーカー」の年だったと思いました。それぞれヒーロー/ヴィラン映画の最高到達点というか、これからの同系作品は大変なだなと思いました。それに割って入るスパイダーバースも最高の3Dアニメで素晴らしかった。「ボーダー」は「ぼくのエリ」や「ホワイトドッグ」に匹敵する欧州発ファンタジーの傑作。タランティーノとケン・ローチとスコセッシらベテランの新作も堂々たる内容。それにしても１０傑にNETFLIX配給作が３つも入ってくるとは。作品に感服しつつも今後の映画興行はどうなるのだろう。。。次点は「ファースト・マン」「バーニング 劇場版」「帰れない二人」「ファイティング・ファミリー」「ラスト・クリスマス」。邦画では「愛がなんだ」を筆頭に「岬の兄妹」「よこがお」「宮本から君へ」「惡の華」などがインパクトありました。旧作群ですが「ショーン・オブ・ザ・デッド」「ザ・バニシング -消失-」「まぼろしの市街戦」「サタンタンゴ」「この世界の(さらにいくつもの)片隅に」などもいくつか劇場で見られたのも良かったです。

・ドラマ
いだてん
G線上のあなたと私
俺の話は長い
だから私は推しました
スカーレット
やすらぎの刻～道
きのう何食べた？
なつぞら
凪のお暇
日本ボロ宿紀行

NHK4作、TBS系とテレ東系各2作、日テレとテレ朝各2作。偏りましたし世間の人気ドラマ傾向とも乖離しているかと思うけど、正直思い出に残る作品としてはこれらが優先度高。「いだてん」の年でしたよ、くどいですが。そして朝ドラもよるドラもドラマ10も土曜ドラマも含めるとNHKが他局を圧倒しているのは仕方がない。昨日見た「ストレンジャー～上海の芥川龍之介」も素晴らしかったですし。民放ではTBS系が全体にワンランク上。日テレ系とテレ朝系は視聴率的には好調ですがややマンネリ傾向でクオリティ的にピークを越えた感も。フジ系は選外ですが好きな作品もありました。テレ東系は深夜ドラマ重視策が開花した感がありますが、毎曜日に飯テロドラマが放映される現状はさすがにどうかしているかと。次点は「わたし、定時で帰ります。」「フルーツ宅配便」「3年A組 -今から皆さんは、人質です-」「監察医 朝顔」「チャンネルはそのまま！」「スカム」「腐女子、うっかりゲイに告る」「サギデカ」「トクサツガガガ」「シャーロック」「時効警察はじめました」など。

竹内まりやの登場終わりました。達郎いなかったー。でも「いのちの歌」では仕方がないか。それにしてもこの曲が朝ドラ「だんだん」で登場したことが全く触れられないことが不憫。そしてユーミン。こちらはバンドだ！いいなあ、しかも鈴木茂と小原礼がいた。この2人は鎌倉の歐林洞の２階で尾崎亜美とトリオで演奏してたのを見たのは20年以上前ですが、今も素晴らしい。

ではまた2020年に。

* [[25](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C25)]
* **大晦日ですが、2019年10月～12月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年12月31日(火)21時20分13秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C32%5C)

[>>24](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C24)
ぼやぼやしていたら大晦日。紅白歌合戦も始まってしまいました。バーチャルひばりよりもまりや＆達郎に待機。

> 有馬は現在天下無双状態の女傑アーモンドアイと、それに挑む他の１０大ＧⅠホース包囲網との争いという構図ですが、
という訳でアーモンドアイの９着惨敗という競馬場が阿鼻叫喚という結末となってしまった令和元年の有馬記念。私はフィエールマンとアーモンドアイの4歳馬2頭に期待したのだけど、それぞれの同枠馬の5歳リスグラシューと3歳サートゥルナーリアで決まってしまい、アウトでした。一番人気が吹っ飛んだものの、2番人気リス＆3番人気サートゥル＆4番人気ワールドプレミアでワンツースリーでしたから取れた馬券だったのかも。思えば30年前の平成元年の有馬記念も、ほぼ神格化されるぐらいの圧倒的人気だったオグリキャップが5着に敗れ、4番人気イナリワン＆2番人気スーパークリーク＆3番人気サクラホクトオーでワンツースリーだったのだから、今年は平成元年の有馬が繰り返されたのですね。我ながら修行が足りない。また来年頑張ります。

> 有馬はラストラン激走が多いですし。
リスグラシューもラストランＶ。恐れ入りました。

> スターウォーズ関連は例年、年明けの元日にファーストデー鑑賞するのが恒例でしたが、今回は全9部の最終作だし、アーリーレビューの評判も上々だし、早めに見ようかなと。
見ました見ました。これはなんというか、予想範囲内とはいえ前作のうっちゃりを再うっちゃったというか、最後になってパルパティーンとかランドとか急に現れたり、この期に及んで新キャラ投入してフィンがブレブレになったり、まさかロミジュリになるんかと思った終盤とか、いろいろ困ってしまったけど、力技でどうにか終わらせたという感じですのでこれはこれで。ただ同じ年にアベンジャーズが壮絶な幕引きを遂げたことを思うと、薄味ですかね。しかし今年、トイストーリー、アナ雪、スターウォーズを気前よく全部終わらせてしまったディズニー、これからどうするんでしょうか。

あと見たのでは、ケン・ローチ新作の「家族を想うとき」と、3年越しの完全版というべき「この世界の(さらにいくつもの)片隅」は素晴らしかったですね。「家族は～」はケン・ローチの映画でこんなにも重く辛く苦い後味を残したのは記憶にないほど。「片隅」は相当なボリュームアップを経て一層原作に近づけた内容になり、圧倒されます。「ラスト・クリスマス」もラブコメのふりして世界の分断を嘆き、融和と寛容を歌う素晴らしいドラマ。奇しくもクリスマスに亡くなったジョージ・マイケルへのトリビュートとしても申し分ありません。障碍者バスケを扱った「だれもが愛しいチャンピオン」も、不寛容や障碍者への視線のみならず、高齢出産へのリスクなどに触れた踏み込んだ内容で唸りました。あと久々に見た仮面ライダーゼロワンの映画も満足できる内容。新展開を迎える年明けの本編も楽しみ。

では、この秋～冬に見た映画の星取りを。

◎１０月
アド・アストラ ★★★★
惡の華 ★★★★☆
ヘルボーイ ★★★★
ジョーカー ★★★★★
蜂蜜と遠雷 ★★★★
ジョン・ウィック：パラベラム ★★★★
真実 ★★★☆
ボーダー 二つの世界 ★★★★★
スペシャルアクターズ ★★★☆
楽園 ★★★☆

◎１１月
マレフィセント２(吹替) ★★★
ジェミニマン ★★★
T-34 レジェンド・オブ・ウォー ★★★★☆
IT/イット THE END それが見えたら、終わり。(吹替) ★★★★☆
CLIMAX クライマックス ★★★★
ターミネーター：ニュー・フェイト(吹替) ★★★☆
国家が破産する日 ★★★★☆
永遠の門 ゴッホの見た未来 ★★★☆
ひとよ ★★★★
アイリッシュ・マン ★★★★★

◎１２月
アナと雪の女王２(吹替) ★★★★
ゾンビランド：ダブルタップ ★★★★
ドクター・スリープ ★★★★☆
ファイティング・ファミリー ★★★★☆
マリッジ・ストーリー ★★★★★
読まれなかった小説 ★★★★
2人のローマ教皇 ★★★★☆
ラスト・クリスマス ★★★★☆
家族を想うとき ★★★★★
スターウォーズ/スカイウォーカーの夜明け ★★★★
この世界の(さらにいくつもの)片隅に ★★★★★
仮面ライダー 令和 ザ・ファースト・ジェネレーション ★★★☆
だれもが愛しいチャンピオン ★★★★

今年の紅白は例年にも増してカオスだなあ、歌よりもスポーツ色強め(なのにいだてんはほぼスルー)、企画ばかりでどれが本道かわからなくなるし、ディズニーからおしり探偵とか、チコちゃんのドラムとか、はるかカッターとか。「君はともだち」byユカイは、紅白でランディ・ニューマンの曲がかかったのかと思うと胸熱ですが。

ではすぐまた。

* [[24](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C24)]
* **有馬記念＆スターウォーズEP9直前**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年12月19日(木)03時53分48秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C31%5C)

年末も押し迫ってまいりました。激動の令和元年ももう終わり。金やんに和田誠さん、八千草さんに辰ちゃん、吾妻ひでおに木内みどり、中曽根にアンナカリーナらが退場し、ニノさんに壇蜜にイモトに若林が入籍と、いろんなことがありました。そんな中で今年残す所での私の期待は、明日に迫ったスターウォーズの公開と、史上最高に豪華なメンバーとなった日曜の有馬記念。スターウォーズ関連は例年、年明けの元日にファーストデー鑑賞するのが恒例でしたが、今回は全9部の最終作だし、アーリーレビューの評判も上々だし、早めに見ようかなと。有馬は現在天下無双状態の女傑アーモンドアイと、それに挑む他の１０大ＧⅠホース包囲網との争いという構図ですが、こういう時にＧⅠ未勝利のヴェロックスやエタリオウ辺りが激走するのも有馬記念ならでは。前走人気を裏切ったレイデオロも引退レースでアーモンドアイと初対決というのも意外と面白いかも。有馬はラストラン激走が多いですし。あとは紅白歌合戦に突如出演が決まった竹内まりやのバックメンバーとしての山下達郎がどれぐらい見切れるのかが気になっています。

秋ドラマは「グランメゾン東京」と「ミス・ジコチョー」辺りを残してほぼ終了。なにはともあれ先週大団円を迎えた「いだてん」は素晴らしい幕引きで大満足。史実ベースという縛り、しかも(筆が進みすぎ！)と思った箇所がほとんど実話という発見だらけの舞台上で、伏線回収・時空跳躍・入れ子構造(語り部経由ドラマ)などの得意技や趣向をふんだんに凝らしつつも「楽しいの？ 楽しくないの？ オリンピック」(by治五郎)という一本筋は最後まで貫き通したという点で、クドカン最高到達点と行っても過言ではないのでは。本人がタクシー運転してワンダCMの逆転をやったのにはさすがにびっくりしましたが。最後までクドカンの自由を尊重し汲み取ったNHKも偉かったということで。あとは民放の「Ｇ線上のあなたと私」と「俺の話は長い」は最後までよかった。バイオリン三銃士と岸辺家のことは放送後もあれこれ妄想が止まりませんでした。「シャーロック」と「ニッポンノワール」も「あん？」と思いつつ割と無事終了。「まだ結婚できない男」と「時効警察はじめました」もいいムードで終わり、続きは出来そうだけどこの辺で結んでほしい感じも。「おっさんずラブ in the sky」は。。。考えられる限り愚かな展開にもっていく蛮勇ぶりだけは認めます。「同期のサクラ」最終回は未見。予告を見る限り心配だけどどうだったのか。来年もまだまだ続くドラマでは、仕事と夢と恋の狭間でいろいろ心がもてあそばせる展開になってきた「スカーレット」と、劇中主役が橋爪功に交代してからも「悲別」なんて地名が飛び出してきて気が休まるところのない「やすらぎの刻～道」は依然楽しみ。あと令和ライダー第1号となった「仮面ライダーゼロワン」が久しぶりの快作で、まだ1/3しか経過してないのにもう最終回か？と思うほどの展開の速さと毎回の盛り上がりで、相当期待出来そうです。

映画は長時間作品とNETFLIX劇場公開作に振り回されて追従に精一杯。来年からは本当に劇場鑑賞ペースを落とそうと思います。などいってる間に馴染みの映画館が閉館したら困るけど。長時間ものでは「ドクター・スリープ」「読まれなかった小説」、NETFLIXものでは「マリッジ・ストーリー」「2人のローマ教皇」など。「ドクター～」は期待以上の娯楽作で、キングにもキューブリックにも仁義を切るという離れ業で凄い落とし前をつけてくれました。これならオーバールックホテルへの帰還も納得です。「読まれ～」は「雪の轍」に続けてベルイマン級にとげとげしい会話劇に参りつつも全く退屈せず。今年はこうした生き辛い人間のドラマをよく見る年だとも思ったり。NETFLIXの2作はバームバックとメイレレスだから当然なのだけど、めちゃくちゃ良かった。普通に「アイリッシュマン」ともどもオスカー戦線の主役を張れるだけのリッチ＆ハイクオリティぶりで、これだけの作品を作られると本当にミニシアターで上映できるものが減って行ってしまいそうと却って心が暗くなったり。あとはそれぞれ人気作のなかなか意欲的な続編だった「アナと雪の女王２」と「ゾンビランド：ダブルタップ」に、ベトナムの時代劇「第三夫人と髪飾り」、そしてWWEの名女性レスラーの自伝に基づく「ファイティング・ファミリー」も快作でした。

* [[23](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C23)]
* **いよいよ寒くなってきました（今年もあとひと月チョイ）**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年11月28日(木)03時00分25秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C30%5C)

先月今月はいろいろ忙しくて、実は出雲・伊勢・熊野とお参りしまくりました。なぜだか皇室行事とか大学駅伝やハーフマラソンとかと近い時期だったこともあったのか、大賑わいの中での参拝でした。今年は「己亥」という60年の結びの年で、来年は「甲子」とまた新たな60年の始まりの年。いずれも生涯で一回だけの年なので、人生の集大成という気持ちでいろいろとお祈りや願掛けをしたりしましたです。個人的にも大変な一年だったので、来年には心機一転と行きたいものです。

競馬はジャパンＣも終わり、今年もあとは有馬記念ぐらいだね、という感じですが、その前に二週間後に香港国際競走があるのです。アーモンドアイ、ラッキーライラック、インディチャンプ等、有馬に出ない強豪はみんなこちらに向かう訳ですが、今年の香港情勢から本当に出走して良い物なのかどうか結構心配。デモも大変ですけど、こちらもどうか無事で。

テレビドラマは今年最高クールという感じで、なにはともあれ「スカーレット」と「いだてん」ですね。スカーレットは確かに家族の救いようのなさとか次々と訪れる試練などヘビーな印象が強いのですが、喜美子が心に託す希望に寄り添いつつ見入ってしまいます。ここへ来ての退場者続出で視聴者を軽く振り落とそうとするいだてんのラストスパートも目が離せません。そして民放では「G線上とあなたと私」「シャーロック」「俺の話は長い」が俄然楽しみという予想外な状況。いずれも脚本が光るドラマで、まあ新たな巨匠の座をものにした安達奈緒子と抜群の安定感を誇る井上由美子は当然ながら、金子茂樹の躍進には目を見張るものが。これほど緻密だけど飽きさせない会話劇のドラマも久しぶりと思いました。もちろん「時効警察はじめました」「グランメゾン東京」「同期のサクラ」「ミス・ジコチョー」も良い感じ。ところでシャーロック＆ジコチョー＆相棒とホームズっぽいドラマが被るのは偶然か(時効警察もかな)。方や結婚できない男＆俺の話は長い＆グランメゾンと素直じゃない上に面倒くさい男の話もなぜか被りましたね。

映画は話題作だらけの中からなんとか時間を見繕って見に行ってます。メガヒット系では「マレフィセント２」「ジェミニマン」「イット・チャプター２」「ターミネーター：ニュー・フェイト」など、どれも面白かったです。ただターミネーターは「１」「２」の二番三番煎じを厭わない潔さには感服しつつ、それでも「２」のファンは怒るよなあとは思いました。「最後のジェダイ」や「ブレードランナー2049」もそうでしたが、旧作メンバーを確保したとしても引き継ぎは難儀だよなあと痛感。ミニシアター系では「永遠の門 ゴッホの見た未来」「CLIMAX クライマックス」「T-34 レジェント・オブ・ウォー」「国家が破産する日」「第三夫人と髪飾り」などを堪能。

でもそれらを差し押さえての今月のハイライトは、NETFLIXが劇場公開を敢行してくれた3時間半のスコセッシ最新作「アイリッシュマン」。デニーロ、ペシ、カイテル、音楽にロビー・ロバートソンという盟友たちを従えて、さらにアル・パチーノを投入するというスコセッシの集大成ともいうべき強力布陣なのに配給はNETFLIXという複雑な気持ちにさせる映画。ジミー・ホッファ事件をネタに老境版「グッドフェローズ」をやるのかなという予感はある程度は当たったものの、後半からは急に「ディパーテッド」っぽくなり、最終的には「沈黙」に近づくという、集大成どころか遺言状では、という読後感に。でもデニーロとパチーノが一緒に映るシーンを大画面で見ると感無量で、やっぱり「ROMA」に続いてNETFLIX様ありがとうと素直に喜んでしまいます。

「イット２」に続いて今週は大魔王原作映画「ドクター・スリープ」が控えてますが、本当に「シャイニング」続編やるのかよ(ダニーはあのホテルに戻るなんて正気かー、なんて)と不安を憶えつつも楽しみにしてます。しかし今年はこれまた「ターミネーター」「ハロウィン」同様に気の長い続編が作られる年です。どうしても人気作の心残りの落とし前をつけたいと思うのが人間なんですかね、

音楽では主にGentle Giant, Camel, Jethro Tull, Gong, Focus, PFM, UK, Steve Hackett, Steve Hillage, Druidといった面々を(相も変わらず)愛聴してますが、新譜をいろいろ聞いてます。最近ではAlabama ShakesのBrittany Howardのソロが素晴らしいですね。穏やかでポップながらも強靭な最新型R&B。Kirinjiの新作も刺激的。前々作には「黄金の舟」という曲があったけど(ゴールドシップ！)、今回は「Almond Eyes」という曲があるのには思わず微笑。あと少し前に出た竹内まりやの三枚組は『Longtime Favorites』の続編というべき洋楽カバー集となった3枚目ばっかり聞いてます。クリスタル・ゲイル「瞳のささやき」とシルバー「ミュージシャン」のカバーには懐かしさも相まって、思わず泣きました。

* [[22](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C22)]
* **もうハロウィーン直前**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年10月30日(水)23時55分40秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C29%5C)

[>>21](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C21)
> もう10月ですか！

そしてもう11月ですね。この間は即位礼正殿の儀に、ラグビーＷ杯、秋華賞＆菊花賞＆天皇賞、そして台風19号と、21号起因の大雨などがありましたが、関西は特に大きな被害はありませんでしたが、家族や友人の居る関東方面は心配でした。毎年こういうことで肝を冷やすかと思うと先々暗澹たる思いです。

明日はハロウィン。そういえば今年はカーペンターの「ハロウィン」の正統な？続編がありましたが見逃してました。ジェイミー・リー・カーティスも健在で、今度の「ターミネーター」のリンダ・ハミルトンともども頼もしい限りです。

> タワーオブロンドンの雄姿（カタカナ表記がなんとも）写真をありがとうございます。名前からまず応援したい気がむくむくとわいてきますね。

本当にそうです。いつかＧ１を勝ってほしいなー、とずっと願っていたので嬉しい限りです。
ちなみに馬主は海外の超大物のゴドルフィン(UAEドバイの王族の団体)で、馬名は父"Raven's Pass"(ワタリガラスの通り道)からの連想で、ワタリガラスを飼うしきたりのロンドン塔に因んだとの事。洒落てますね。

> さてBurning Shedから次々にCDが届くので今年はウキウキです。TC&IのNaked Frames、Robyn Hitchcock & Andy Partridge のPlanet England、先日発送通知がきたXTC as The Dukes Of Stratosphear のPSURROUND PSOUND！

Planet Englandは先日ようやく入手しました。これはここ数年のAndy音源の中でもかなりのお気に入りです。結構久しぶりに聴いたRobyn Hitchcockの声も若々しくてなにより。そういえば(まだ未見ですが)「イエスタデイ」という映画ではBeatlesの居ない世界を描いてるそうで、真っ当に考えたらそれはポピュラー音楽産業が成立しない世界になっていないかと思ったものの、21世紀でもこういう音楽が作られていることを考慮すれば、別の音楽家がその穴を勝手に埋めるだけじゃないかな、とも。XTCもRobynもBeatlesだけで出来る訳じゃないですからね。

さて、秋クールのドラマもほとんどが一巡しましたが、今クールも充実してますね。新朝ドラ「スカーレット」は確かに「カーネーション」直系のBKお仕事ドラマ。BKの実話系朝ドラは近年は終盤失速する印象があるのですが今度はかなり期待できそう。民放ではまったくブレのない「時効警察はじめました」にまず感動。向井理の回で「本陣」ネタなどを無理矢理組み入れたのは福田雄一(「33分探偵」とか)の趣味？逆に「まだ結婚できない男」は塚本高史と棟梁以外を一新し過ぎて、寂しいのなんの。中傷ブロガーやっくんの正体は、デビッド伊東と思わせておいてコンビニの中年店員辺りを予想。

ディーン版「シャーロック」は「モンテ・クリスト伯」「レ・ミゼラブル」パターンの現代意訳物ですが、井上由美子脚本の手堅さが上回った感。そう思うと「未解決の女」に共通する感じも。キムタク「グランメゾン東京」は下ロケ＆陸王テーストの「二つ星の料理人」てな見かけですが後味は割と爽やか。遊川の「同期のサクラ」はお得意の「十年愛」スタイルですが「幸福の王子」と同じく主人公の意識不明から開始、というのがなあ。サクラは少しずつ何かを与えて失っていくのだろうか。。。

他に良かったのは「ミス・ジコチョー」「俺の話は長い」「Ｇ線上のあなたと私」「モトカレマニア」ですね。深夜ドラマはちょっと多すぎて追従が困難になってきました。特にテレビ大阪は全曜日に飯テロ深夜ドラマを放映中。流石にやり過ぎ。

映画も全部のフォローは困難で積み残しだらけですが、期待の「ジョーカー」(スコセッシ＆デパルマ＆フィンチャーを正しく継承)と「ボーダー 二つの世界」(獣人もの？と予想してたらそれどころではすみませんでした)には特にやられました。洋画では「アド・アストラ」「ジョン・ウィック：パラベラム」「ヘルボーイ」、邦画では「宮本から君へ」「惡の華」「楽園」などなど殺伐とした映画ばかりを堪能。「蜜蜂と遠雷」「スペシャルアクターズ」も良かったですが。あとフランスでも是枝流を貫いた「真実」も(樹木希林の穴はドヌーヴでも埋められないと思いつつも)納得です。

* [[21](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C21)]
* **台風一過**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年10月17日(木)07時43分7秒
* FL1-27-127-69-95.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C28%5C)

ｗさん、こんにちは。
もう10月ですか！当マンションただいま絶賛大規模修繕中につき足場にネットを張られ季節感もへったくれもありませんが元気にしています。
タワーオブロンドンの雄姿（カタカナ表記がなんとも）写真をありがとうございます。名前からまず応援したい気がむくむくとわいてきますね。台風19号のさなかにも淀もとい京都競馬場は決行したそうで（批判の声はあがったようですが）、元気だなあ。

「なつぞら」終わっちゃいましたね。中川大志はウッチャンの「LIFE」レギュラーでもあるので、役柄のギャップを楽しみつつ、先日は広瀬すずまで出演してのコントを披露していました。続く「スカーレット」は子役の目力がすばらしく、「カーネーション」の流れをくむ傑作の予感がします。羽野晶紀の軽妙な演技と大久保さん役の三林京子の存在感がたまりません。毎朝は観られませんが楽しみにしています。

「いだてん」の森山未來、「そこに俺の家があるんだ、帰りてえんだ」は脚本にないセリフだそうで、オープニングもこの回だけ勝の運命を暗示するかのように足袋が爆風（銃撃？）で散り散りに飛ばされる映像を特別に差し替えたとか。録画していたので確認して絶句しました。

さてBurning Shedから次々にCDが届くので今年はウキウキです。TC&IのNaked Frames、Robyn Hitchcock & Andy Partridge のPlanet England、先日発送通知がきたXTC as The Dukes Of Stratosphear のPSURROUND PSOUND！
（私たちはすでに知る曲ばかりではありますが、今回重量盤アナログリイシューもあり、新しいファンを獲得できればいいですね）

* [[20](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C20)]
* **訂正＆補足、そして2019年7月～9月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年10月 1日(火)06時00分13秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C27%5C)

[>>19](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C19)
> そして(かつてのA子、奈津、ユキ、はつ等の)裏ヒロインとしてもう一つの人生を提示した千遥の存在が大きく、

ユキやのうてユイ！打ち間違えすみません。
# ちなみに、Ａ子＝清海(ちりとてちん：佐藤めぐみ)、奈津(カーネーション：栗山千明→江波杏子)、ユイ(あまちゃん：橋本愛)、はつ(あさが来た：宮崎あおい)。

と打ち直して気が付きましたが、「なつぞら」で裏ヒロイン役を担ったのは千遥に限らず、なつとは対照的な人生を自ら選んだ有見子もそうだし、麻子も茜もそうかも。そう考えると「なつぞら」は上記の作品群とか「ひよっこ」とかと比較するとよりマルチヒロイン色が強く、それは大森寿美男が前に手がけ、四姉妹＋母を均等に描こうとした「てるてる家族」と同じパターンだったのかと思い当たりました。そう考えると、順調ななつの人生と対比される、そうとも言えない女性たちのドラマも並行して汲みあげたい、という意図が最初からあったかもしれませんね。

> 深夜ドラマでは「泣くな、はらちゃん」「スターマン」に続く"異世界から来た彼氏系"岡田ドラマ「セミオトコ」と、「GIVER」に続いて小林勇貴がテレビ界に殴り込みをかけた「スカム」と、志尊淳のダークサイド全開の「潤一」が特に印象的。

そういえばテレビ大阪(＝テレ東系)の深夜枠は「Iターン」「サ道」「まどろみバーメイド」「焼肉プロレス」などなど凄まじい物量投入でしたが、過去１年ぐらいの神憑り的な面白さに比べると、今回はあまりハマるものがありませんでした。さすがに質のキープは難しいのか。秋は超安全株の「孤独のグルメ」が控えてますが。

> 次クールもいろいろ楽しみですが「結婚できない男」と「時効警察」の復活は喜んでいいのか、こんなに寝かせなくてもというべきか。昨日の「時効警察」の復活第０作?は面白かったですが。「相棒」と「ドクターX」もどうなるんでしょ。

そういえば「おっさんずラブ」のパート２も今秋にやるんですね。映画は完全に蛇足でしかなかったし、続編なんて無理じゃね？と思ったら田中圭と吉田鋼太郎の他は配役も舞台も設定も一新。ただ劇場版でも黒沢部長を記憶喪失にさせる→もう一度春田に恋心を抱かせるという展開にしたことからも、結局この作品をお化けドラマへとドライブさせていたのは萌える吉田鋼太郎だったのは明らかだったので、仕方ないかなあという感慨も。

> 映画はまた別途。タランティーノ、ジャ・ジャンクー、劇場版「宮本から君へ」、そして７時間超えの「サタンタンゴ」が物凄かったです。

という訳で、７月～９月に劇場で見た映画の星取り表を。結構見ましたががそれでも追い付かず、メジャー系でも「アド・アトラス」「ヘルボーイ」「ホテル・ムンバイ」「記憶にございません」「見えない目撃者」など見れるのかどうか。今月は「ジョーカー」と「ジョン・ウィック：パラべラム」もあるし。長時間映画は多いし。さらに消費税増税で観賞料金の値上げ必至だし。Ｇ１戦線も本格化するし。いやはやどうなりますか。

◎７月
ザ・ファブル　★★★☆
新聞記者　★★★
アマンダと僕　★★★★
ゴールデン・リバー　★★★★
Girl ガール　★★★★
トイ・ストーリー４　★★★★☆
さらば愛しきアウトロー　★★★★
ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス　★★★★☆
ワイルドライフ　★★★☆

◎８月
天気の子　★★★★☆
ペット2(吹替)　★★★
アルキメデスの大戦　★★★★
よこがお　★★★★☆
ワイルド･スピード SUPER COMBO(吹替)　★★★☆
存在のない子供たち　★★★★
工作 黒金星と呼ばれた男　★★★★☆
ドッグマン　★★★★
ロケットマン　★★★★
劇場版おっさんずラブ LOVE or DEAD　★★

◎９月
ライオン・キング(吹替)　★★★☆
ブラインドスポッティング　★★★★
カーマイン・ストリート・ギター　★★★★☆
ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド　★★★★★
火口のふたり　★★★☆
かぐや様は告らせたい～天才たちの恋愛　★★★
タロウのバカ　★★★★
アス　★★★★
プライベート・ウォー　★★★★
帰れない二人　★★★★☆
エイス・グレード 世界でいちばんクールな私へ　★★★★
宮本から君へ　★★★★☆
サタンタンゴ 4Kデジタル・レストア版　★★★★★

* [[19](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C19)]
* **タワーオブロンドン、遂にＧ１制覇！**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 9月30日(月)06時10分47秒
* p1708052-ipngn201006kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C26%5C)

[>>18](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C18)
> この馬が出走する度に応援馬券を購入してましたが、これでG2を3勝目で、G3は1勝。いよいよG1を勝つ日が近づいたと言いたいところですが、どうもG1になると弱いのですよね。今月末のG1スプリンターズSを応援すると思うけど、勝てそうなのは年末のG2阪神Cぐらいかな～。

などと気弱なことを書いていましたが、スプリンターズSを勝ってしまいました。２年間でしたがずっと応援し続けて来て、ようやく報われた思いがします。ありがとう、タワーオブロンドン。今後の活躍も期待します。

いよいよ９月も終わり、テレビドラマ的には明後日から秋クールがスタート。朝ドラは今日から。さて、先日終わった「なつぞら」ですが、最終週でハイジならぬ"大草原の少女ソラ"の完成を見て、当初の見立て通りの最終点に到達したことを見届けることができ、まずは一安心。「三千里」と「火垂る」の制作予定にも微笑。イケメン大量投入に、歴代レジェンドヒロインの集結、TEAM NACS全員集合、架空アニメの作り込み("魔界の番長"には笑った)などなど、見所が満載でしたが、はやり「十勝」に辿りついた「戦争孤児」のドラマという軸が肝だったと思われ、そういう点では泰樹役に草刈正雄を配した時点で成功した思いました。そして(かつてのA子、奈津、ユキ、はつ等の)裏ヒロインとしてもう一つの人生を提示した千遥の存在が大きく、最終週で泰樹と千遥がハグしあうシーンには救われた思いがしました。いろいろ盛り込みすぎかなと思いますが、総合的には満足いく朝ドラだったです。最後の「朝ドラよ、101回目に続けよ」には参りましたが。

他のドラマの感想は全然書いてませんが、夏クールは前２クールよりも充実してた感があります。やはり今回もNHKが突出してて「いだてん」「だから私は推しました」「これは経理で落ちません」「サギデカ」「小吉の女房」「ピュア」「マンゴーの樹の下で」と他を圧倒。民放では「凪のお暇」「監察医朝顔」「ノーサイドゲーム」は良かったですし、飛び道具的なドラマの「あなたの番です」「ルパンの娘」「Heaven？」「サイン」「ボイス」「Two Weeks」「わたし旦那をシェアしてた」も楽しみました。深夜ドラマでは「泣くな、はらちゃん」「スターマン」に続く"異世界から来た彼氏系"岡田ドラマ「セミオトコ」と、「GIVER」に続いて小林勇貴がテレビ界に殴り込みをかけた「スカム」と、志尊淳のダークサイド全開の「潤一」が特に印象的。なお「刑事７人」「科捜研の女」「警視庁ゼロ係」の無理矢理ぶりにはさすがに仰天。刑事ドラマってこんな何でもありだっけ？

次クールもいろいろ楽しみですが「結婚できない男」と「時効警察」の復活は喜んでいいのか、こんなに寝かせなくてもというべきか。昨日の「時効警察」の復活第０作?は面白かったですが。「相棒」と「ドクターX」もどうなるんでしょ。

映画はまた別途。タランティーノ、ジャ・ジャンクー、劇場版「宮本から君へ」、そして７時間超えの「サタンタンゴ」が物凄かったです。

* [[18](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C18)]
* **タワーオブロンドン快勝！**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 9月 9日(月)04時45分49秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C25%5C)

日曜のG2セントウルSに出走するタワーオブロンドンを応援のため、阪神競馬場で現地観戦してきました。
この夏は函館スプリントSで３着、札幌のキーンランドCで2着と惜敗続きでしたので、今度は確勝と期待していましたが、2着に3馬身の差をつける圧勝劇でレコード勝ちのおまけ付き。目の前で勝利を目撃できたのは、去年の同じ阪神競馬場のG3アーリントンCに続き2度目。
この馬が出走する度に応援馬券を購入してましたが、これでG2を3勝目で、G3は1勝。いよいよG1を勝つ日が近づいたと言いたいところですが、どうもG1になると弱いのですよね。今月末のG1スプリンターズSを応援すると思うけど、勝てそうなのは年末のG2阪神Cぐらいかな～。
# XTCとは実際は関係ない馬名だと思いつつも、「タワー"ズ"～」だと10文字で日本競馬の馬名制限(上限片仮名9文字)にひっかかるので、勝手に(脳内で)同等扱いしちゃってます。

ところで、履正社の横綱級Vで終わった高校野球ですが、予選では大船渡高校の佐々木投手温存敗戦が物議をかもしましたけど、同じ日に佐々木・奥川と並ぶ「高校ビッグ４」のエース及川を擁する横浜高校が神奈川県予選の準々決勝で敗退したのも大きな驚きでした。そこを破った県立相模原ですが、ここの通称は「県相」すなわち「ケンソー」。ということであの名バンドKENSOの清水義央さんの母校でもありました。この時は一瞬、「このまま神奈川県代表になったら、KENSOの名が全国に響き渡るのでは！」と大いに夢を見ましたです。次の東海大相模戦ではコテンパンにやられましたけど。しかし愛知県代表の誉高校とか、無名校が甲子園にでると大概すぐに消えてしまうので、いかんともしがたいな、とも。







* [[17](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C17)]
* **夏もようやくおわるのでしょうか (Re: 暑いですがなんとか)**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 8月22日(木)02時37分34秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C24%5C)

[>>16](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C16)
> 熱中症にもやられずに生きております。

ほんまに暑い夏でした。先月の梅雨時までは「今年は猛暑はなさそう」などと軽く舐めたりしていたのでその反動も大きかったです。そしてお盆の帰省中には台風で大雨になったりして、まるで「天気の子」とシンクロするかのような気象状況に振り回される日本。

でもそんな台風のおかげ？で帰路は渋滞のなく比較的楽な行程でした。話題の佐野SA上りにも寄りました。まるで廃墟のような有様でしたが、別会社が営業中の佐野SA下りには階段を降りたら行けるので、お土産を買う段では特に不便もなく。しかしシーズン一番の書き入れ時にスト決行とは勇気ありましたな。

> しばらくCDも買わないでおこうと思ったらTC&IのライブアルバムとAndy Partridge＆Robyn HitchcockのコラボEPが立て続けにリリースの運びとなり、あたふたとしております。

これは良いお知らせですね。Blegvadとのコラボを思い出してしまう良さげな共演。最近のAPはフロイドとかのカバーEPCDとかモンキーズのクリスマスCDとか、まぁ回顧志向ですけど、ストレートかつ朗らかで楽しそうなところが良い感じです。今度も楽しみですね。

> 去年ようやく日本劇場初公開となったロブ・ライナー監督作This Is Spinal Tap、北米盤のDVD（英語字幕すらなし）で観た時には細かいところがまったくわからなかったのですが、やっと日本盤が出たので内容がつかめました。

これは去年の公開終了寸前に慌てて映画館で見られました。客が数人のミニシアターでの鑑賞でしたが、そんなこととは無関係に感動しましたです。場内ではロックバンドあるあるも結構受けてました。そして小規模公開ながらもきちんとパンフレットも作ってくれたのも素晴らしかった。このところ「早春」とか「恐怖の報酬 オリジナル完全版」「ザ・バニシング-消失-」「まぼろしの市街戦」とか、旧作の気合の入った復刻上映が続いて嬉しいです。

映画はこの夏もいろいろ見ましたが、めちゃくちゃ見過ぎた初夏の反動でペースダウン。人気作では「ザ・ファブル」「新聞記者」「トイ・ストーリー４」「天気の子」「アルキメデスの大戦」「ペット２」とか、話題作では「アマンダと僕」「ガール」「ゴールデン・リバー」「さらば愛しきアウトロー」「ワイルドライフ」「存在のない子供たち」、そして巨匠ワイズマンの200分超え作品「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」など。しかし今回最もやられたのは深田晃司の「よこがお」。最近のユペールやランプリングの主演作映画に近い匂いがするというか、図らずも自ら不幸を手繰り寄せてしまう人間のやりきれなさを強く感じてしまったり。横断歩道へと２人で走る中盤のスローモーションには、前作「淵に立つ」で浅野忠信が赤いシャツを露わにしたシーンを彷彿させ、ここで悲劇への号砲が鳴ったのだな、と思わず震えが来てしまったです。

この夏の残りにどうにかして見たいと思うのは「ドッグマン」とタランティーノ新作。「凪のお暇」でも脇役ながら強い存在感を示す瀧内公美の「火口のふたり」も期待。エルトンの伝記映画ははやりバーニー・トーピンとの友情物語がメインなのでしょうか。

さて明日は甲子園決勝。今年のセンバツの初日に目撃した奥川の星稜VS履正社と同じ組み合わせとは。今年の夏大会はこの２校プラス習志野と東海大相模が優勝候補と見てたのですが、後者の関東勢２校が早々に消えてしまったのにはびっくり。というか毎年力を発揮する関東勢＆東北勢が準々決勝で全滅したのはかなり意外。ちなみに今回は先日の日曜日最後の履正社7-3関東一だけ現地観戦(一試合前の星稜戦は奥川投手を温存してると知り、ブラストワンピースが勝った札幌記念の方を見てましたw)。「西部警察」と「男の勲章」が立て続けに流れるの関東一高のブラバンはまいど素晴らしいw。履正社も大阪桐蔭で有名な「君の瞳に恋してる」とかバンプ「天体観測」とかチャレンジャブルな選曲で好印象。テレビ鑑賞ブラバンでは智弁和歌山と習志野も相変わらずよかったですね。

* [[16](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C16)]
* **暑いですがなんとか**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年 8月 7日(水)13時20分42秒
* FL1-27-127-69-95.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C23%5C)

熱中症にもやられずに生きております。
しばらくCDも買わないでおこうと思ったらTC&IのライブアルバムとAndy Partridge＆Robyn HitchcockのコラボEPが立て続けにリリースの運びとなり、あたふたとしております。Partridge／Hitchcockって仲がいいし確かMartin Newellに曲を提供していたのでこれが初めての共作というのが嘘のような話ですが、二人とも60年代サイケデリックやSyd Barretが大好きとあっては仕上がりが楽しみですね。

去年ようやく日本劇場初公開となったロブ・ライナー監督作This Is Spinal Tap、北米盤のDVD（英語字幕すらなし）で観た時には細かいところがまったくわからなかったのですが、やっと日本盤が出たので内容がつかめました。主演3人はナショナル・ランプーン～SNLレギュラー陣のコメディアンですが演奏上手い上手い、ということでOSTから再結成、再々結成アルバムまで聴いて満足です。
映画は60年代からしぶとく音楽性を変えながら生き延びてきた老舗UKバンドの（起死回生）全米ツアーの架空ドキュメンタリーで、ロックバンドあるあるの悲惨なエピソードをまじえツアー途中からのバンド分裂騒動まで盛りだくさんな内容で何度も観直しては同じところで笑ってしまいました。

* [[15](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C15)]
* **2019年5月～6月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 7月 9日(火)04時42分30秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C22%5C)

[>>12](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C12)
> 今週の安田記念はさすがに堅いと思うけど、アーモンドアイ＆ダノンプレミアム以外で決まったりしたらどうなるのでしょう。。

いやはや、グランアレグリアやサートゥルナーリアの後を追うかのように、この２頭までも完敗とは想像できず(３着と最下位)。去年はＧ１毎に勝ち馬が変わる混戦状態の中、アーモンドアイだけは全戦全勝の一人勝ちを続けてましたが、今年はそのアーモンドアイまでも土が付くという有様。本当に今年は更なる大混戦模様で、すなわち闘う価値がある年です(^^)。

その学習効果もあってか、６月末の宝塚記念では、人気を分けたキセキとレイデオロを差し置いて、香港で実績を上げてきた紅一点のリスグラシューを本命にして的中。これでここ５年間で、ラブリーデイ、サトノクラウン、ミッキーロケットに続いて本命視した馬が４勝目。このレースだけは不思議と得意というか、「宝塚記念の神が降りてきている」みたいな感覚です。来年も降りてきて欲しい！

映画は、先月は話題作豊富で相当数見ました。

エンタメ方面では、まさかの平成国産特撮まんまのオマージュぶりに魂消た「ゴジラKOM」に始まり、楽しい地獄巡り話から「記憶を手繰るミステリー(※１)」へと舵を切った「神と共に」二部作、アニメ版に大筋沿ったプロットながらもロマンス描写よりもバトルとマサラ調に力が入るガイリッチ―らしさに微笑んでしまう実写版「アラジン」、ハッピーすぎる冒頭からの落差と本来の自分を取り戻す際の苦みが意外と沁みた「きみと、波にのれたら」、期待とは大きく外れる幕切れながらサイクロップスとナイトクローラーの頑張りだけは素直に喜んだ「X-MEN」最終作、それは対照的に、「エンドゲーム」の余韻まだ醒めやらぬ状態ながらも、MCUフェーズ3完結作に相応しいだけのヒーロー覚醒劇として祝福祝したいほどの「スパイダーマンFFM」など。

ミニシアター方面では、事前に「ビリーヴ」を見たことが理解と共感と尊敬に繋がって大いに良かったと思う「RBG」、スペインが舞台でもファルハディ印の家庭崩壊/階級差/巻き添え/結末の明暗と取り返しのつかなさが満載の「誰もがそれを知っている」、トリアーの嫌がらせ作品というよりも「ニンフォマニアック」と同じく際限なき自己言及劇に苦笑が止まらない「ハウス・ジャック・ビルト」、「ライムライト」的な悲哀に彩られつつも男たちの別れとして爽やかな後味を残す「僕たちのラストステージ」、劇団内の閉鎖的な人間模様をトリガーとしつつ(※２)「イーダ」に続けてモノクロームと音楽と自由と迫害と信仰で近代ポーランドを串刺しにしようとした「COLD WAR」など。

邦画実写も「長いお別れ」「町田くんの世界」「旅のおわり 世界のはじまり」と期待の作家の新作が集中し、それぞれ楽しみましたが、最も強いインパクトを残したのは、二か月遅れでようやく見ることができた「愛がなんだ」。ここ数年は「彼女がその名を知らない鳥たち」「勝手にふるえてろ」「寝ても覚めても」と一筋縄ではいかない恋愛映画が多く作られていますが、それら以上に心を撃ち抜かれるものがありました。ラストシーンにはほとんど狂気寸前というか、恋愛感情の一つの極北を見た思いがしました。突然、80年代後半の小泉今日子の余り知られてない楽曲(※３)まで思い出しましたです。

※１ 今年の映画だと「キャプテンマーベル」「名探偵ピカチュウ」もそうでした。
※２ 今年の映画だと「サスペリア」「芳華 Youth」もそうでした。
※３ サビの歌詞や曲名から内容が連想されると思うので、銀色夏生作曲、福岡ユタカ作曲、とだけ記しておきます。

では、５月～６月に劇場で見た映画の星取り表を。

◎５月
アベンジャーズ/エンドゲーム(3D IMAX)　★★★★★
幸福なラザロ　★★★★☆
名探偵ピカチュウ(吹替)　★★★☆
ドント・ウォーリー　★★★☆
芳華 Youth　★★★★☆
コンフィデンスマンJP ロマンス編　★★★
アメリカン・アニマルズ　★★★★

◎６月
RBG 最強の58才　★★★★
神と共に 第一章：罪と罰　★★★★
ゴジラ/キング・オブ・モンスターズ　★★★★
長いお別れ　★★★★
誰もがそれを知っている　★★★☆
アラジン　★★★☆
町田くんの世界　★★★☆
愛がなんだ　★★★★★
旅のおわり 世界のはじまり　★★★☆
ハウス・ジャック・ビルト　★★★☆
僕たちのラストステージ　★★★★
きみと、波にのれたら　★★★★
X-MEN ダーク・フェニックス　★★★
スパイダーマン：ファー・フロム・ホーム(吹替)　★★★★☆
COLD WAR あの歌、2つの心　★★★★☆
神と共に 第二章：因と縁　★★★★

上半期のベストはこんな感じです。

1. アベンジャーズ/エンドゲーム(3D IMAX)
2. スパイダーマン：スパイダーバース(3D IMAX)
3. 愛がなんだ
4. ファースト・マン
5. ROMA/ローマ
6. バーニング 劇場版
7. スパイダーマン：ファー・フロム・ホーム
8. 芳華 Youth
9. ビール・ストリートの恋人たち
10. たちあがる女

* [[14](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C14)]
* **Re: VDGG新譜の噂**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 6月20日(木)00時57分11秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C21%5C)

[>>13](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C13)

おそくなりました^^

> BOX3発コンプリートされましたか！

はい。一応エビデンスとして画像も(笑)。

長らくNYNNモードでしたがようやく落ち着いてきました。それにいくらでも聞き続けられるというか、他に何も聞かなくなるというか、それでもおなか一杯にはならないというか。'La Rossa'とか'The Lie'とか'Lizard Play'とか'Crying Wolf'とか、もう堪らないものがあります。

> 私はThe Aerosol Grey Machine: 50th Anniversary Edition だけはさすがにパスせぜるを得ませんでしたが、やはりNYNNだけで手一杯です。

"Aerosol"はこれぞ超弩級のコレクターズアイテムで、CD2枚+LP1枚+シングル1枚の大迫力。実物大の没ジャケットが実にサイケでお洒落。ご存知の通り、1969年モノらしくプログレなのかサイケなのかフォークなのか未分化で手探りの音像と演奏ですが、やっぱりPHの声が既に仕上がっているお蔭で濃厚な味わいがあり、手元に置けて良かったとしみじみ思える一品です。ただこの先もしも"Fool's Mate"とか"The Least"以降とか順次50周年記念盤を出されたら、と考えたら震えが。。。

> 来年VdGGの新譜も「出したいと思っている」「が未来のことはどうなるかわからない」とあいかわらずのはぐらかしようで、ちょっと楽しみですね。

楽しみすぎます。正座してお待ちします。

> Complicated Gameの共著者の方によると静かな日々を取り戻し、本来の音楽制作のほうに忙しいそうです。このへんはFacebookのファングループの投稿より。

おお、そういえば去年のカバーシングル以来でしょうか。カバー集でも良いので"Powers"以来のまとまったリリースを期待したいです。
VdGGの50周年と比べると、XTC史視点では、"Apple Venus Vol.1"から20周年、"Oranges & Lemons"から30周年、"Drums & Wires"から40周年なのだから、何か動きがあるといいのですが。
Steven Wilsonのリミックスシリーズの続きも待たれます。次は何かな。

さあこれでようやくFlying Lotusの新譜を聞こうという意欲が湧いてきました。28曲入りとこれまた超弩級ですが。でも久々にタワレコに行くとUK "Night After Night"完全盤とかToddの再結成UTOPIAのライブ盤とか、散財の誘惑アイテムが多々。あとMOJOの最新号がKCのスペシャルCD入りと聞きましたが売り切れなのか未入荷なのかどこにもなし。同2月号付録のネオアココンピのCD(Prefab Sprout, Fantastic Something, そしてScritti Polittiの各1stシングルが入ってるのが良い感じ)はなかなか良かったので、KCのもチャンスがあれば手に入れたいところです。

連ドラと映画と競馬ネタはまた別途。







* [[13](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C13)]
* **VDGG新譜の噂**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年 6月10日(月)14時37分13秒
* FL1-111-168-204-91.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C20%5C)

ｗさん、こんにちは。
GWというか令和初日は日帰り弾丸で宝塚の実家へ顔を出してきました。
BOX3発コンプリートされましたか！私はThe Aerosol Grey Machine: 50th Anniversary Edition だけはさすがにパスせぜるを得ませんでしたが、やはりNYNNだけで手一杯です。しかも、最近ドイツの音楽誌に載ったインタビューを読んだ海外ファンによると、来年VdGGの新譜も「出したいと思っている」「が未来のことはどうなるかわからない」とあいかわらずのはぐらかしようで、ちょっと楽しみですね。

そしてXTC。TC&Iの活動は無期限休止に入ったColinとTerryですが、Terryのほうはせっかく揃えたドラムセットとマスターしたXTC後期（Colin）レパートリーもあるのでいいメンバーさえ集まればライブ活動再開したい様子です。彼が歌わないので魅力的なヴォーカリスト次第でしょうか。

Andyはツイッターに嫌気がさして止めてしまいましたが、Complicated Gameの共著者の方によると静かな日々を取り戻し、本来の音楽制作のほうに忙しいそうです。このへんはFacebookのファングループの投稿より。

あまり連続ドラマは観ないのですが、「きのう何食べた？」（内野聖陽のケンジがドハマり）「いだてん」「Digital Tatoo」「腐女子うっかりゲイに告る」と豊作なので楽しんでいます。「なつぞら」はこんなに物事がうまく運ぶものだろうか、と少し斜めに見てしまいますが歴代ヒロインが次々と登場するので飽きません。

* [[12](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C12)]
* **令和もう一月経過**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 5月30日(木)05時10分16秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C19%5C)

というご無沙汰でしたが、１０連休はほぼ実家での大仕事でへとへとでした。それはさておき。

PH/VdGGボックス３発はGWに届きました。待たされましたが未だに消化しきれぬボリューム。とりわけ『NYNN』がとにかく凄くて、これだけで手いっぱい。他まで手が伸びません。弱った。新譜でもFlying LotusやEsperanza Spadlingなど気になるのが出てきてますが。。。

競馬は平成最後の天皇賞(春)と新潟大賞典をなんとかヒットさせて、終わりよければなんとやらでしたが、令和に入った途端にダービーまでG1を４連続大外し。ロジャーバローズはフサイチコンコルド以来の想像を超えたダービー馬の誕生。私には予想不可能。令和は過酷な時代となるのでしょうか。。。今週の安田記念はさすがに堅いと思うけど、アーモンドアイ＆ダノンプレミアム以外で決まったりしたらどうなるのでしょう。。

TVドラマは今クールもNHKと深夜ドラマの２極化の様相。とくに「なつぞら」と「いだてん」は相変わらず面白い。「なつぞら」は十勝編が良すぎたので上京編はどうなるかと思いましたが、今のところは杞憂。咲太郎のあまりにも寅さんぶりには笑ってしまったが。「いだてん」の駅伝編～女子体育編への変遷も実にスムーズ。阿部サダヲ編も楽しみ。ところで先週の岡田準一版「白い巨塔」でしたが、この間のヒガシ＆ケンティー版「砂の器」同様、時代設定を現代にしつつも登場人物の精神を昭和のままに留めているので、なんだかおかしな感じに。野坂教授の女性化や電子カルテの導入などの改変や、相変わらず過剰な鶴橋演出とか面白かったですが。あと妻の杏子役の夏帆がケイ子役の沢尻エリカとぶつかるシーンは緊張感があってかなり良かったです。

映画は令和最初もエンドゲームで3D IMAX版を鑑賞。最高としか言いようがありません。もう一回見に行ってもいいぐらいですが、明日には洋画ゴジラが始まりますからそろそろ気持ちを切り替えないと。いずれにせよエンドゲーム熱のせいで他の映画がおそろかになってしまってますが、それでも「幸福なラザロ」「芳華 Youth」「ドント・ウォーリー」「アメリカン・アニマルズ」と言った傑作・力作はなんとか見てます。あと「コンフィデンスマンJP ロマンス編」も。まあ去年の「万引き家族」以降、「コードブルー」に「マスカレードホテル」「翔んで埼玉」とフジテレビ映画が完全に息を吹き返した様子です。

* [[11](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C11)]
* **ゴールデンウィーク、天皇賞、エンドゲーム、2019年3月～4月に劇場で見た映画**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 4月29日(月)04時41分29秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C18%5C)

平成最後＆令和最初のGWが始まりました。なんだかどこもかしこも浮き足立っている感じがしないでもありません。

> あと、天皇賞（春）はどうなる？
> 普通には昨年の菊花賞上位3頭のフィエールマン、エタリオウ、ユーキャンスマイルの争いになりそうですが、
> そこをなんとかメイショウテッコンやクリンチャー、グローリーヴェイズ辺りに間に入ってほしいとおもうところです。

という訳で今年は淀で現地観戦しました。本命馬フィエールマンに食らいついたのはグローリーヴェイズ！ということで願いは叶った形でしたが、あそこまで大接戦になるなら負かして欲しかったところ。それにしてもルメールは凄まじい。2年前のアドマイヤミヤビ→ソウルスターリング→レイデオロ、去年秋のアーモンドアイ→フィエールマン→レイデオロ、そして今回のグランアレグリア→サートゥルナーリア→フィエールマンと、3週機会連続のG1制覇の達成がこれで三度目。武豊以来の8大競走完全制覇まで達成とは恐れ入った。
でもそれ以上に、京都競馬が終わって1時間後の、香港のクイーンエリザベス二世Cでのウインブライト優勝の方が盛り上がってしまいました。競馬場に居残った少数のマニアックな海外競馬好きが、その瞬間に拍手してましたです。よかったよかった。

> 明後日にはアベンジャーズの最終作が始まるのに。。。

という訳でエンドゲームも見てきましたが、はやり物凄かった。本格的なユニバース物を作るには、これほどまでの事を仕掛けなければならないのかという。想像していた結末よりはまだよかったけど、それでも明らかにいくつかの物語の終焉に立ち会ったのは間違いなかったし、さすがに感慨無量です。
> なんというか当たっても外れも嬉しくない感じ。
などということは無かったです。とても良い終わらせ方でした。これ以上は何も言えねえ。

> 映画が大変なことになっています。例年同様、3月と4月に話題作が集中して追い付かない状態です。見たい映画の積み残しが溜まっています。

この2ヶ月で、劇場で旧作を含めて実に30作も見てました。これでも追い付かないかという。どれもハイレベル。そして今年は奇しくも似たようなカテゴリーの映画が集まったようです。

・異なる年代での米国黒人差別（グリーンブック、ブラッククランズマン、ビールストリートの恋人たち）
・異なる時代のブリテン島の女王たち（ヴィクトリア女王 最期の秘密、女王陛下のお気に入り、ふたりの女王）
・イラク戦争事件の内と外（バイス、記者たち）
・立ち上がる女たち（キャプテン・マーベル、ビリーブ、マイ・ブックショップ、あなたはまだ帰ってこない、立ち上がる女）
・彷徨える少年たち（ビューティフル・ボーイ、荒野にて、ある少年の告白）
・女性を消す者ども（ミスターガラス、サスペリア、バーニング劇場版、ザ・バニシング消失）
・孤立無縁への漂流（ともしび、岬の兄弟、運び屋、魂のゆくえ、荒野にて）
・立ち退きの憂き目（ジャクソンハイツへようこそ、メリー・ポピンズ リターンズ、マイ・ブックショップ）
・ヒーローの再定義（ミスターガラス、スパイダーバース、レゴムービー２、シャザム！）
・ここでこの曲を流すのか（バーニング劇場版、ビューティフル・ボーイ、魂のゆくえ、ウトヤ島）
・気合の入ったエンドクレジット（スパイダーバース、レゴムービー２、シャザム！）

※最後に３月～４月に劇場で見た映画の星取り表を。

◎３月
ともしび　★★★★
天国でまた会おう　★★★★☆
顔たち、ところどころ　★★★★
岬の兄弟　★★★★☆
スパイダーマン:スパイダーバース(3D IMAX)　★★★★★
ROMA/ローマ　★★★★★
グリーンブック　★★★★☆
運び屋　★★★★
キャプテン・マーベル　★★★★
ふたりの女王 メアリーとエリザベス　★★★☆
ブラック・クランズマン　★★★★☆
ビリーブ 未来への大逆転　★★★★

◎４月
ウトヤ島、7月22日　★★★☆
たちあがる女　★★★★☆
バンブルビー(吹替)　★★★★
ショーン・オブ・ザ・デッド　★★★★★
あなたはまだ帰ってこない　★★★★
記者たち ～衝撃と畏怖の真実～　★★★☆
マイ・ブックショップ　★★★★☆
レゴ(R) ムービー2(吹替)　★★★★
ダンボ(吹替)　★★★☆
バイス　★★★★☆
ビューティフル・ボーイ　★★★★
魂のゆくえ　★★★★☆
荒野にて　★★★★☆
ザ・バニシング -消失-　★★★★☆
まぼろしの市街戦　★★★★★
シャザム！　★★★★☆
ある少年の告白　★★★★
アベンジャーズ/エンドゲーム　★★★★★

* [[10](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C10)]
* **令和まで7日、天皇賞まで4日、エンドゲームまで2日**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 4月24日(水)23時55分19秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C17%5C)

というタイミングで今晩は。PHとVdGGの各ボックス未着のまま、平成の世が終わろうとしています(汗)。先に引き落としされるようですが平気かしら、まだかなまだかな、と言う感じです。”Niagara Concert '83”も何時になりますやら。。。。

と打った矢先、「ボヘミアン・ラプソディ」Blu-Rayは早速入手してしまったわたくし(汗)。お目当てはやはりボーナス映像のLive Aidシーン完全版。6曲全部のシーンもきちんと作られていたことに驚愕。このまま上映して頂いて問題のないクオリティでした。むしろ削るのが勿体無いぐらい。そしてLive Aidシーンのメイキングも、凄まじいばかりの手間と作り込み。改めてこのシーンが最初の収録だったことに唖然とします。てな具合で本編よりもボーナスとメイキングばかり見まくってます。

朝ドラ「なつぞら」は期待を軽く超える出来栄えに大満足です。しょっぱなからジブリオマージュかいなというハイジ/火垂る/風立ちぬ設定を乗り越え、早くもなつとその兄弟の運命と柴田家の関わりに興味津々。歴代朝ドラヒロイン達以上に、昌幸＆おんじ丸出しのツンデレかという草刈さんに予想外にぐいぐい引っ張られる勢いで、そういえば近年の朝ドラは、松坂慶子、豊川悦史、中村雅俊、宮本信子、和久井映見、唐沢寿明などなど、サブに控えつつも強烈過ぎるベテラン陣がドラマの推進力になっていることが思い出されます。きっとこの作品も成功することでしょう。そして案の定、チビなつを演じた子役も既に大注目で、田中圭と一緒にアイスのCMに出たりと前途洋洋。ずっと応援していた仮面ライダーメテオ吉沢亮が満を持して朝ドラに登場するのも嬉しい。ビルト犬飼ともども頑張って頂きたいです。

と朝ドラと、1/3を終えて早くも次章に進んだ「いだてん」に、いきなりフジ？への怨念を爆発させた「やすらぎの刻」を除くと、現クールは冬クール以上のスロースタート模様。「おっさんずラブ」旋風が一年を経て普通に男のゲイor女装ドラマが４つほど同時進行するという攻めた状況になってはいます。医療系が多めなのも「アンナチュラル」から一年と1/4を経たから？だいだい出揃った中では「俺のスカート」「定時」「何食べた」「腐女子」「パーフェクト」「インハンド」「賭ケ」「ミタゾノ(シーズン3!)」等に期待。

映画が大変なことになっています。例年同様、3月と4月に話題作が集中して追い付かない状態です。見たい映画の積み残しが溜まっています。明後日にはアベンジャーズの最終作が始まるのに。。。取りあえず3月上旬が一つの個人的ハイライトで、「ROMA/ローマ」の劇場公開と、「岬の兄妹」のシネコン上映、そして「スパイダーマン：スパイダーバース」のIMAX上映を立て続けに観賞し、「映画館で映画を見る醍醐味」を十二分に堪能いたしました。ありがとうイオンシネマ茨木！ありがとう109シネマズエキスポシティ！(どっちも遠かったけど、わざわざ遠征した甲斐がありました）あとついに鑑賞できたのが「まぼろしの市街戦」。待っていてよかった。狂おしくもほろ苦い傑作でした。"まぼろし"つながりでドアーズの「まぼろしの世界」を連想したり。そして「ショーン・オブ・ザ・デッド」の初の劇場公開もありました。最高のQueen "Don't Stop Me Now"をスクリーンで見られて嬉しい限り。

あと4月上旬で今年のアカデミー作品賞ノミネートを全作品映画館で観賞完了。例年より早いです。素晴らしい。日本の配給会社の努力の賜物でしょう。ありがとう。ざっと見た感じでは「ROMA/ローマ」が明らかに抜けていました。その次が「ブラッククランズマン」と「グリーンブック」。あとは他の5作が横一線といったところ（どれもよかったです）。ですが、個人的には「ブラック」や「グリーン」と同程度ながらもっと深くはらわたを抉られた気がしたのは非ノミネートの「ビールストリートの恋人たち」でしたし、ノミネート8作品以上に深く刺さったのが「ファースト・マン」でした。まあ詮無い話ですが。

アベンジャーズ／エンドゲームはどうなるんでしょうね。思うにサノスの消されずに残ったヒーローの中に、アイアンマン/ハルク/ソー/キャップ/ウィドー/ホークアイの初代アベンジャーズ6人が残っている訳で、この６の数はサノスの掌の中にある６つのインフィニティストーンに呼応すると思われるので、一人一殺ならぬ一人一石みたいな感じで、それぞれがなんらかの犠牲を払うことで石を無効化するor二度と手に入らないようにするなどの結果をもたらすのではないかという嫌な予感がして、すでに暗い気持ちになっています。なんというか当たっても外れも嬉しくない感じ。あと数日、黙して待つしかないです。

あと、天皇賞（春）はどうなる？平成最後のG1なのに、平成の盾男の武豊が参加しないという残念すぎるお膳立て。JRAも心無しか宣伝に身が入っていない？普通には昨年の菊花賞上位3頭のフィエールマン、エタリオウ、ユーキャンスマイルの争いになりそうですが、そこをなんとかメイショウテッコンやクリンチャー、グローリーヴェイズ辺りに間に入ってほしいとおもうところです。

* [[9](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C9)]
* **怒涛のリリース**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年 4月12日(金)11時44分56秒
* FL1-111-168-204-91.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C16%5C)

VdGGの初期ボックスに次いで Isildurs Bane & Peter HammillのIn Amazonia（緑色のアナログ盤は限定300枚らしく、私が見た時にはBurning Shedからすでに完売済でした）リリースと、さすがにお金が続かないので静観しております。ショーケンの闘い（亡くなる3日前にNHKに渡していた10年間に及ぶ闘病記録、いつか完全版を観たいものです）にも、内田裕也のロックンロール葬での也哉子さんによる弔辞にも、思うところ多かったです。

広瀬すずにバトンタッチするまで子役たちが好演している朝ドラは歴代ヒロインも登場するという話も楽しみです。東京に残ったなつの兄が「西郷どん」の子ども時代を演じていた子と同じだったとは不覚にも気づきませんでした（大きくなっているしー）。

* [[8](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C8)]
* **ショーケン、ユーヤ、スバル座、そして再びジャニス**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 3月30日(土)05時29分56秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C15%5C)

3月というタイミングでイチロー引退というのが象徴的ですが、今年になって早々、「平成」の内に滑り込むかの如く、様々なものが次々と終わりを告げるのを目の当たりにすると、どうしてもいろいろな意味を勝手に見出してしまいます。

内田裕也に続いて萩原健一まで。ショーケン自身、内田裕也の逝去に触れて(物騒な)追悼コメントを出したのを見たばかりなので、キツネにつままれたような気分。内田裕也はある程度覚悟は出来てましたけど、ショーケンはNHKの「不惑のスクラム」での好演を見たばかりだからなあ。思えば末期がん患者役だったですが。内田裕也はソロのレコードは所有してないのですが、ショーケンは70年代後期のライブ盤などを結構愛聴してました。柳ジョージやBOROの楽曲などは素晴らしい解釈だったと記憶します。俳優としてはマカロニ、傷天、前略などのTVドラマはもちろん忘れられないけど、はやり「青春の蹉跌」かな。あと「八つ墓村」と「誘拐報道」、「カポネ大いに泣く」なんてのもありました。内田裕也は「十階のモスキート」と「コミック雑誌なんかいらない」ですかね。この頃の輝きを思い出すと、平成に入ると二人とも存在感が大幅に薄れてしまった感が正直言って否めません。なんででしょうね。平成元年に松田優作が亡くなり、その後も勝新太郎、原田芳雄、高倉健、菅原文太、松方弘樹、渡瀬恒彦らが続々と退場。大杉漣もか。こうした人達が消え去っていく時代が平成なのだという再定義もなされていくかもですね。（と書いたけど、森繁、渥美、三船、萬屋、緒方、三国といった大物も普通に平成内に命日があるわけなので、単に年上の人々が亡くなっていることに、過剰に感傷的になっている、気も少しはありますが）ご冥福をお祈りします。

平成とともに去る物に、老舗の映画館の名前が聞かれますが、多くの東京の映画館の閉館ニュースには、まあしょうがないよね、程度に軽く聞き流してましたが、このたび、有楽町のスバル座が無くなる事については結構動揺しました。80年代に通っていたミニシアターとしては、「ミツバチのささやき」「エル・スール」「三人の女」などを見た六本木シネヴィヴィアン(既に閉館)、「ベルリン天使の詩」で有名なシャンテ・シネと並んで、新作映画をよく見た場所でした。あの「未来世紀ブラジル」はここでした。あと「ストレンジャー・ザン・パラダイス」と「ダウン・バイ・ロー」。先日、イオンシネマ系で限定公開された「ROMA/ローマ」を見た際には、なぜかあの頃にミニシアターで見た映画の数々が恐ろしいほどにフラッシュバックしてきたのでした。そういうこともあり、一層懐かしさと哀しさに心乱れてしまった次第です。そしてスバル座ほどの名門でも持たないなら、関西の老舗ミニシアターはどうなってしまうのかと心配になってきました。

あと最近耳にしたのは、西新宿のライカ・エジソンの閉館。かつてのUK EDISONですね。これまた80年代の音楽雑誌「フールズメイト」「Doll」読者の御用達のレコード屋さんでした。私もかつてはウッドストック、新宿レコード、ディスクロード、キニーなどとともに西新宿ハシゴルートとして押さえていました。あの頃は楽しかったけど辛かった(散財が)。今や店頭に全然行かなくなったので現場のレコ屋事情を知りませんでしたが、メディア自体が売れなくなってるんですかね。(しつこくて済みませんが)PHやナイアガラなど毎年お布施か定期購読のように新作購入している者としては、わかるようなわからないような。
その流れから、昨年秋閉鎖報道が流れた御茶ノ水ジャニスに関して、このお店の様子を取り上げた「タモリ倶楽部 空耳アワード2018 後編」が、ようやく先週末にABCで放映されました(実に4か月遅れ…）。空耳アワーの放送はジャニスの多岐にわたる大量のストックに支えられてきたのだとか。ということでコーナーの死活の危機なのだとか。4か月遅れの国の住民からは最新状況は不明も、ジャニスとともに空耳が消えたら笑えないですね。放送ではジャニスの副店長さんが昔よりふっくらされたことが印象的でした(←失礼しました）。

* [[7](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C7)]
* **新元号まであと一週間切りました**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 3月27日(水)02時05分21秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C14%5C)

と言われるとドギマギしますね。もはや日常でも仕事上でも元号を直接意識することはないのですが、なんやかんや言っても人生の大半を「平成」の中で生きてきた者としては、一抹の寂しさがよぎってしまいます。

もう8枚組ボックス入手されましたか。楽しみですね。私も注文していますが、例の『The K Box』、さらにあの『エアロゾル』のBOXとまとめて予約したためまだまだ先になりそうです。それにしても「カツアゲか！？」と言いたくなるほどのリリースラッシュ。この影響で『ナイアガラ・コンサート'83』も当面見送り(笑)。かつては『太陽と戦慄コンプリートレコーディング』１５枚組(!)を「そんなに聞いている時間を作れないよ」と断念した人間ですが、既にそれを上回るボリュームになっているような気が(汗)。

世間はすっかり春で、センバツもG1シーズンもスタート。寒空の中の初日に甲子園に行きましたが、強豪の春日部共栄と履正社がいきなり姿を消す波乱模様。そして星稜 奥川投手の１７奪三振快投を目に焼き付けることができました。早くも去年の金足農 吉田投手級の注目を集めそうですね。競馬の方は高松宮記念G１で、前走１番人気７着からの巻き返しを見込んで新興勢力のミスターメロディを本命視した結果、久しぶりにG1での馬連万馬券的中です。春G１戦線幸先良し！ありがとう福永＆幸！(連対騎手名もメデタイ！)

冬ドラマもテレ東系深夜群を除いて一通り終了といったところ。「まんぷく」もヌードル完成でもうすぐゴール。結局のところ放送期間中に池田のカップヌードルミュージアムに行きそびれてしまっており、どうか放送後もまんぷくタイアップを継続して欲しいところ。次の「なつぞら」は通算１００作目ということもあり、松島菜々子を始め、比嘉愛未、貫地谷しほり、小林綾子、そして山口智子と歴代朝ドラヒロイン多数投入という異様な力の入れっぷり。その上に大森寿美男脚本ということで「てるてる家族」級の傑作への期待も高まります。

他のドラマの評価は、順当にこれまで書いた通りですが、個別にちょっと気になったことを少しだけ追記しますと

・「イノセンス 冤罪弁護士」"ガリレオ"風味ながらもシリアスな法廷ドラマとして拝見しましたが、黒川・和倉・秋保・有馬・城崎・別府・湯布院・指宿・阿蘇・雲仙・乗鞍と、レギュラーのみならずゲスト出演者を含めてほぼ全員がベタベタな温泉名or火山名なので、「温泉と火山の擬人化ドラマ」として受信してしまい、落ち着いて見ることが出来ませんでした(笑)。

・「スキャンダル専門弁護士 QUEEN」初回はSMAP謝罪会見、２話は伊藤詩織、３話は「アイ、トーニャ」、7話はPayPay、8話は東京医大等々、露骨な元ネタ示唆が気になるドラマだなと思ったら、最後の最後に出してきた「私の仕事は何手も先を見越して～」というキメ台詞と切り札の披露がもろに『女神の見えざる手』そのままで、最終的にはああいう話がやりたかったんだなと読めました。

・「相棒17」シーズン最終回はいつも普段と様子が違うのですが、とりわけ今回はSF由来サスペンスオマージュというなかなか不思議な作風で、中盤になってようやく『12モンキーズ』＋『ヴィレッジ』の線かとわかりましたけど、それでも3月20日に前者のモチーフをぶっこむ当たりは東映流とはいえ、えらい挑発的だなと思いました。

・「ハケン占い師アタル」世間や常識を超越した女主人公による洗礼・救済が毎話一人ずつ順次施されていき、終盤では救済された側が恩返しとして主人公の方を救済し返すという流れが、初回を見ただけで予測できてしまうほど基本に忠実な遊川和彦テンプレートドラマなんですが、「超能力」というかつて『純と愛』で扱いそびれたアイテムの再利用と、救済時のルーティンとして「大事なもの(と規定することで自分を束縛していた物)を一つ捨てさせる」ことを課すことで、遊川的悪趣味よりも、切なくも前向きな再生への希求みたいなものが強く共有でき、後味悪くなく見ることが出来た感じです。とはいえ、例えば去年の「ぎぼむす」の到達点と比べてどうだったか等はちょっと考えてみたいところ。

映画ネタはいろいろありますのでまた別途。

* [[6](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C6)]
* **Not Yet Not Now**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年 3月22日(金)13時16分19秒
* FL1-111-168-204-91.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C13%5C)

ｗさん、こんにちは（前掲示板最後の投稿転載ありがとうございます！）
神戸大阪京都をまた1泊で弾丸してきたら、娘の引っ越しと異動でバタバタしています。
引っ越しも異動も同じ市内ゆえ、荷物は少しずつ暇を見て運び込むとして、気ぜわしい年度末です。

ところでSofa Soundに予約していたPeter Hammillの8枚組ライヴCD BOXがもう届いて
舞い踊っております。
しかも、3枚にはhidden track（去年神保町の少人数ライヴで演奏したレア曲3曲）で
さらに舞い狂うという……

* [[5](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C5)]
* **前掲示板の最後の書き込み**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 3月10日(日)03時37分22秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C12%5C)

余命一日の書き込みでしたが、忘れ去れるのも忍びないので保存したものをコピペしました。

[No.140] 答え合わせと、2019年1月～2月に劇場で見た映画　NEW!
w
2019/02/28(木) 01:39
> ところで先日この無料掲示板が月末をもち終了する旨の通知を受けとりました。

なんと！本日までですか。閲覧もできなくなるでしょうか。残念ですね、という思いを込めて、最後の書き込みいたします。
まずは前回の書き込みの答え合わせを。

※キネ旬ベストワンの結果
・邦画
１位　○万引き家族
２位　　菊とギロチン
３位　▲きみの鳥はうたえる
４位　◎寝ても覚めても
５位　△孤狼の血
17位　△カメラを止めるな！

・洋画
１位　◎スリー・ビルボード
２位　△ペンタゴン・ペーパーズ
３位　○シェイプ・オブ・ウォーター
４位　△ファントム・スレッド
５位　　ボヘミアン・ラプソディ
６位　×15時17分、パリ行き

邦画は３連単だと○→無印→▲なので２着抜け(笑)。○「万引き」は少し敬遠されるかと想定したのですが◎「寝ても」と逆の結果。「菊とギロチン」は確かにキネ旬好みのテーマと思いつつも、◎や▲より上に来るとは予想外でした。さらに「カメ止め」の評価の低さも想像を超えましたが、読者選出ベストでは２位だったので、こちらの順位の方がしっくりきます。

洋画は◎→△→○でしたから的中(笑)。◎「スリービルボード」は読者選出でも１位でしたし、頭鉄板でした。５位と６位が入れ替われば５連単でも的中！しかし「ボヘラブ」の高評価には恐れ入りました。こういう音楽メインモノはキネ旬では人気無いかとおもったけど、凄い。キネ旬ではこういう心揺さぶるようなエモさ際立つ作品が上位に来ることがありますね。「マッドマックス/怒りのデスロード」や「ラッシュ/プライドと友情」とか「第９地区」とか。。。。

※アカデミー賞作品賞の結果
○「グリーンブック」が受賞でした。国内公開は明日からなので内容は不明ですが、下馬評からは順当そう。個人的にはキュアロンの◎「ローマ」が作品賞を取った方が新しい時代の始まりぽかったですが。でも今回は全体的に順当というか無風決着だったのでは。作品賞候補８作はすべて何かしら賞を獲得したので無冠は無かったし。候補に漏れた「ファーストマン」と「ビールストリート」も賞を取れたし。

ちなみ今回は全部門の予想をしたので列挙します。◎○▲の印をつけたどれかが受賞(＊)しました。
・作品賞
　◎ROMA ローマ
＊○グリーンブック
　▲女王陛下のお気に入り
・監督賞
＊◎アルフォンソ・キュアロン（ROMA ローマ）
　○ヨルゴス・ランティモス（女王陛下のお気に入り）
　▲スパイク・リー（ブラック・クランズマン）
・主演男優賞
＊◎ラミ・マレック（ボヘミアン・ラプソディ）
　○クリスチャン・ベール（バイス）
　▲ヴィゴ・モーテンセン（グリーンブック）
・主演女優賞
＊◎オリヴィア・コールマン（女王陛下のお気に入り）
　○グレン・クローズ（天才作家の妻 40年目の真実）
　▲レディー・ガガ（アリー スター誕生）
・助演男優賞
＊◎マハーシャラ・アリ（グリーンブック）
　○サム・エリオット（アリー スター誕生）
　▲リチャード・Ｅ・グラント（ある女流作家の罪と罰）
・助演女優賞
＊◎レジーナ・キング（ビール・ストリートの恋人たち）
　○エイミー・アダムス（バイス）
　▲レイチェル・ワイズ（女王陛下のお気に入り）
・脚本賞
＊◎グリーンブック
　○女王陛下のお気に入り
　▲魂のゆくえ
・脚色賞
　◎ビール・ストリートの恋人たち
＊○ブラック・クランズマン
　▲ある女流作家の罪と罰
・撮影賞
＊◎ROMA ローマ
　○女王陛下のお気に入り
　▲COLD WAR／あの歌、2つの心
・編集賞
＊◎ボヘミアン・ラプソディ
　○女王陛下のお気に入り
　▲ブラック・クランズマン
・美術賞
　◎女王陛下のお気に入り
　○ファースト・マン
＊▲ブラックパンサー
・衣装デザイン賞
　◎女王陛下のお気に入り
　○メリー・ポピンズ リターンズ
＊▲ブラックパンサー
・メイキャップ＆ヘアスタイリング賞
＊◎バイス
　○ふたりの女王 メアリーとエリザベス
・視覚効果賞
＊◎ファースト・マン
　○アベンジャーズ インフィニティ・ウォー
　▲レディ・プレイヤー1
・録音賞
＊◎ボヘミアン・ラプソディ
　○ファースト・マン
　▲ブラックパンサー
・音響効果賞
＊◎ボヘミアン・ラプソディ
　○ファースト・マン
　▲ブラックパンサー
・作曲賞
　◎ビール・ストリートの恋人たち
＊○ブラックパンサー
　▲メリー・ポピンズ リターンズ
・主題歌賞
＊◎「Shallow」（アリー スター誕生）
　○「All the Stars」（ブラックパンサー）
　▲「When a Cowboy Trades His Spurs for Wings」（バスターのバラード）
・アニメーション映画賞
＊◎スパイダーマン：スパイダーバース
　○犬ヶ島
　▲インクレディブル・ファミリー
・外国語映画賞
＊◎ROMA ローマ
　○万引き家族
　▲COLD WAR／あの歌、2つの心
・ドキュメンタリー映画賞（長編）
　◎RBG 最強の85才
＊○Free Solo
　▲Minding the Gap
・ドキュメンタリー映画賞（短編）
＊◎Period. End of Sentence.
　○End Game
　▲Black Sheep
・短編映画賞（実写）
　◎Marguerite
＊○Skin
　▲Detainment
・短編映画賞（アニメーション）
＊◎Bao
　○Weekends
　▲Animal Behaviour

※２月のあれこれ
今月はいろいろ大変で、ドラマも音楽も映画もほとんど世間に追従できず。映画はようやく話題に追いついてきましたが、ドラマは「まんぷく」も「いだてん」もまだ途中です。でもNHKと民放深夜が面白いというのは明らかでしょう。NHKは上２作以外にも「トクサツガガガ」「みかづき」「ブシメシ！２」「ゾンビが来たから人生見つめ直した件」とどれも面白いです。民放深夜はテレ東系の独壇場で「フルーツ宅配便」「日本ボロ宿紀行」「面白南極料理人」の総てが独走態勢で素晴らしい。後はテレ朝系の「私のおじさん」とMBS系の「Back Street Girls」ですね。相対的に民放ゴールデンは弱く、「3年A組」とか遊川ドラマとかに引っ掛かりを覚えるところはあるけれど。。。あと今年の「相棒」はちょっと異色というか、角田・伊丹・内村
等のレギュラーメイン回と、大物ゲストメイン回(しかし真犯人はほぼいつも別の人)が交互に来る感じ。なんだか総まとめ感が強いのでドキドキします。

映画は前述通り、ようやく人気作・評判作に追いついたところで、特に「サスペリア」「ジュリアン」「バーニング」「ギルティ」などは評判通りの素晴らしさ。アカデミー賞受賞作ではランティモスがデル・トロやヴィルヌーヴの次を担うポジションまで来たことを告げる「女王陛下のお気に入り」もさることながら、作品賞候補から漏れた「ファースト・マン」と「ビール・ストリートの恋人たち」に強い感銘を受けました。どちらも２年前のオスカーを争った監督の新作だけど個人的には「ラ・ラ・ランド」と「ムーンライト」を上回った印象です。エンタメ系では盤石の「アクアマン」と「メリーポピンズ」、そして「翔んで埼玉」も結構楽しみました。

音楽はほとんど聞けてないです。星野源の新作もまだ。K-GroupのBoxも未入手。ただ「Enter K」は初めてリアルタイムで聞いたPH作品なので、この時期の思い入れは強いです。当時のPHを雑誌媒体で取り上げてたのって、北村昌士さんと赤岩和美さんぐらいだったんじゃないでしょうか。近々手にいれます。

※最後に１月～２月に劇場で見た映画の星取り表を。
◎１月
シシリアン・ゴースト・ストーリー　★★★★
未来を乗り換えた男　★★★★☆
蜘蛛の巣を払う女　★★★
クリード 炎の宿敵　★★★★
マイル22　★★★☆
ミスター・ガラス　★★★★☆
バジュランギおじさんと、小さな迷子　★★★★
マスカレード・ホテル　★★★
サスペリア　★★★★☆
天才作家の妻 -40年目の真実-　★★★★

◎２月
ヴィクトリア女王 最期の秘密　★★★☆
ジュリアン　★★★★
ニューヨーク、ジャクソンハイツへようこそ　★★★★
メリー・ポピンズ リターンズ　★★★☆
バーニング 劇場版　★★★★★
ファースト・マン　★★★★★
アクアマン　★★★★
女王陛下のお気に入り　★★★★☆
ビール・ストリートの恋人たち　★★★★☆
THE GUILTY ギルティ　★★★★☆
翔んで埼玉　★★★☆

ではまたいつか。

* [[4](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C4)]
* **Re: Peter Hammill-"La Rossa" Live in Warsaw-Poland 2.03.2019**
* 投稿者：w
* 投稿日：2019年 3月 8日(金)02時07分6秒
* p1371209-ipngn200904kobeminato.hyogo.ocn.ne.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C11%5C)

すばらしいですね。どちらもいい音です。

* [[3](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C3)]
* **Peter Hammill-"La Rossa" Live in Warsaw-Poland 2.03.2019**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年 3月 6日(水)09時19分22秒
* FL1-111-168-204-91.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C8%5C)

こちらは2019年3月2日ワルシャワ公演
La Rossa

[https://www.youtube.com/watch?v=SOvlKx2rnXk](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%3FM%3DJU%26JUR%3Dhttps%3A%5Cwww.youtube.com%5Cwatch%3Fv%3DSOvlKx2rnXk)

* [[2](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C2)]
* **An evening with Peter Hammill - Krakow - 3.3.19**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年 3月 6日(水)09時10分29秒
* FL1-111-168-204-91.aic.mesh.ad.jp
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C6%5C)

Been Alone So Long
Primo on the Parapet
Traintime
Last Frame

[https://www.youtube.com/watch?v=wM9YWsVRo8M](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%3FM%3DJU%26JUR%3Dhttps%3A%5Cwww.youtube.com%5Cwatch%3Fv%3DwM9YWsVRo8M)

* [[1](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Ct2%5C1)]
* **新規スレッド作成**
* 投稿者：ぱと
* 投稿日：2019年 3月 2日(土)07時20分48秒
* FL1-111-168-204-91.aic.mesh.ad.jp
* [編集済](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cexplain%5Cindex%5Ccomm_id%5C3%5C)
* [返信](file:///C%3A%5Csensesworking%5Cbbs%5Cthreadpost%5Cindex%5Cthread_id%5C2%5Ccomm_id%5C3%5C)

掲示板と別にスレッド作成が可能でしたので、「wさんジャーナル（その3）」もつくりました。
（sage機能があるところなど、某巨大掲示板のようです）

アップロード可能な形式(各4MB以内)： 画像(gif,png,jpg,bmp) 音楽(mmf,mld) 動画(amc,3gp,3g2)

前の掲示板投稿は完全に削除される前に保存していますが、形式が適用外で残念 

 1-100件